

実践資料編

P 1～16 小学部

P17～22 中学部

P23～40 高等部



題材の目標		育成を目指す主な教科等の資質・能力	
①いろいろな素材の感触や特性に親しみ、素材も形状が変化することや、その感触の違いに気付く。 ②手指や体全体を使って楽しく遊ぶ。 ③教師や友達と関わりながら、一緒に活動することを楽しむ。	知	①【生活:小学部:1段階】身の周りの遊びや遊び方について関心をもつこと。	
	思	②【生活:小学部:1段階】身の回りの遊びに気付き、教師や友達と同じ場所で遊ぶこと。	
	主	③【図工:小学部:1段階】材料などから表したいことを思い付くこと。	
	主	④【図工:小学部:1段階】進んで表したり見たりする活動に取り組み、つくりだすことの楽しさに気付くとともに、形や色などに関わることにより楽しい生活を創造しようとする。	

時	日付	主な学習内容	○手立て・留意点	教科
1	9/13 (火)	○オリエンテーション ①感触遊びの4つの活動の内容を知り、学習活動への見通しを持つ。 ②感触遊びの歌(「きらきらぼし」の替え歌)を歌う。	○毎時間4つのイメージ画像を提示することで、学習内容を視覚的に理解できるようにする。 ○ぷるるん、こなこな、べたべた、くしゅくしゅランドのイメージ画像とともに、寒天ゼリーや米粉、絵の具、丸めた新聞紙等、授業で実際に使用する素材の一部を提示することで、学習への見通しを持つことができるようにする。 ○感触遊びの歌を歌うことで、楽しく学習に取り組める雰囲気作りをする。	生
2 3	9/14 (水) 9/15 (木)	○ぷるるんランドで遊ぼう(保冷剤・寒天ゼリー) ①保冷剤でセンサーバッグを作って遊ぶ。 ②寒天ゼリーに触ったり混ぜたりして色の変化を楽しんだり、型抜きをしたりして遊ぶ。	○2時間扱いのうち、最初はジップ袋等の上から素材を触るようにし、直接接触することへの抵抗感を和らげる。また、手が汚れて活動が中断しないように、各児童の手元にお手拭きを用意しておく。(毎時間共通) ○教室の床にビニールシートと大きめの容器を用意し、手全体で感触を楽しめるようにする。 ・誤食対応のため、寒天と食紅を使用する。 ・直接接触することのできない児童は、無理強いをせず、ジップ袋の上から寒天に触ったり、スプーン等を使って楽しんだりできるようにする。	生・図
4 5	9/22 (木) 9/29 (木)	○こなこなランドで遊ぼう(米粉) ①米粉に触りサラサラの感触を楽しむ。米粉に水を混ぜて感触の変化を楽しむ。 ②米粉粘土に食紅を混ぜて、色の変化を楽しむ。	○教室の床にビニールシートと大きめの容器を用意し、手全体で感触を楽しめるようにする。 ○米粉に少しずつ水を入れながらこねたり、食紅を混ぜたりすることで、形状や感触及び色の変化に気付くことができるよう、言葉掛けしながら活動する。 ・児童の小麦アレルギー対応のため、米粉を使用する。	生・図
6 7	9/30 (金) 10/4 (火)	○べたべたランドで遊ぼう(絵の具) ①画用紙と絵の具を透明ポリ袋の中に入れ、上から指で触って色を混ぜ、絵を描く。 ②絵の具を手や足に付け、絵の具の感触を楽しむとともに手や足を使って絵を描く。	○透明ポリ袋の中に絵の具を乗せた画用紙を入れ、袋の上から絵の具を触ることで、手が汚れることへの抵抗感を無くし、絵の具の感触と色の変化を楽しむことができるようにする。 ○床にビニールシートと模造紙を敷き、汚れてもよい服装で実施する。手や足に絵の具を付けて十分に感触を味わえるようにする。 ・児童のアレルギー対応のため、ゆびえのぐを使用する。	生・図
8 9	10/5 (水) 10/13 (木)	○くしゅくしゅランドで遊ぼう(新聞紙) ①新聞紙を破いたり、丸めて投げたりして遊ぶ。 ②新聞紙をちぎり、ばらまいたり、飛ばしたりして遊ぶ。(授業研)	○広げた新聞紙を破いたり、丸めて投げたりする遊びを通して、新聞紙の形状の変化や音や感触を体全体で味わえるようにする。 ○教師が言葉掛けしながら一緒に新聞紙をちぎることで、新聞紙の形状の変化に気付くことができるようにする。ちぎった新聞紙の中に潜ったり、逆さまにした傘の中に入れて回転させて降らせたり、送風機で飛ばしたりすることで、様々な遊び方を体験できるようにする。 ・新聞紙の誤食に気を付ける。	生・図・体
10	10/17 (月)	○4つの活動(こなこな・ぷるるん・べたべた・くしゅくしゅ)の中から自分がもう一度遊びたい活動を選んで遊ぶ。	○事前に児童の希望を把握し、活動を2つに絞る。 ○2つの活動場所を設定し、前半と後半で活動の時間を区切り、それぞれの好きな遊びを中心に、十分に楽しむことができるようにする。	生・図・体

個	教科	本題材における個別の目標	評価	メモ欄(配慮・具体的な姿など)
A	知	様々な素材を使った遊びに興味を持ち、それぞれの素材の感触を楽しむことができる。		・教師の働き掛けに応じて、新聞紙を破いたり、傘に入れて飛ばしたりして遊ぶ。
	思	教師の働き掛けを受け入れたり、友達の様子を見たりして遊ぶ。		
	主	素材の変化とともに、変わっていく遊びを楽しむ。		
B	知	様々な素材を使った遊びに興味を持ち、それぞれの素材の感触を楽しむことができる。		・教師や友達と一緒に、新聞紙を破いたり、傘に入れて飛ばしたりして遊ぶ。
	思	教師や友達と関わりを楽しみながら、集団での遊びに参加する。		
	主	素材の変化とともに、変わっていく遊びを楽しむ。		
C	知	教師と一緒に様々な素材に触れ、感触の変化に気付く。		・送風機で飛ばす新聞紙を追視したり、もっと飛ばそうと新聞紙をちぎったり、集めたりする。
	思	友達の遊ぶ様子を見て、教師の働き掛けを受け入れて遊ぼうとする。		
	主	素材の変化とともに、変わっていく遊びを楽しむ。		
D	知	素材の感触の違いに気付いて、自分から手を伸ばす。		・新聞紙を破いたり、傘から吹き飛ばす新聞紙片を体に受けたりして楽しむ。
	思	教師の働き掛けを受け入れて、様々な遊びを経験する。		
	主	素材の変化とともに、変わっていく遊びを楽しむ。		
E	知	様々な素材を使った遊びに興味を持ち、それぞれの素材の感触を楽しむことができる。		・送風機や傘で舞い散る新聞紙を手でつかもうとしたり、新聞紙を手ですくってばらまいたり、友達や教師に掛けたりして他と関わりながら遊ぶ。
	思	教師や友達と関わりを楽しみながら、集団での遊びに参加することができる。		
	主	素材の変化とともに、変わっていく遊びを楽しむ。		
F	知	様々な素材を使った遊びに関心を持ち、遊び方を工夫することができる。		・教師の働き掛けに応じながら、新聞紙の中に潜って隠れん坊をしたり、手ですくってばらまいたり、送風機や傘から舞い散る新聞紙を追いつけたりして遊ぶ。
	思	教師や友達と関わりながら遊ぶことの楽しさを感じ取ることができる。		
	主	素材の変化とともに、変わっていく遊びを楽しむ。		
G	知	教師と一緒に資材や用具に触り、いろいろな感触に慣れる。		・新聞紙を教師と一緒に破いたり、扇風機等で飛ばしたりして遊ぶ。
	思	教師の働き掛けを受け入れたり、友達の様子を見たりして遊ぼうとする。		
	主	自分から素材に触れようとする。		
H	知	遊びを通して、身近な素材や用具を使う。		・友達や教師が新聞紙を破くのを見て、自分も破いてみようとする。 ・ビニール傘から舞い落ちる新聞紙を見たり、傘に新聞紙を入れたりする。
	思	友達が遊ぶ様子を見てまねたり、教師の働き掛けを受けて楽しんだりする。		
	主	素材の変化とともに、変わっていく遊びを楽しむ。		
	知			※「本時における児童の目指す姿」を記入。
	思			◎:達成できた ○:概ね達成できた △:達成には至らなかった
	主			

学習評価	知	思	主

※メモ欄に「具体的な姿」として記入

題材の反省(学習内容・手立て・教材・授業時数・指導形態などの視点から)
○単元シートの活用により、個別の目標と目指す姿を担任で共有し、指導に当たることができた。 ○授業の始めと終わりを音楽で知らせることにより、授業の始まりと終わりを意識付けることができた。 ○4つの感触遊びの実施により、段階を踏みながら、個々の机の上で行う感触遊びから教室全体を使った友達との関わりのある遊びへと遊びを発展させて行うことができた。 ○教師との関わりだけでなく、児童同士で関わって遊ぶ姿を引き出すことができた。

【授業シート】		学部・学年・題材名		小学部・1年・感触あそびをしよう		T1	齋藤 裕美
授業日	10月13日(木)	時間	11:00~11:45	場所	1年1組教室	本時	9時間/10時間

本題材に関わる児童生徒の実態及び授業について

- ・本学習集団は、男子4人、女子4人の計8人である。知的障害のほか、肢体不自由を併せ有し、さらに自閉症の診断を受けている児童が在籍しており、実態は様々である。児童の中には、素材に触ることに抵抗を感じる児童や、興味のある物には触りたい、活動したいという積極的な児童がいる。
- ・「感触あそびをしよう」の9時間目にあたるこの時間は、それぞれ2時間ずつ学習してきた4つの感触遊びのうち、4つめの「くしゅくしゅランド」の2時間目である。これまで寒天や米粉、絵の具を使った感触遊びを通して、個から友達との関わり、手元から体全体を使った遊びへと、少しずつ活動の幅を広げてきた。新聞紙を破く音や感触、さらに新聞紙の形状の変化に気付き、友達や教師と関わり合いながら体全体を使った遊びを味わえるようにしたい。また、児童が楽しみながら遊ぶ姿や、工夫して遊ぶ姿、集中して遊ぶ姿を具体的に称賛しながら即時評価することで、意欲を高めたい。
- ・本時の目標に迫るために、以下の点について配慮する。
 - ①見通しを持って授業に取り組むための課題提示の工夫。
 - ②主体的に学習に取り組むための教材の準備や場の設定の工夫。
 - ③友達や教師と一緒に活動を楽しめる工夫と雰囲気作り。
 - ④個別の目標に迫るための単元シートの活用。

本時の目標	関連する題材の目標	関連する資質・能力
○新聞紙を使った遊びに興味をもって活動しようとする。 ○友達や教師と関わり合いながら、新聞紙を使って楽しく遊ぶことができる。	①, ②, ③	①, ②

学習活動(時間)	○手立て ・留意点	準備物等
1 始めの歌(3分) 感触遊びの歌を歌う。	○音楽(きらきら星)を掛け、児童に授業の始まりを伝える。児童がマットの定位置に付いたら、写真カードを提示しながら感触遊びの歌を歌い始める。 ○感触遊びの4つの活動(ぶるるん、こなこな、ぺたぺた、くしゅくしゅランド)のイメージ画像を提示しながら感触遊びの歌を歌うことで、学習への期待感を高め、楽しく学習に取り組める雰囲気作りをする。 ○歌い終わったら、4つの活動のイメージ画像の中から「くしゅくしゅランド」の画像を提示し、今日の遊びの内容を視覚的に理解できるようにする。	・CD プレイヤー ・タブレット端末機 ・写真カード ・歌詞カード
2 くしゅくしゅランドであそぼう(37分) ①新聞紙を破く、ちぎる。 ②新聞紙で遊ぶ。 (飛ばす、撒く、浴びる、潜る、等)	○教師が「ビリビリ」「ヒラヒラ」など言葉掛けしながら一緒に新聞紙を破いたりちぎったりすることで、新聞紙を破く音や新聞紙の形状の変化に気付くことができるようにする。 ○予めちぎっておいた新聞紙を教室に撒き、新聞紙の中に潜ったり、逆さまにした透明ビニール傘の中に入れて回転させ、頭上から降らせたり、送風機で飛ばしたりすることで、新聞紙を使った様々な遊び方を体験できるように働きかける。 ○教師が楽しみながら遊びの示範を示したり、遊んでいる友達の姿に注目を促したりしながら、遊びに誘い、楽しく関わりながら遊ぶ雰囲気作りをする。 ○児童が楽しみながら遊ぶ姿や、工夫して遊ぶ姿、集中して遊ぶ姿を具体的に称賛しながら即時評価することで、意欲を高める。 ・送風機や傘は教師が扱うなど、危険がないように児童管理に気	・新聞紙 ・透明ビニール傘(2本) ・送風機 ・扇風機

【授業シート】		学部・学年・題材名	小学部・1年・感触あそびをしよう	T1	齋藤 裕美
授業日	10月13日(木)	時間	11:00~11:45	場所	1年1組教室
				本時	9時間/10時間

<p>3 新聞紙を片付け、終わりのあいさつをする。 (5分)</p>	<p>を配る。 ・新聞紙の誤食に気を付ける。事前に口に入れないよう言葉掛けしておく。 ○音楽を掛けることで、授業の終わりを知らせ、遊んだ新聞紙の片付けを促す。 ○片付けの際には教師がビニール袋を持ち、どこに片付けるかが分かるようにする。「どっちにたくさん入るかな？」等、言葉掛けすることで、楽しみながら片付けられるようにする。 ・片付けが終わったら児童をマットの定位置に座るよう働き掛ける。「たくさん遊んだね。」「楽しかったね。」「片付けも頑張ったね。」「また遊ぼうね。」等、今日の授業の感想を全体で共有することで、次時への意欲を持てるようにする。</p>	<p>・CD プレイヤー ・タブレット端末機 ・ビニール袋(4つ)</p>
--	--	---

本時の評価 (各教科等の学習評価の視点も踏まえ)

- 授業の始まりと終わりの合図を歌や音楽で知らせることにより、児童が始まりと終わりを意識して授業に取り組むことができていた。
- 新聞紙の量を徐々に増やしたり、扇風機や送風機、傘などの教具を用いたりして遊びを変化させることにより、児童の興味関心を高めることができた。
- 教師が児童に新聞紙をかけたり、児童を誘って他の児童に働きかけなら遊んだりすることで、児童が教師や友達に進んで関わりながら遊ぶ姿が見られるようになった。授業の終わりには、児童が遊び疲れてしまうほど、遊び尽くすことができた。
- 新聞紙の量が多かったこともあり、片付けにかなりの時間がかかった。ある程度片付けたら、残りは教師が片付けても良かった。
- 片付けの袋に顔写真のカードなどを貼り、どこに片付けたらよいか、どの袋にたくさん新聞紙が入るかなど、片付けも遊びの一部として行う工夫が必要だった。

(以下は任意で記入)

主な教材教具	場の設定
CD プレイヤー, タブレット端末, 写真カード, 歌詞カード, 新聞紙, 透明ビニール傘(2本), ゴミ袋, 送風機, 扇風機, 大型マット(4つ)	<p>The diagram shows a classroom layout with four mats (T1, T2, T3, T4) and two fans (T2, T4). T2 and T4 are labeled '扇風機' (fan). T1, T2, T3, and T4 are labeled 'マット' (mat). T2 is associated with '2組児童' (2 groups of children) and T3 with '1組児童' (1 group of children). There are four circles representing children in each group: two under T2, one under T3, and one under T4.</p>

指導形態/教科・領域	遊びの指導	関連行事等	時数	9	期間	9/5~10/6	記入者(TT)	江川静花(祥子T・みちT・まちこT・志乃T)
------------	-------	-------	----	---	----	----------	---------	------------------------

題材の目標	
①	いろいろな素材の感触や特性に親しみ、素材の形状が変化することやその感触の違いに気付く。
②	手指や体全体を十分に使いながら楽しく遊ぶ。
③	友達の活動の様子を見たり、教師や友達と関わったりして、みんなと一緒に活動することを楽しむ。

育成を目指す主な教科等の資質・能力	
知	①【生1】エ(イ)身の回りの遊びや遊び方について関心を持つ。
思	②【生1】エ(ア)身の回りの遊びに気付き、教師や友達と同じ場所で遊ぼうとする。 ③【図1】Aア(ア)材料などから、表したいことを思い付く。
主	④【図1】進んで表したり見たりする活動に取り組み、作り出すことの楽しさに気付くとともに、形や色などに関わることにより楽しい生活を創造しようとする。 ⑤【生1】自分のことに取り組みたり、身近な人々、社会及び自然に自ら働き掛け、意欲や自信を持って学んだり、生活を豊かにしたりする。

時数	日付	主な学習内容	○手立て・留意点	教科
活動の流れ		1 はじめのあいさつ 2 おはなし 3 あそぼう (4 かたづけ) 5 おわりのあいさつ	○活動の流れを提示して確認しながら進めることで、見通しが持てるようにする。 ・医ケア児童とはリモートでお互いの様子を感じられるようにする。 ・それぞれの遊びに関心を持てるように提示の仕方を工夫する。 ・随時、消毒を行い、感染症予防には十分に留意する。 ・片付けまでを1時間とし、自分で遊んだ場所を掃除するようにする。	
2	9月5日 9月8日	くしゅくしゅランドで遊ぼう! ・どんなことをするのか? ・ちぎって飛ばそう	○昨年度の写真をテレビで見て活動について思い出し、今後の見通しを持てるようにする。 ○ちぎった紙をうちわや扇風機で飛ばしたり、洗面器に入れて落としたりしながら、体全体で楽しめるようにする。 ○児童の様子を見て、遊ぶ人数や遊び方を工夫していく。 ・活動で使用した新聞紙は、自分たちで段ボールやビニール袋に片付けられるようにする。	図生
3	9月21日 9月26日 9月27日	ひえひえランドで遊ぼう! ・氷を見てみよう ・氷を触ってみよう ・氷で描こう	○氷がお湯で溶けていく様子やかき氷機で削れていく様子を見て、形状や感触の変化に気付けるようにする。 ○好きな色の食紅を選び、製氷機に入れて凍らせることで、氷が氷になることを感覚的に理解できるようにする。 ○それぞれが作った氷を厚紙の上で滑らせて遊びながら、冷たい感触を味わえるようにする。 ・机や床がぬれたときには、最後に雑巾で拭くようにする。	図生
3	9月30日 10月4日 10月5日	ぶるんランドで遊ぼう! ・寒天を作ろう ・寒天を触ろう	○寒天の粉、食紅、お湯を混ぜてレンジで加熱し、保冷材で冷やすことで、その場で状態が変化する様子を見たり触ったりできるようにする。 ○寒天粉の量を変えて、様々な硬さの感触を感じられるようにする。 ○完成した寒天は、握ったり型抜きをしたりしてそれぞれが工夫して遊べるようにする。 ・使用したトレイや用具などを自分で片付けるようにする。	図生
1	10月6日	べたべたランドで遊ぼう! ・指絵の具で描いてみよう(手) ・指絵の具で描いてみよう(足)	○指絵の具を手足に塗り、大きい紙の上にダイナミックに描いて遊べるようにする。 ○手に絵の具が付くことに慣れた後に足に塗って楽しめるようにする。 塗る際は、筆やはけなど様々な方法で行い、感触を味わえるようにする。 ・異食に注意する。 ・汚れたところを最後に雑巾で拭くようにする。	図生

個	教科	個別の目標	◎達成 ○概ね達成 △達成できない	評価	メモ欄(配慮・具体的な姿など)
A	知	様々な感触に触れたり、形状の変化を見たりして、遊び方に関心を持つことができる。	◎	◎	離席ほとんどなくその場にいることができた。新聞も、氷も、寒天も絵の具も全部触った。べたべたランドでは、手も足も絵の具につけて積極的に遊べた。 コロナ感染症予防の為欠席
	思	友達と同じ場所で、楽しく遊ぶことができる。	◎	◎	
	主	教師や友達に自ら働き掛けて、意欲を持って学習する。	◎	◎	
B	知	教師や友達と一緒に様々な感触を体験し、素材の変化などに興味を持つことができる。	◎	◎	氷と寒天を手の平にのせると、視線を向けた。教師の言葉掛けに視線を向けたり口を動かしたりして気持ちを伝えようとしていた。
	思	教師や友達の活動を見ながら、遊びをまねようとするすることができる。	◎	◎	
	主	素材の変化に興味を持ち、紙を破いたり引っ張ったりすることができる。	◎	◎	
C	知	教師と一緒に様々な物に触れ、感触を味わうことができる。	◎	◎	氷で描こうでは、「海?川?」と聞いたら「ブルル!」と答えて、青や緑を選んで遊んでいた。寒天は、手や足を使って夢中でぐちゃぐちゃにした。
	思	教師や友達の言葉掛けに表情などで応え、一緒に遊ぶ楽しさを感じることができる。	◎	◎	
	主	興味のある物を手の動きや表情、視線などで伝え、遊びを楽しむことができる。	◎	◎	
D	知	様々な感触に触れたり、形状の変化を見たりして、遊び方に関心を持つことができる。	◎	◎	一つの感触遊びを楽しめるまでに時間がかかることが分かった。特にべたべたランド。
	思	それぞれの素材や感触から、自分で工夫して遊ぶことができる。	◎	◎	
	主	教師や友達とやり取りしながら、作り出すことの楽しさに気付く。	◎	◎	
E	知	様々な感触を楽しんだり、好きな遊び方を実践したりすることができる。	◎	△	新聞ちぎりで、欠席のため実施できず。残念!きっと一番好きな活動だったはず。
	思	好きな色の絵の具を選んで手足に付けたり、紙の上に自分なりに模様を付けることができる。	◎	◎	
	主	友達が遊ぶ様子を見たり、自ら遊びに参加したりしようとする。	◎	◎	
F	知	教師や友達と一緒に様々な感触を楽しみ、好きな遊び方を見つけることができる。	◎	◎	どの感触も手指や体全体を使って思いっきり楽しむことができた。ダイナミックに遊ぶ姿がたくさん見られた。
	思	教師や友達と一緒に新聞紙をちぎったり、氷や寒天で遊ぼうとするすることができる。	◎	◎	
	主	教師や友達が遊ぶ様子を見たり、自ら手を伸ばして触れたりしようとする。	◎	◎	
G	知	素材の形状が変化することやその感触の違いに気付く。	◎	◎	ブルルランドでは、寒天をつまんで口に入れるなどして楽しんだ。寒天を足に付けるのは嫌だったが、指絵の具には自分から足を入れていた。
	思	手指や体全体を使って、素材の感触を楽しむ。	◎	◎	
	主	教師や友達の活動を見て、自分なりに遊びを工夫しようとする。	◎	◎	
H	知	様々な感触に触れたり見たりして、その違いを感じることができる。	◎	◎	教師や友達が遊んでいる様子を見て、遊び方に関心を持つ。 てみようとする姿が見られた。寒天をままごとの包丁で切ったり、手でドロドロにしたりして楽しんだ。
	思	友達と同じ場所で、楽しく遊ぶことができる。	◎	◎	
	主	自分から手を伸ばして、いろいろな感触を確かめる。	◎	◎	
I	知	教師や友達が遊んでいる様子を見て、遊び方に関心を持つ。	◎	◎	くしゅくしゅランドでは、ブルーシートが敷かれた中に入ることができなかったが、べたべたランドでは中に入って指絵の具の感触を楽しんだ。
	思	手指で素材の感触を味わい、素材の形状の変化を楽しむ。	◎	◎	
	主	興味を持った素材や遊びに自分から取り組もうとする。	◎	◎	
J	知	様々な感触に触れたり見たりして、その違いに気付くことができる。	◎	◎	寒天の感触はあまり好きではないようで、表情を曇らせたり手を引っ込める様子が見られた。
	思	それぞれの素材や感覚から遊びを思い付いて、遊ぶことができる。	◎	◎	
	主	創作活動をする中で、自分なりの表現方法を見付けていく。	◎	◎	
K	知	教師と一緒に様々な物に触れ、感触を味わうことができる。	◎	◎	
	思	教師や友達の言葉掛けに表情などで応え、一緒に遊ぶ楽しさを感じることができる。	◎	◎	
	主	教師と一緒に素材に触れて感触や音の違いに気付き、遊びを楽しむことができる。	◎	◎	

学習評価	知	それぞれの感触を楽しみ、遊びや遊び方に興味や関心を持つ子どもが多かった。
	思	友達の様子を見て遊びを真似することがあった。学年合同での学習も、クラスごとの学習も、教師や友達と同じ場所で遊ぶことができた。
	主	積極的に素材に触れたり、自分から進んで遊ぼうとしたりする姿が見られた。

題材の反省(○良かった点 ●改善点)	
○	様々な感触を経験することができた。が↓
●	それぞれの小単元をもう少し遊び込めるとよかった。また、一人遊びと集団(目標③の関わりに関連して)遊びのバランス。みんなで遊ぶ内容がもう少しあれば、と感じた。
●	机上での遊びとダイナミックな遊びのバランスを取れると良い。もう少しダイナミックな遊びを取り入れても良い。
○	2組のブルルランドでは、机上の遊びを十分楽しんだ後、床にブルーシートを敷いて寒天の感触を楽しんだ。○○さんがくしゅくしゅランドでブルーシートに入れなかったが、最後のべたべたランドに参加でき、段階を踏んだ指導の成果だ思う。
●	寒天、氷とも冷たいもので、Aさんには気候的に厳しいものがありました。
・	(目標②の体を十分に使うに関連して)ここも「手指」と「体全体」のバランスを考えなくては、と思った。

【授業シート】		学部・学年・題材名		小学部・2年1組・感触遊びをしよう		T1	江川 静花
授業日	9月27日(火)	時間	11:00~11:30	場所	2年1組教室 自立活動室1	本時	5時間/10時間

本題材に関わる児童の実態及び授業について

本学級は、男子4人、女子2人の計6人で構成されており、障害の種類や程度も様々である。どの児童も、見通しを持つことができたり、繰り返し取り組んだりすることで、自分から意欲的に活動することができる。

昨年度の感触遊びでは、新聞紙を使ったダイナミックな遊びを楽しんだ。今年度は、新聞紙遊びを導入とし、氷遊び、寒天遊び、絵の具遊びと様々な感触を味わうことができるようにしたいと考えた。本時は、氷遊びの3/3時間目である。これまで、氷が削れる様子や溶けていく様子を見たり、様々な形の氷を触ったりする活動を通して興味や関心を深めてきた。今回は、色の付いた氷を触りながら厚紙の上で滑らせ、色がにじんでいく様子を見て楽しんだり、自分なりに表現したりする姿が期待される。

本時の目標

関連する単元の目標

関連する資質・能力

様々な色の氷に触りながら、自分から作ったり、楽しんで表したりすることができたか。

①, ③

③, ④

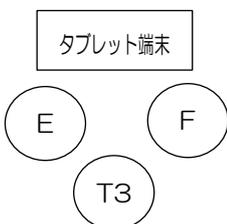
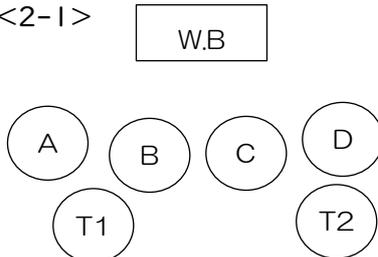
学習活動(時間)	○手立て・留意点	準備物等
1 はじめのあいさつ (1分)	○姿勢を正し、T1に注目するように促す。	
2 おはなし (4分)	○今日の活動の流れを説明するとともに、教師が実際に氷遊びをしてみることで、遊びのイメージを持てるようにする。 ○様々な色の氷を効果的に提示する。 ・医療的ケア児童とリモートでつなぎ、お互いの様子を見合うようにする。	活動カード 予定表 氷(赤, 青, 黄, 緑, オレンジ)
3 あそぼう・えがこう (19分)	○それぞれが作った氷を厚紙の上で滑らせて遊びながら、冷たい感触を味わえるようにする。 ○児童の自由な発想で描けるように、机に囲いをするなど、実態に合わせた支援を工夫する。随時、それぞれの作品を取り上げて、褒めたり励ましたりしながら、最後まで意欲的に取り組めるようにする。 ・着色には食紅を使用し、安全面に配慮する。 ・手に色が付くので、それが気になる児童には前もって雑巾を配っておく。 ・タイマーで終了時間を示して見通しが持てるようにする。	厚紙 雑巾 タイマー
4 おそうじ (5分)	○床や机などを雑巾できれいにし、その雑巾を洗って干せるようにする。	
5 おわりのあいさつ (1分)	・代表児童を呼名し、予定表にシールを貼るようにする。 ○姿勢を正し、T1に注目するように促す。	

本時の評価

(各教科等の学習評価の視点も踏まえ)

様々な色の氷に触りながら、自分から作ったり、楽しんで表したりすることができた。

【授業シート】		学部・学年・題材名		小学部・2年1組・感触遊びをしよう		T1	江川 静花
授業日	9月27日(火)	時間	11:00~11:30	場所	2年1組教室 自立活動室1	本時	5時間/10時間

主な教材教具		場の設定	
食紅で着色した氷 	<自立活動室1> タブレット端末 	<2-1> W.B 	

単元の目標		育成を目指す主な教科等の資質・能力	
(1) 友達や教師との関わりに関心を持つことができる。 (2) 劇遊びの活動を通して、自分の気持ちや要求等を相手に伝えようとする。 (3) 自分がやりたい役を選んで、劇遊びを楽しむことができる。		知 【小生活:2段階 オ 人の関わり(イ)】	身近な人と接することなどに関わる学習活動を通して、身近な人の接し方などについて知ること。
		思 【小国語:2段階 聞くこと・話すことア】	身近な人の話に慣れ、簡単な事柄と語句などを結び付けたり、語句などから事柄を思い浮かべたりすること。
		主 【小生活:2段階 エ 遊び】	自分のこととして取り組もうとしたり、身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけようとしたり、意欲や自信をもって学んだり、生活に生かそうとしたりする態度を養う。

時	日付	主な学習内容	○手立て・留意点	教科	個	教科	本単元における個別の目標	評価	メモ欄(配慮・具体的な姿など)
活動の流れ									
		1 はじめのあいさつ 2 おはなし 3 かつどう 4 ふりかえり 5 おわりのあいさつ	○活動の流れを提示して、見通しを持てるようにする。 ・劇に関心が持てるように提示の仕方を工夫する。 ・振り返りでは、楽しかったことや自分が行った活動を発表し、次時の活動意欲につなげることができるようにする。		A	知 生 思 国 主 生	友達や教師の声が聞こえる方に顔を向け、教師と一緒に活動することができる。 自分の欲しいものを選び、相手に渡すことができる。 自分がやりたい役を選んで、教師と一緒に劇遊びを楽しむ。		◎:達成できた ○:概ね達成できた △:達成には至らなかった
1	9/2	【ひつじパン】 ・学習の内容を知る。 ・「ひつじパン」の読み聞かせを聞く。 ・「ひつじパン」の劇をする。	○学習予定表を提示し、活動の見通しを持てるようにする。 ○絵本で登場人物の動きを確認することで、児童の動きにつながるようにする。 ・歌を歌いながら楽しい雰囲気を作り、絵本への興味を引き出す。 ○選んだ役になり楽しく発表できるように、小道具を使ったり、視覚的支援や手を添えながら働き掛けたりする。 ・言葉でのやり取りを意識させることで、次の活動につなげる。	国音	B	知 生 思 国 主 生	自分で考えながら、人との接し方に気付くことができる。 相手に挨拶をしたり、要求を相手に伝えたりすることができる。 自分がやりたい役を選んで、意欲的に取り組むことができる。		※詳細をP8に示す。
2	9/6				C	知 生 思 国 主 生	教師や友達の手本を見て、人との接し方に気付くことができる。 ジェスチャーや発声で自分の気持ちや要求を伝えることができる。 自分がやりたい役を選んで、教師と一緒に劇遊びを楽しむ。		
3	9/7				D	知 生 思 国 主 生	教師のまねをして、人との接し方に気付くことができる。 ジェスチャーや発声で自分の気持ちや要求を伝えることができる。 自分がやりたい役を選んで、教師と一緒に劇遊びを楽しむ。		
4	9/12				E	知 生 思 国 主 生	友達や教師の声が聞こえる方に目線や顔を傾け、教師と一緒に活動することができる。 興味のある物、音のする方に顔を向けて、自分の気持ちや要求を伝えることができる。 二択から自分のやりたい役を選んで、劇遊びを楽しむ。		
5	9/14	【てぶくろ】 ・「てぶくろ」の読み聞かせを聞き、物語の内容を知る。	○読み聞かせを聞いて、どのような登場人物が出てきたかを確認する。 ○絵本で登場人物の動きを確認することで、児童の動きにつながるようにする。 ・繰り返しの部分を意識して読み聞かせを行うことで、次の出来事をイメージしやすくする。	国図	F	知 生 思 国 主 生	教師や友達の手本を見て、教師と一緒に活動することができる。 手を伸ばして自分の要求を伝えることができる。 自分のやりたい役を選んで教師と一緒に劇遊びを楽しむ。		
6	9/16	【てぶくろ】 ・「てぶくろ」の読み聞かせを聞く。 ・登場人物のお面を作る。 ・大きな手袋を作る。	○役になりきれのように、はさみやクレヨン、のりを使い動物のお面を作る。 ○段ボールに色画用紙を貼ったり、色を塗ったりして、大きな手袋を作る。 ・視覚的支援や手を添えながら働き掛ける。 ・次第にいろいろな役に取り組むことができるように、段階を踏んで活動を展開する。	国図	G	知 生 思 国 主 生	教師や友達の手本を見て、人との接し方に気付くことができる。 自分の身振りで自分の気持ちや要求を伝えることができる。 自分がやりたい役を選び、できるだけ一人で劇遊びを楽しむ。		
7	9/20				H	知 生 思 国 主 生	自分で考えながら、人との接し方に気付くことができる。 せりふを発音して相手に伝えることができる。 自分のやりたい役を選んで、意欲的に演じることができる。		
8	9/21				I	知 生 思 国 主 生	友達の活動の様子を見たり、教師の補助を受けたりして活動することができる。 動作を付けながら、発音して要求を伝えることができる。 自分のやりたい役を選んで、できるだけ一人で演じながら劇遊びを楽しむ。		
9	9/22								
10	9/26	【てぶくろ】 ・「てぶくろ」の読み聞かせを聞く。 ・演じる役を決める。 ・「てぶくろ」の劇をする。	○選んだ役になり楽しく発表できるように、小道具を使ったり、視覚的支援や手を添えながら働き掛けたりする。 ・教師がインタビューして、どの役を選ぶか、やり取りを行う。 ○お互いの演技を見合うことで、様々な表現の仕方に気付けるようにする。	国					
11	9/27								
12	9/29								
13	9/30								

単元の反省(学習内容・手立て・教材・授業時数・指導形態などの視点から)
○支援シートをもとに主担当に関わらず、全員で全児童を支援できる体制ができていて良かった。
○小道具が充実していて、演じたい気持ちがかきたてられた。
○歌があることで楽しい雰囲気でも進めることができていた。

学習評価	知	思	主
	・友達や教師との関わりに関心を持つことができたか。	・劇遊びの活動を通して、自分の気持ちや要求等を相手に伝えようとすることができたか。	・自分がやりたい役を選んで、劇遊びを楽しむことができたか。

児童	支援	評価			
		1	2	3	4
A 		○	○	○	○
		○	○	○	◎
		△	△	△	○
知	友達や教師の声が聞こえる方に顔を向け、教師と一緒に活動することができる。				
思	自分の欲しいものを選び、相手に渡すことができる。				
主	自分がやりたい役を選んで、教師と一緒に劇遊びを楽しむ。				
B 		○	○	○	○
		◎	◎	◎	◎
		○	◎	◎	◎
知	自分で考えながら、人との接し方に気付くことができる。				
思	相手に挨拶をしたり、要求を相手に伝えたりすることができる。				
主	自分がやりたい役を選んで、意欲的に取り組むことができる。				
C 		△	○	○	○
		○	○	◎	◎
		△	△	○	○
知	教師や友達の手本を見て、人との接し方に気付くことができる。				
思	ジェスチャーや発声で自分の気持ちや要求を伝えることができる。				
主	自分がやりたい役を選んで、教師と一緒に劇遊びを楽しむ。				
D 		○	○	○	◎
		○	○	◎	◎
		◎	◎	◎	◎
知	教師のまねをして、人との接し方に気付くことができる。				
思	ジェスチャーや発声で自分の気持ちや要求を伝えることができる。				
主	自分がやりたい役を選んで、教師と一緒に劇遊びを楽しむ。				
E 		○	◎	◎	◎
		○	○	○	◎
		△	△	△	○
知	友達や教師の声が聞こえる方に目線や顔を傾け、教師と一緒に活動することができる。				
思	興味のある物、音のする方に顔を向けて、自分の気持ちや要求を伝えることができる。				
主	二択から自分のやりたい役を選んで、劇遊びを楽しむ。				

児童	支援	評価			
		1	2	3	4
F 		○	○	○	◎
		△	○	○	○
		○	○	◎	◎
知	教師や友達の手本を見て、教師と一緒に活動することができる。				
思	手を伸ばして自分の要求を伝えることができる。				
主	自分のやりたい役を選んで教師と一緒に劇遊びを楽しむ。				
G 		△	○	○	○
		△	○	○	○
		△	△	○	◎
知	教師や友達の手本を見て、人との接し方に気付くことができる。				
思	自分の身振りで自分の気持ちや要求を伝えることができる。				
主	自分がやりたい役を選び、できるだけ一人で劇遊びを楽しむ。				
H 		△	△	○	○
		○	○	◎	◎
		○	○	◎	◎
知	自分で考えながら、人との接し方に気付くことができる。				
思	せりふを発音して相手に伝えることができる。				
主	自分のやりたい役を選んで、意欲的に演じることができる。				
I 		○	○	◎	◎
		○	○	◎	◎
		△	○	○	○
知	友達の活動の様子を見たり、教師の補助を受けたりして活動することができる。				
思	動作を付けながら、発音して要求を伝えることができる。				
主	自分のやりたい役を選んで、できるだけ一人で演じながら劇遊びを楽しむ。				
児童の写真	目標を達成するための支援の方法 (支援シートのイラスト)	評価(4時間分) ◎達成できた ○概ね達成できた △達成には至らなかった			
知	本單元における個別の目標				
思					
主					

【単元シート（保存用）】 小学部5年 「秋を楽しもう」 指導計画

形態／教科・領域	生活単元学習	単元	秋を楽しもう	時数	11	期間	11月2日～11月30日	記入者（TT）	T1 菊地佑太, T2 坂下真也, T3 千葉香子, T4 武川雅子
----------	--------	----	--------	----	----	----	--------------	---------	------------------------------------

単元の目標		育成を目指す主な教科等の資質・能力	
① 旬の食べ物を通して、秋を感じることができる。		知	① 【図】 様々な材料や用具を使い、工夫して絵をかいたり、作品をつくったりすること。
② 秋の作品作りを楽しむことができる。		思	② 【生】 日常生活に関わりのある生命や自然について関心をもって調べること。
③ 友達や教師と一緒に取り組みながら、身近な秋を感じて楽しもうとする。		主	③ 【生】 日常生活に関わりのある生命や自然の特徴や変化が分かり、それらを表現すること。

時数	日付	主な学習内容	○手立て ・留意点	教科
1	11/2	・秋の食べ物について知ろう	○ハテナボックスを使い、クイズ形式で取り組む。 ○実物を使い、触ったり、香りをかいだりする。 ・実物に触れる際には、手指消毒をする。	
2	11/4 11/7	・秋を探しに行こう (校庭, 校外)	○探しに行くものを実物や写真カードなどで確認する。 ・校外での学習では、事故や怪我等に十分留意する。	
3	11/11 11/14 11/16	・果物を作ってみよう	○見本や手本を提示して取り組む。 ○材料等は複数準備しておき、児童が自分で選んで取り組むことができるようにする。 ・児童が扱いやすい教材教具を使って作るようにする。	
1	11/21	・果物狩りを体験しよう(本時)	○疑似果物や本物の果物を使って、果物狩りを体験する。 ○道具の使い方や手本を提示する。 ・道具を使う際は、怪我等に留意する。	
3	11/22 11/25 11/28	・サツマイモに触れよう	○収穫したサツマイモを使って活動する。 ・調理をする際は、一次調理とする。 ・怪我等に留意する。	
1	11/30	・秋を振り返ろう	○ハテナボックスや活動の写真、動画などで振り返る。 ・実物を提示し、活動を振り返ることができるようにする。	

個	教科	個別の目標	◎達成 ○概ね達成 △達成できない	評価	メモ欄 (配慮・具体的な姿など)
A	知	図2	身近な材料や用具を使い、かいたり、形を作ったりすることができる。	○	実物を用いた季節の果物クイズでは、はてなボックスの色を手掛かりに意欲的に答えを発表していた。
	思	生3	屋外の散策や季節の風物に触れることを通して、季節の変化に関心を持つことができる。	◎	
	主	生3	秋と関連付けながら制作活動や果物狩りに関心を持って活動することができる。	◎	
B	知	図2	身近な材料や用具を使い、かいたり、形を作ったりすることができる。	◎	?ボックスに興味を示し、楽しそうに中身の果物を取り出していた。リンゴや柿、ブドウ作りも淡々と作っていた。
	思	生2	身近な秋の食べ物の特徴が分かり、制作や果物狩りに関心をもつことができる。	○	
C	知	図2	身近な材料や用具を使い、かいたり、形を作ったりすることができる。	○	柿の実物を教師と一緒に切ってみたところ、断面に顔を近付けて匂いをかいで興味を示していた。
	思	生2	季節の風物に触れることを通して、季節の変化に関心を持つことができる。	○	
D	知	図2	身近な材料や用具を使い、かいたり、形を作ったりすることができる。	◎	はさみの使い方は今後も指導していく必要あり。果物狩りでは、ペアになった友達と協力して取り組む姿が多々見られた。
	思	生3	秋の代表的な食べ物の特徴が分かり、意欲的に取り組むことができる。	○	
E	知	図1	身の回りの自然物などに触れながら作品を作ることができる。	○	目の前に提示された柿を見て顔を近づけてきた。果物狩りはリンゴを取ろうと手を伸ばしていた。
	思	生1	友達や教師と果物に進んで触れながら、果物狩りに取り組むことができる。	◎	
F	知	図1	身の回りの自然物などに触れようとするすることができる。	○	落ち葉やセロハンのかさかさ鳴る音をよく聞いていた。ふかし芋の匂いを嗅ぐと顔をしかめていた。
	思	生1	身の回りの遊びに気付いて友達や教師と遊ぼうとするすることができる。	○	
G	知	図1	身の回りの自然物などに触れながら、作品作りに取り組むことができる。	○	実物の果物の香りを嗅いで口をパクパクさせていた。制作の際は様々な素材から好きな感触のものを選ぶことができた。
	思	算1	秋の食物に注意を向け、存在に注目し、緒感覚を協応させながら捉えることができる。	◎	
	主	生2	秋の食物に関心をもって、作品作りや果物狩りを楽しもうとする。	◎	

単元の反省 (合わせた教科・学習内容・手立て・教材・授業時数・指導形態などの視点から)
<ul style="list-style-type: none"> ・本物の果物や収穫したサツマイモを使うことで、より「秋（季節感）」を感じることができた。 ・本単元は児童の実態により、主に食べ物を題材として取り上げた。そのことにより、児童の意欲等につなげることができた。 ・制作の場面において、児童の実態に応じてではあるが、はさみ等の道具の扱いについても、少し重きをおいた学習を行っても良かったのか。 ・始めと終わりの挨拶は廊下で行い、主活動は各教室等で行うというように、11時間の学習の場の設定を統一したことで、見通しを持って取り組むことができた。一方で、時期的な問題により、廊下での活動は、車椅子の児童の体調面がやや心配な部分があった。

学習評価	知	思	主
	・児童が扱いやすい教材や材料等を使用して、実態に応じた作品をつくることのできた。	・本物の果物を手に取ったり、顔を近付けて香りをかいだりするなど、興味を持って取り組むことができた。	・たくさんの落ち葉を見付けると、手に取って感触を味わったり、主体的に落ち葉で遊んだりする姿が多く見られた。
			・果物によって、堅さや大きさの違いなどに気付く児童もいた。

【授業シート】		学部・学年・題材／単元名	小学部5学年 秋を楽しもう	TI	菊地 佑太
授業日	11月21日(月)	時間	11:00~11:45	場所	小学部棟2F廊下 他
				本時	7時間/11時間

本単元に関わる児童生徒の実態及び授業について		
<p>・四季に関しては、これまで「5年生になったよ」「夏を楽しもう」の取組の中で、春と夏について学習してきた。春は、校内の木々の観察や野菜を植える活動に取り組んだ。また、夏は育ててきたキュウリやトマトの収穫、おもちゃの金魚すくいなどに取り組む、楽しみながら行うことができた。活動は楽しく取り組むことができる児童が多いが、その中で、季節の移り変わりやイメージをつかむことが難しいという実態がある。</p> <p>・散策活動を通して秋の気候を肌で感じ、木々の葉の色を見たり、落ち葉で遊んだりする経験を取り入れてきたが、本学級の児童は、食に関してとても興味・関心があるため、旬の食べ物に触れる活動を多く取り入れて学習することで、季節感を味わうことができるのではないかと考える。また、重複児童においても、触覚や嗅覚などを頼りにして活動に取り組むことができる児童もいるため、教材等を工夫しながら意欲を持って学習活動に取り組めるようにしていきたい。</p>		
本時の目標	関連する単元の目標	関連する資質・能力
<ul style="list-style-type: none"> 友達と協力して、果物狩りに取り組むことができる。 <p style="text-align: center;">【思考力、判断力、表現力】</p>	① ③	② ③

学習活動(時間)	○手立て ・留意点	準備物等
1 始まりの挨拶 2 先生の話 ・果物狩りについて やり方道具の紹介等 ・約束の確認	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の伝え方で挨拶することができるように支援する。 ○掲示板にある「みんなの木」に注目するよう言葉掛けする。 ○果物狩りの映像や写真を見て、これから取り組む活動に見通しを持つようにする。 ○児童の前で使用する道具の紹介をする。 ・約束の確認の場面では、友達や教師と一緒に活動することや、道具を使うときの約束を提示する。 	TV タブレット端末機 果物 ざる はさみ 消毒液
3 活動 ・果物狩り	<ul style="list-style-type: none"> ○児童たちの取組状況を観察し、手を添えたり、一緒に取り組んだりする。 ・安全に道具を使用することができるようにする。 ・食べる前に手指消毒をする。 	みんなの木 活動カード 児童用椅子
4 感想発表	<ul style="list-style-type: none"> ○感想を聞き、頑張っていた様子を紹介しながら、みんなの前で称賛する。 ○頑張っていて取り組んでいた姿をテレビに映すようにする。 	
5 終わりの挨拶	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の伝え方で挨拶することができるように支援する。 	

本時の評価 (各教科等の学習評価の視点も踏まえ)
<ul style="list-style-type: none"> ・手の届かない場所にある果物を代わりに取ったり、狩り終わるまで順番を待ったりするなど、ペアになった友達と協力して、果物狩りを楽しむことができた。 ・本物の果物を使用したことで、興味を引き出すことができ、より身近に秋を感じる事ができた。

主な教材教具	場の設定
・TV, タブレット端末機, 果物, ざる, はさみ, 消毒液, みんなの木, 活動カード, 児童用椅子	

単元の目標		育成を目指す主な教科等の資質・能力	
① 自然や社会の様々な事象に触れ、経験の幅を広げる。	知	①【国:小:3】ア(ア)身近な人との会話や読み聞かせを通して、言葉には物事の内容を表す働きがあることに気付くことができる。	②【生:小:3】コ(イ)日常生活に関わりのある社会の仕組みや公共施設などを知ったり、活用したりすることができる。
② 集団行動に触れ、公共施設の使い方を身に付ける。		③ ク(イ)金銭の扱い方などの知識や技能を身に付けることができる。	
③ 家庭や学校以外の場所で、場面に応じた行動がとれるようにする。	思	④【国:小:3】Cウ 日常生活に必要な語句や文、看板などを読み、必要なものを選んだり行動したりすることができる。	⑤【生:小:3】コ(ア)日常生活に関わりのある社会の仕組みや公共施設が分かり、それらを表現することができる。
④ 修学旅行の思い出を振り返りまとめる。		⑥ ク(ア)日常生活の中で、金銭の価値が分かり扱いになれることができる。	
※作品制作と関連した目標が設定されていたが、感染症対応により修学旅行の期日が変更になったため割愛した。		主	⑦(上記を主体的に学び、生活に生かそうとする。)

時	日付	主な学習内容	○手立て・留意点	教
1	9/8(木) ①3校時	オリエンテーション【亀谷】 ・活動予定の確認 ・「修学旅行の歌」で意欲を持つ。	○下見の際に撮影した写真や動画等を提示し、修学旅行への見通しと期待が持てるようにする。 ○聞きなれた「●●」の音楽に合わせて修学旅行の内容の歌詞を歌うことで修学旅行への意欲を高める。	生 国 音
	9/9(金) ②5校時	係の分担【遠藤】 (あいさつ・司会等) めあての作成	○役割分担を行い、一人一役の活躍の場面を設ける。 ○しおりの「めあて」の欄に記入する。 ・書くことが難しい児童は、頑張りたいことのイラストを教師と一緒に選ぶことができるようにする。	生 国
モジュール指導9 入浴指導2	9/12(月) ③3AC	A リナワールド【廣島】 15分×6	○動画を活用して、アトラクションを再現し、疑似体験する場を設定する。 ・園内の雰囲気を知ることで、見通しをもって活動できるようにする。 ・リストバンド等、園内でのルールやマナーを確認できるようにする。	生
	9/13(火) ④4BD	B ホテルでの過ごし 【遠藤】 15分×4	○着替えの手順や入浴時のマナー(大浴場の使い方)についてのクイズを通して楽しみながら学べるようにする。 ・体の洗いは、教師や友達の模倣をしたり、教師と一緒に体を動かしたりしながら練習する。 ○ホテル館内での過ごし方や食事のマナー等について学習する。給食時や校内の廊下の歩き方等、意識して生活できるようにする。	生 算 体
	9/14(水) ⑤3AD		○着替えの手順や入浴時のマナー(大浴場の使い方)について学校フロアに実際に入浴しながら学べるようにする。 ・体の洗いは、教師や友達の模倣をしたり、教師と一緒に体を動かしたりしながら練習する。	生 算 体
	9/15(水) ⑥3AB	C ブドウ狩り【亀谷】 15分×2	○模型のブドウを使って意欲を高める。 ○枝から実を取る疑似体験を通して、もぎ取る感覚など感じるができるようにする。	生 算
	9/22(木) ⑦3入浴 ⑧4入浴	入浴の練習【遠藤】 2h	○着替えの手順や入浴時のマナー(大浴場の使い方)について学校フロアに実際に入浴しながら学べるようにする。 ・体の洗いは、教師や友達の模倣をしたり、教師と一緒に体を動かしたりしながら練習する。	生 算 体
	9/22(火) ⑨4BD	D 観光物産館買い物学習【佐々木】 15分×4	○昼食の食券とお土産のそれぞれの買い方を練習する場を設定する。 ・iPadで券売機を再現し、昼食購入の練習をする。 ・誰にどんなお土産を買うかを考え、決められた金額内で商品を選ぶ練習ができるようにする。	生 算
	9/21(水) ⑩4AB		○粘土を使って陶芸の成形を疑似体験できるようにする。 ・雨天時の場合のみの活動ということを踏まえ、おおまかな作り方の手順に触れる程度にする。(雨天の可能性が高くなったときのみ計画を調整して実施)	生 算
	9/16(金) ⑪3AD	E 陶芸【亀谷】 15分×1	○しおりの「荷物チェックリスト」の欄に記入する。 ・書くことが難しい児童は、頑張りたいことのイラストを教師と一緒に選ぶことができるようにする。	生 算
	9/26(月) ⑫3AC ★研究授業本時	F 荷物の確認等【佐々木】 15分×1	○新しい旅のエチケットについて必要な事柄に気付き、教師と一緒に感染症対策を行うことができるようにする。【養護教諭による指導】	生 算
	9/27(火) ⑬4EF		○引率者と顔合わせたり、引率者の話を聞いたりして、一緒に活動する気持ちを高める。 ○めあてを確認し合いながら、目的を持って修学旅行に行く気持ちを高める。	生 算
1	9/27(火) ⑭3	旅先でのエチケット【養教】	○新しい旅のエチケットについて必要な事柄に気付き、教師と一緒に感染症対策を行うことができるようにする。【養護教諭による指導】	生 算
1	9/28(水) ⑮5	修学旅行結団式【遠藤】 ・修学旅行の歌 ・引率教員の紹介 ・めあての発表	○引率者と顔合わせたり、引率者の話を聞いたりして、一緒に活動する気持ちを高める。 ○めあてを確認し合いながら、目的を持って修学旅行に行く気持ちを高める。	生 算
3	10/3(月)4⑯ 10/4(火)4⑰ 10/5(水)4⑱	・修学旅行の写真や動画等を視聴し振り返る。【佐々木】 ・めあての振り返り【遠藤】 ・まとめポスター作成【廣島】	○修学旅行の楽しかった思い出をポスター等にまとめる。 ・写真やイラスト、文字カードなどを用意し、必要に応じて活用し、教師と一緒に仕上げる。	生 算 図

個	教科	本単元における個別の目標	1単位ごとの評価																	
			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱
A	知	生小1	リナワールドやホテルで友達と一緒に活動することが分かる。	○		◎	◎	◎	◎			◎	◎	◎	◎			◎	◎	◎
	思	生小1	買いたい物を選ぶなど、目的に合う買い物を教師と一緒にする。				○	△												
	主		(上記を主体的に学び、生活に生かそうとする。)	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
B	知	生小3	硬貨の種類ごとに分類して数え、お土産や食べたい食事など目的に合わせて購入することができる。									◎								
	思	生小3	様々な施設の表示されている文字や記号を読み、時と場に応じて行動することができる。				○							○			◎	○		
	主		(上記を主体的に学び、生活に生かそうとする。)	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	△	△	◎		◎		◎	◎	◎	◎
C	知	生小2	修学旅行の歌を歌ったり、活動の説明を聞いたりして、気持ちや要求を表す言葉の働きに気付くことができる。		○	◎	◎	◎	◎				◎	◎	◎		◎	◎	◎	◎
	思	生小2	様々な施設の表示されている記号の特徴に気付き、時と場に応じて行動することができる。														○	○		
	主		(上記を主体的に学び、生活に生かそうとする。)	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
D	知	生小3	「これをください。」「いくらですか。」などの買い物に必要な言葉を使いながら、買い物をすることができる。				○	○				○								
	思	生小3	手指消毒やマスクの着用など衛生面を意識し、遊園地で乗りたい物やお店で買いたい物などを教師に伝えながら活動できる。			○	◎	◎	◎			◎			◎	◎	◎			◎
	主		(上記を主体的に学び、生活に生かそうとする。)	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
E	知	生小1	リナワールドやホテルで友達と一緒に活動することが分かる。	△	△	△	○	○				◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	思	生小2	遊園地で乗りたい物やお店で買いたい物を選ぶことができる。			◎	◎	◎	◎			◎	◎	△	○	△	△	△	△	◎
	主		(上記を主体的に学び、生活に生かそうとする。)	○	△	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
F	知	生小1	施設の役割に気付き、施設に応じた利用の仕方を言葉で表現できる。	・	・	・	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	思	生小1	「これをください。」「幾らですか。」など言葉でやり取りをしながら、つり銭やレシートを正しく取り扱い、買い物や食事をする。	・	・	・	・	◎			◎	◎	◎							◎
	主		修学旅行について主体的に学び、旅行当日の活動場面で生かそうとする。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
G	知	生小2	買い物場所、宿泊場所等の施設の役割に気付き、教師と一緒に利用できる。	○	・	・	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	思	生小2	自分が食べたい昼食や買いたい物を選んで教師と一緒に買うことができる。	・	・	・	○	・	○			◎	◎	◎						
	主		修学旅行について主体的に学び、旅行当日の活動場面で生かそうとする。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	△	◎	◎	◎
H	知	生小2	一人で食券を選んでお金を入れたり、「これ、ください。」等と必要な言葉を伝えてお金を支払ったりすることができる。				○	○				◎	◎	△	△	△	△	△	△	△
	思	生小2	遊園地で乗りたい物やお店で買いたい物を選ぶことができる。			◎	◎	◎	◎			◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	主		(上記を主体的に学び、生活に生かそうとする。)	○	○	◎	◎	◎				◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

学	知	①めあてを活動内容と照らし合わせながら捉え「話をよく聞く」「物を大切に」「自分のことは自分でする」等の言葉の働きに気付くことができた。
習	思	②「リナワールド」「果樹園」「観光物産会館」「ホテル」の4つの施設について、名称や扱っている物について理解できた。
	主	③レジャと券売機の場所に気付いて、自ら財布や品物を持って行くなど、買い物活動に取り組むことができた。
評	思	④ホテルでは自分の部屋を理解して入室したり、施設のトイレや浴室を理解して使用したりすることができた。
	主	⑤「リナワールド」「果樹園」「観光物産会館」「ホテル」の4つの施設について、活動内容と結びつけて目標を発表したり、楽しかった活動の感想を発表したりすることができた。
価	主	⑥修学旅行のめあてを意識して学校生活をより良くしようとする姿が見られた。

単元の反省(学習内容・手立て・教材・授業時数・指導形態などの視点から)	
・	毎時間の導入時に、修学旅行の主な4つの活動(リナワールド、ブドウ狩り、観光物産会館、ホテル)のスライドを提示し、修学旅行の歌を歌うことで、児童に修学旅行への見通しをもたせ、期待感を高めることができた。
・	4つの活動(リナワールド、ブドウ狩り、観光物産会館、ホテル)の指導を15分ユニットで組み合わせ、4人の教員で役割分担して、1単位時間に組み合わせて指導することで、児童の興味を1単位時間継続した指導できた。
・	前年度に宿泊学習に行ってなく、入浴指導の時間等を挿入したことで、年間指導計画より時数が増えた。

個	教科	本単元における個別の目標	1単位ごとの評価																備考		
			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯		⑰	⑱
A	知 生小1	リナワールドやホテルで友達と一緒に活動することが分かる。	○		◎	◎	◎	◎			○	○	◎	◎	◎		○	◎	◎	◎	
	思 生小1	買いたい物を選ぶなど、目的に合う買い物を教師と一緒にする。				○	△														
	主	(上記を主体的に学び、生活に生かそうとする。)	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	○	○	◎	◎	◎	○	○	◎	◎	◎	◎	

評価資料

○修学旅行で一緒に活動する先生方に挨拶をする場面では、先生や友達の写真がタブレット端末に写ると、声を出しながらタブレット端末をタッチしている姿が見られた。
 ○ホテルでは、自分で車椅子を操作して先生や友達のところへ行き、笑顔で声を出している姿が見られた。
 ○観光物産館では、たくさんあるお土産の中から、欲しいものをタッチて選び、お金を自分でトレイに入れる姿が見られた。



個	教科	本単元における個別の目標	1単位ごとの評価																備考			
			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯		⑰	⑱	
B	知 生小3	硬貨の種類ごとに分類して数え、お土産や食べたい食事など目的に合わせて購入することができる。																		◎		
	思 生小3	様々な施設の表示されている文字や記号を読み、時と場に応じて行動することができる。				○														◎	○	
	主	(上記を主体的に学び、生活に生かそうとする。)	◎	◎	○	○	○	○	○	△	△	◎		◎		◎	○	◎				

評価資料

①オリエンテーションでは、教師の説明に興味深く聞く様子が見られた。
 ②修学旅行の歌の歌詞を選ぶ際には、「バス」を選ぶことができた。
 ③リナワールドの活動について教師の話聞くことができた。自分の食べたいブドウの品種を選ぶことができた。
 ④しおりに書いてある文章を読み、ホテルでの活動について知ることができた。
 ⑤1000円札を見て読むことができた。
 ⑥リナワールドでの約束を守り、乗りたい模擬アトラクションに乗ることができた。
 ⑦券売機に紙幣を丁寧に入れ、昼食を注文できた。
 ⑧⑨入浴は iPad で見学した。
 ⑩買い物の手順を代表で読むことができた。レジの仕組みに興味を示した。
 ⑪修学旅行の約束を話すことができた。
 ⑫結団式では、司会を担当し、自分の役割を果たすことができた。

個	教科	本単元における個別の目標	1単位ごとの評価																備考				
			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯		⑰	⑱		
C	知 生小2	修学旅行の歌を歌ったり、活動の説明を聞いたりして、気持ちや要求を表す言葉の働きに気付くことができる。		○	○	◎	○	○												◎	◎	◎	
	思 生小2	様々な施設の表示されている記号の特徴に気付き、時と場に応じて行動することができる。																			○	○	
	主	(上記を主体的に学び、生活に生かそうとする。)	○	◎	○	○	○	○	○	○	○		◎		◎	○	◎						

評価資料

①友達の発表を聞くことができた。
 ②教師と一緒に修学旅行の歌を歌うことができた。
 ③自分の食べたいブドウの品種を選ぶことができた。
 ④jamboard を操作して、観光物産会館での楽しみな活動を発表することができた。
 ⑤修学旅行の歌詞を考え、「ワクワク」を選ぶことができた。
 ⑥リナワールドでの約束を守り、乗りたい模擬アトラクションに乗ることができた。
 ⑦注文した品を受け取る際に、「ありがとうございました。」と言うことができた。
 ⑧⑨入浴では、自分の体を丁寧に洗い、湯船に入ると「気持ちいい!」と叫んだ。
 ⑩めあてを決める活動では、「気持ちを伝える」を選び、友達の前で発表することができた。
 ⑪はじめの挨拶を大きな声で言うことができた。
 ⑫感想発表で、歌が楽しかったと発表することができた。

個	教科	本単元における個別の目標	I 単位ごとの評価																備考	
			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯		⑰
G	知	生小2	買い物場所、宿泊場所等の施設の役割に気付き、教師と一緒に利用できる。	○	・	・	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	思	生小2	自分が食べたい昼食や買いたい物を選んで教師と一緒に買うことができる。	・	・	・	○	・	○				○	○	○					
	主		修学旅行について主体的に学び、旅行当日の活動場面で生かそうとする。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	○	○

評価資料

①教師の修学旅行のプレゼンをよく聴いて、関心を持って最後まで授業に集中していた。
 ②一緒に活動する先生・耕太先生とハイタッチして喜んでいた。
 ③食べたいブドウとして塾考して種なしナイヤガラを選んだ。
 ④観光物産会館のクイズに積極的に挑戦して、食事をする場所であることを理解した。「ラーメン」連呼。
 ⑤リナワールドの遊びたい遊具として急流滑り選んだ。
 ⑥リナワールドの遊具のアモーレの疑似体験を楽しんだ。買い物学習に興味を持った。
 ⑦楽しみながら入浴できた。
 ⑧着替えや体を洗うことが1人でできた。

⑨千円札を教師と一緒に数えて6枚あることを確認できた。
 ⑩物産会館での買い物の練習では、とても興味が高く上手に買い物の一連の行動ができた。
 ⑪個人のめあてを教師が提示した絵や言葉、写真などの掲示物を見て自分で選ぶことができた。
 ⑫ブドウ狩りでは、教師の説明をじっくりと聞いて、模擬ブドウ狩りをしっかりと行った。
 ⑬陶芸の皿の模様と色を教師と一緒になんとか選ぶことができた。
 ⑭旅先のエチケットでは、養護教諭の指導にとっても関心をもって聴き、四つの内容に花丸をもらって喜んだ。
 ⑮結団式では、振り付きて修学旅行の歌を歌った。自分のめあての「温泉に入る」楽しみを発表した。
 ⑯写真を見ながら時々コメントをしながら楽しく修学旅行を振り返ることができた。
 ⑰自分のめあてに応じたホテルの写真を選んで「お風呂が楽しかったです。」と笑顔で発表した。
 ⑱お礼になった方々への言葉を教師と一緒に書くことができた。

個	教科	本単元における個別の目標	I 単位ごとの評価																備考		
			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯		⑰	⑱
H	知	生小2	一人で食券を選んでお金を入れたり、「これ、ください。」等に必要な言葉を伝えてお金を支払ったりすることができる。				○	○					○	○	/	/	/	/	/		
	思	生小2	遊園地で乗りたい物やお店で買いたい物を選ぶことができる。			○	○	○	○				○	○	○	/	○	/	○	○	
	主		(上記を主体的に学び、生活に生かそうとする。)	○	○	○	○	○				○	○	○	○	/	○	/	○	○	

知:⑩の物産会館の昼食注文の学習では、友達の様子をよく見て順番を待ち、名前を呼ばれるとうれしそうに財布を持って券売機の前に進むことができた。
 千円札を広げて穴の形に合わせて入れようとしたり、注文パネルに注目してボタンを押したりすることができた。
 タイマーがなって、注文メニューを受け取る時には、「ありがとうございました。」と喃語で発声し伝えることができた。

思:リナワールドのアトラクションやぶどうなど、好きなものを選ぶときには、ホワイトボードに掲示されたイラストや写真を見て、好きなものところに自分の写真カードを貼って選ぶことができた。
 ②のめあてを決める際には、教師の言葉掛けを受けて、活動の写真や約束のイラストをよく見て、リナワールドの写真に自分の顔写真カードを貼り、「いろいろな乗り物に挑戦したいです。」と発表することができた。
 ⑧のお礼状作成の送り先を選択するときには、ホテルの写真に自分の顔写真カードを貼って選ぶことができた。「私はホテルに決めました。」と教師と一緒に発表することができた。

主:興味を持って近づいてのぞき込むように注目したり、名前を呼ばれるとすぐに立ち上がって活動する場所へ向かったりするなど、自分から進んで活動に参加しようとすることができた。

【修学旅行当日】2日間、教師の話や話を聞こうとする様子が見られ、友達と一緒に行動することができた。どの活動にも、とても意欲的に取り組むことができた。
 リナワールド:乗りたいアトラクションを指さしたり、自分から列に並ぼうとしたりして伝えることができた。
 自動販売機で飲み物を購入したい気持ちを、財布を持って発声したり、自動販売機を指さしたりして伝えることができた。自分で財布から硬貨を出して入れ、あらかじめ選んでいた飲み物のボタンを教師と一緒に確認して自分で押し、おつりと飲み物を取ることができた。
 ホテル:自分の部屋を知ってゆったりと過ごしたり、自分のことを自分でしようとしたりすることができた。友達の部屋に遊びに行くと、友達や教師と一緒に笑いながら楽しそうに遊び、食事では自分の食べたいものを選んで食べるすることができた。入浴は、自分のことを自分でしようとし、部分的に教師の手伝いを受けながら取り組み、ゆっくりと教師と一緒に湯船につかることができた。就寝時は静かに布団の中で眠ろうとし、起床後も早速着替え始めるなど、意欲的に取り組むことができた。
 ぶどう狩り:好きなぶどうを選び、教師と一緒にはさみを使ってカットした。取ったぶどうをうれしそうに掲げ、次々と味わうことができた。
 観光物産会館:メニューの看板をよく見て食べたい物を決め、券売機のボタンを教師と一緒に確認すると、自分でお札を入れてボタンを押すことができた。食後はクリームソーダを選んで指さして伝え、教師と一緒に購入することができた。お土産購入では、教師と一緒に買う人(家族、おじいちゃんおばあちゃん、スクールバスなど)を確認しながら、自分で気に入ったものを選ぶことができた。レジでは、「これをください。」と言いながらかごをレジのカウンターに置き、自分で財布からトレイにお札を出すことができた。おつりを受け取り財布に入れ、エコバックを持つと、「ありがとうございました。」と伝えることができた。知:⑩の物産会館の昼食注文の学習では、友達の様子をよく見て順番を待ち、名前を呼ばれるとうれしそうに財布を持って券売機の前に進むことができた。
 千円札を広げて穴の形に合わせて入れようとしたり、注文パネルに注目してボタンを押したりすることができた。
 タイマーがなって、注文メニューを受け取る時には、「ありがとうございました。」と喃語で発声し伝えることができた。

思:リナワールドのアトラクションやぶどうなど、好きなものを選ぶときには、ホワイトボードに掲示されたイラストや写真を見て、好きなものところに自分の写真カードを貼って選ぶことができた。

主:興味を持って近づいてのぞき込むように注目したり、名前を呼ばれるとすぐに立ち上がって活動する場所へ向かったりするなど、自分から進んで活動に参加しようとすることができた。

【授業シート】		学部・学年・題材／単元名		修学旅行に行こう		TI	亀谷 征功
授業日	9月26日(月)	時間	10:10~10:55	場所	6年教室	本時	11時間／18時間

本単元に関わる児童生徒の実態及び授業について

- 学習内容を大きく4つ(①りんご狩り②リナワールド③観光物産会館④ホテル)に分け、15分単位で繰り返しながら少しずつ学習を積み重ねることで、児童がより学習内容を理解することができるようにしたい。
- 写真や動画教材などを提示しながら児童が活動のイメージを持つことができるようにし、修学旅行への期待感を高められるようにしたい。
- 単元シートを活用して毎時間個別の目標の評価を行ってきた。これまで蓄積してきた評価を参考に、本時の目標を達成することを目指したい。

本時の目標	関連する単元の目標	関連する資質・能力
○自然や社会の様々な事象に触れることを通して、経験の幅を広げることができる。	①, ②	②, ④, ⑤

学習活動(時間)	○手立て・留意点	準備物等
1 「修学旅行の歌」を歌う。(5分)	○「幸せなら手をたたこう」の歌のリズムに合わせて、児童が言葉を選んで作った「修学旅行の歌」を歌う。TVモニターに歌詞と関連する画像を提示しながら、修学旅行の活動内容を繰り返し印象付け、修学旅行への期待感を高める。	・タブレット端末 ・TVモニター
2 「修学旅行の約束」を確認する。(3分)	○修学旅行の3つの約束を毎時間繰り返し確認することで、旅行中も3つの約束を意識して活動できるようにする。	
3 今日の学習内容を知る。(2分)	○TVモニターに、4つの画像(①ぶどう狩り②リナワールド③観光物産会館④ホテル)を提示し、今日学習する内容を視覚的に理解できるようにする。	
4 リナワールドのアトラクションを疑似体験する。(15分)	○動画でアトラクションの遊び方を視聴し、一人ずつ教材を使いながら模擬体験をする。体験の最中にTVモニターから動画や音声を流し、臨場感が出るようにする。	・アトラクション教材
5 ぶどうの木の枝から実を採る疑似体験をする。(15分)	○TVモニターとぶどうの木の枝を使って、教室にぶどうの木を再現する。手指消毒をし、枝についた実を外し、ポリ袋に入れるという当日の活動にできるだけ近い形で活動できるようにする。	・ぶどうの木の模型 ・ぶどうの模型 ・ポリ袋
6 「振り返り」をする。(5分)	○代表児童が感想発表する。修学旅行の学習カレンダーにシールを貼り、修学旅行があと3日後に近づいてきたことに触れ、期待感を高める。	

本時の評価 (各教科等の学習評価の視点も踏まえ)

- ・モニターを使っの遊園地のアトラクションの疑似体験では、どの児童も楽しくイメージを持つことができた。音の演出の方法を工夫することでより臨場感を出すことができたかもしれない。
- ・ぶどう狩り体験の時間が短くなってしまったので、授業内容に応じて授業時間を柔軟に変更してもいいかもしれない。

単元の目標	
「人間関係の形成」	・人に対する基本的な信頼感を持ち、他者からの働き掛けを受け止め、それに応ずる。 ・他者の意図や感情を理解し、場に応じた適切な行動をとる。
「環境の把握」	・自分の身体を意識し、ボディイメージを持ったり、動かしたりする。 目と手の協応動作や弁別、身体の空間認知等
「身体の動き」	・作業に必要な基本動作を取得し、その巧緻性や持続性の向上を図る。 (R4 小学部教育課程 自立活動Aより抜粋)

主な教科等の育成を目指す資質・能力	
知	国語○身近な人の話し掛けに慣れ、言葉が事物の内容を表していることを感じることができる。 算数○目の前で隠されたものを探したり、身近にあるものや人の名を聞いて指を差したりすることができる。 図工○身の回りの自然物などに触れながら、切る、ぬる、はるなどができる。
思	国語○教師と一緒に絵本などを見て、示された身近な事物や生き物などに気付き、注目することができる。 算数○対象物に注意を向け、対象物の存在に気付き、諸感覚を協応させながら捉えることができる。 図工○身の回りにあるものなどを見ることができる。
主	生活○自分のことに取り組もうとしたり、身近な人々、社会及び自然に関心を持ち、意欲をもって学ぼうとする。 国語○言葉で表すことやそのよさを感じるとともに、言葉を使おうとする。 算数○数量や図形に気付き、算数の学習に関心をもって取り組もうとする。 図工○進んで表したり見たりする活動に取り組む、つくりだすことの楽しさに気付くとともに、形や色などに関わることにより楽しい生活を創造しようとする。

時	日付	主な学習内容	○手だて・留意点	教科
通年		○描いてみよう ・自由に ・簡単な形(○・△・□など) ・ひらがな(自分の名前など)	○ガードしてある手にマジックテープでペンを固定し一人で描けるようにする。その際、実際にペンを握る位置になるよう調整する。 ○右手にペンを持ち、左手で紙を押さえるなど、姿勢を整えてから活動始める。 ○背筋を伸ばし正しい姿勢で活動できるよう、家庭のビニール製椅子(座位用)やミニテーブルを使用する。 ○疲れた様子が見られたときは、横になってリラックスする時間を設ける。	生活 国語 算数 図工
		○点けてみよう ・タッチセンサーライト ・ボタンスイッチライト	○タッチセンサーライトなど、ガードしてある手でも簡単に操作できる物を準備する。 ○一人で操作できるよう、スイッチが小さいときは大きく目立つボタンになるよう工夫する。 ○始めは教師が行い、次に一緒に操作することで、触れると光ったり、色が変わったり、消えたりすることが理解できるようにする。 ○自分のペースでライトを観察したり操作したりできるよう十分な時間を取る。	生活 図工
		○両手で操作しよう ・おもちゃのギター ・電子ロール鍵盤 ・絵本のページめくり	○はっきりした色合いの物、音が鳴る物、様々な感触の物など、視覚・聴覚・触覚で楽しめる物を準備する。 ○両手で操作する物、両手で取る物など、状況に応じて左右それぞれの手を使う経験が持てるようにする。	生活 国語 算数 図工

個	知	思	主
目標・評価	○手を動かすと紙に色が付くことを知り、手元を見ながら描くことができる。 ・選んだペンで教師と一緒に手を動かして色を付けた後、描いた物を目の前に提示すると注視した。その後は、時折、手元を見ながら色を付けることができた。 	○ペンの色を選択し、線や丸など一人で手を動かして描くことができる。 ・4色のペンを端から順に見た後、気になる色を見詰めて選んだ。 ・連続した丸や線を描いたり、ペンをとんとんと紙に押し当てて色を付けたりした。 	○自ら描こう(書こう)とする。 ・気持ちののりと、勢いよく手を動かして積極的に描いた。  
目標・評価	○ライトそのものやスイッチをたたくと、点灯したり色が変わったり、消灯したりすることを知り、一人で操作することができる。 ・偶然手が触れて色が変わったことをきっかけに、狙いを定めてたたき、変化を楽しむようになった。 ・スイッチに手を持って行って操作することができた。 	○遊びたいライトを選択したり、好みの色や点滅になるよう操作したりすることができる。 ・球体の他、星やハート型、棒状のライトの中から、お気に入りのハート型を選択し、好みのゆっくり点滅にセットして楽しんだ。 	○自ら操作しようとする。 ・3回目からは、ライトが登場すると、すぐに手を伸ばして操作するようになった。 ・スイッチを押す力加減を調整したり、動いていかに押さえたり、試行錯誤しながら楽しんだ。 
目標・評価	○「両手を使うとできるよくなること」や「両手を使うとより楽しく活動できること」を知り、一人で操作することができる。 ・動かしやすい右手で操作の仕方を覚えた後で、左手も同じ操作をするように促した。数回繰り返すと、左手でもできるようになり、自ら両手を動かすようになった。 	○左右それぞれの手をどのように動かすか考え、操作することができる。 ・おもちゃのギターでは、自分から動かしやすい右手を鍵盤に、左手を押すとドラムの音がするボタンに乗せて遊んだ。スピードや力加減を変えながら、長い時間楽しんだ。 	○自ら操作しようとする。 ・お気に入りのおもちゃのギターには、積極的に手を伸ばして遊んだ。 ・絵本が動いて右手でページがうまくめくれないとき、左手で押さえようとする動きが少し見られたこともあった。 

単元の反省
・今年度は、コロナウイルス感染症予防から、週1回1時間(後期は1時間30分)の訪問授業だったので、実態を把握しながら手探りで計画立案、実践であった。取り組む中で、手に着けた磁石で物を引き寄せる「取ってみよう」の活動より、もっと自由に、自分なりに手の動かし方を試行錯誤できる機会を設ける方が、手を使う楽しさが味わえると判断し、3つめの活動を「両手で操作しよう」に切り替えた。

学習評価	
知	・数回繰り返すと仕組みを理解することができた。 ・「動かすと色が付く」「押すと光る」「押すと音がする」といった単純な仕組みの教材を好み、意欲的に取り組んだ。
思	・十分に時間を確保することで、自ら観察し、どうするか考え、試しに操作し、調整したり工夫したりする姿が見られた。
主	・タッチセンサーライトやおもちゃのギターは、特に好んで長い時間楽しんだ。 ・教材を見ただけで笑顔になったり、自ら引き寄せ、すぐに操作しようとした。

単元の目標		育成を目指す主な教科等の資質・能力	
(1) 夏をイメージした作品作りで、表したい花火に合わせ、工夫して制作することができる。	①④⑧	知	①【美術：中：1】A(イ) 材料や用具の扱いに親しみ、表したいことに合わせて、表し方を工夫し、材料や用具を選んで使い表すこと。 ②【家庭：中：1】Aウ(ア) 健康や様々な余暇の過ごし方について知り、実践しようとする。
(2) 友達の作品の良さに気付いたり、自分が作った作品について伝えたいことを考えたり、自分の方法で伝えようとしたりすることができる。	③④⑤⑥	思	③【国語：中：1】Aイ 話す事柄を思い浮かべ、伝えたいことを決めること。 ④【美術：中：1】Aア(ア) 経験したことや思ったこと、材料などを基に、表したいことや表し方を考えて、発想や構想をすること。 ⑤【美術：中：1】Bア(ア) 自分たちの作品や身近な造形作品の制作の過程などの鑑賞を通して、よさや面白さに気付き、自分の見方や感じ方を広げること。 ⑥【美術：中：1】Bア(イ) 表し方や材料による印象の違いなどに気付き、自分の見方や感じ方を広げること。 ⑦【家庭：中：1】Aウ(イ) 望ましい生活環境や健康及び様々な余暇の過ごし方について気付き、工夫すること。
(3) 制作や花火大会を通して余暇の過ごし方に気付き、生活を工夫しようとする。	②⑦⑧⑨	主	⑧【美術：中：1】ウ 楽しく美術の活動に取り組み、創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を培い、心豊かな生活を営む態度を養う。 ⑨【家庭：中：1】ウ 家族や地域の人々とのやりとりを通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫しようとする態度を養う。

時	日付	主な学習内容	○手立て・留意点	教科
2	6/20	○夏のクイズをする。 ・物当て、音当てクイズを通して、夏の風物詩を知る。 ○作品に表したい花火を決める。 ・花火の映像を鑑賞し、気に入った花火の写真を選択する。	・タブレット端末をテレビモニターにミラーリングして使用。 ・リモート学習用のタブレット端末を台用意し、別室にいる生徒も一緒に学習に参加できるようにする。 ○夏のクイズをタブレット端末で操作できるようにし、答えの選択肢となる絵や写真を生徒が指で触れて選ぶことができるようにする。 ○花火大会の動画、それから4種類の花火の動画を上映する。気に入った花火をひとつ選び、ホワイトボードに掲示した写真に自分の顔写真を貼るようにする。	美
8	6/22	○ちぎり絵の台紙に模様を付ける。 ○色を見て折り紙を選び、ちぎる。	○花火のちぎり絵の見本を見せ、台紙の模様付けの仕方を教師が実演して紹介する。 ※絵の具を4色選び、ビー玉を入れ、箱に入れた画用紙の上に投入して転がす。 ○絵の具の色、ビー玉が転がる音と振動、描かれる絵の具の線など、五感で楽しむように働き掛ける。 ○折り紙をちぎる大きさの目安となるように、一人一人に見本を用意する。	美家
	6/24	○花火のちぎり絵に取り組む。 ・色を見て折り紙を選び、ちぎる。貼り付ける。	○4種類の花火の写真を掲示していき、いつでも自分が選んだ花火を確認できるようにしておく。 ○必要に応じて紙芯でボンドを付けて花火を形作れるようにしたり、手を添えて一緒に取り組んだりする。 【重度重複生徒への配慮】 *折り紙をシュレッダーで細断する。折り紙に切れ目を入れ、ひも付きクリップを付けて引っ張って裂く。折り紙をボンドの上に落として付ける。五感で楽しむようにする。	美家
	6/27 6/29			
2	7/1	○花火大会をする。 ・映像の中で、自分の作品を打ち上げる。 ・自分の作品について発表する。 ○互いの作品を鑑賞し合う。 ○夏休みの作品展に出品すること、川開き祭りが再開されて花火大会があることを知る。	○作品完成までの頑張る様子を写真で振り返る。 ○発表の仕方を示範することで、活動の見通しが持てるようにする。 ①呼名されたら特別席に行く。 ②太鼓を叩いて花火を打ち上げる。(映像) ③自分の作品について発表・掲示する。 ○全員の花火作品を見ながら、みんなの頑張りを称え合う。 ○夏休みに作品展や花火大会があることを知らせ、行ってみたい気持ちや期待感がもてるようにしたい。	国美家

個	教科	本単元における個別の目標	評価	メモ欄(配慮・具体的な姿など)
A	知 美小2	花火の音を聞いたり、花火の映像を見たりして、花火のイメージを持つことができる。	○	事前学習の花火の映像を見て音に驚き怖がったが、ちぎったり、貼ったりする活動を通して花火のイメージを持つことができた。できあがった作品を見て「頑張った。」と気持ちを言葉で表現することができた。
	思 国小2	作品の好きどころや頑張ったところを、指差しや言葉で伝えることができる。	○	
B	主 美小2	ちぎる、貼る活動に集中して花火作りを楽しみ取り組もうとする。	○	
	知 美小2	花火の映像や音を聞いている友達の様子を見て、場の雰囲気を感じることができる。	○	4種類の花火の中から作りたい花火や好きな色の折り紙を自分で選んで制作に取り組むことができた。「ここ。」と、選ぶことが難しく指差しをして発表に返す手立ては有効ではなかった。
C	思 国小2	教師の支援を受けて、作品の好きどころや頑張ったところを指差しをして伝えることができる。	△	
	主 美小2	少ない支援で、紙をちぎったり貼ったりして作品作りに取り組もうとする。	○	
D	知 美小3	用具や材料を自分で選択し、工夫して花火の作品作りに取り組むことができる。	○	作品作りでは、ボンドを直接塗るのか、筆を使って糊付けするか、また折り紙の種類を自分で選択することができていた。発表の時間では、事前練習の通りスムーズに言葉カードを選択し、読みながら発表していた。
	思 国小3	言葉カードを選択して組み合わせ、文章を読みながら自分の作品について発表することができる。	○	
E	主 美小3	自分で材料や工程を選びながら楽しんで作品作りに取り組むことができる。	○	
	知 美小2	花火に興味を持ち、折り紙の色を選びながらちぎり絵作りに取り組むことができる。	○	花火の映像をよく見て、4つの花火の写真から「小割」を選ぶことができた。
F	思 国小2	作品作りで頑張ったことについて書いた平仮名の文章を見ながら発表することができる。	○	好きな色の折り紙を手にとって自分からちぎることができた。貼った折り紙を取らずに、機嫌良く取り組んだ。発表は、言葉で「楽しかったです。」と言えた。
	主 美小2	ちぎったり貼ったりすることを一定時間集中して取り組もうとする。	○	
G	知 美小3	用具や材料、取り組む順番を自分で選択し、工夫して花火の作品作りに取り組むことができる。	◎	筆を使って糊付けしたり、貼るのか糊付けするのかを教師の働き掛けを受けて自分で選択することができた。発表の時間では、事前に自分で書いた原稿を読みながら頑張ったことについて発表することができていた。
	思 国小3	原稿を見ながら、自分の作品や頑張ったところについて簡単な言葉で発表することができる。	○	
H	主 美小3	材料の種類や用具の使い方をしながら楽しんで作品作りに取り組むことができる。	○	
	知 美小2	花火の音や花火の映像を見て、夏を感じることができる。	○	作りたい花火のイメージをしっかりとって制作に取り組むことができた。ちぎり方や貼り方も丁寧で、作品に対する思いが伝わってきた。声が小さくても自信をもって発表できるような手立ての工夫が必要だった。
I	思 国小2	作品の好きどころや頑張ったところを、指差しや言葉を用いて発表することができる。	△	
	主 美小2	見本の紙の大きさを参考にしながら紙をちぎり、自分のイメージを大切に作品作りに取り組もうとする。	◎	
J	知 美小1	花火の音を聞いたり映像を見たりして、花火大会の雰囲気を楽しむことができる。	◎	花火の映像をじっと見ていた。花火を打ち上げる音の大きさに少々驚いた様子だった。4種類の花火の写真の中で「小割」の写真強く握って選んだ。折り紙をシュレッダーで裁断する様子と音に笑顔を見せたり、紐付きクリップを引っ張って折り紙を裂くことを楽しんだりした。
	思 美小1	好きな花火を選んだり、折り紙の色を自分で決めたりして、花火の作品作りに取り組むことができる。	◎	
K	主 美小1	素材に触れて感触に親しんだり、いろいろな音を聞いたりして作品作りを楽しもうとする。	○	タブレット端末に映し出された花火の映像を見つめたり、手を伸ばし興味を示したりしながら鑑賞することができていた。気に入った花火に自分の写真カードを貼って選んだり、シュレッダーで細かくした色紙を掴まんで観察しながら貼り付けたりしながら取り組むことができた。
	知 美小2	太鼓を叩いて音を出したり自分や友達の作品を見たりすることで、花火大会の雰囲気を味わうことができる。	◎	自分の番が来ると言葉掛けなしでばちを持ち、太鼓をたたくことができた。自分の作品が音とともに画面に映し出されると、笑みを浮かべて満足そうだった。花火の作品を見ながら指差ししながら「ここ!」と答えることができた。
L	思 国小3	自分の作品だけでなく、友達の作品の良さについても気付き、言葉で称賛することができる。	◎	「次はどんな花火かな。」「A君と似てるね。ナイアガラ。」など、自分の作品だけでなく友達の作品にも関心を持ち、楽しく鑑賞することができていた。制作場面では、よそ見をすることも多かったが、少しずつ集中して取り組めた。
	主 美小2	手をよく見て折り紙をちぎったり貼ったりしようとする。	○	
M	知 国小1	花火の音が鳴る方向や友達が作品発表している方などに顔を向けて聞き、楽しむことができる。	○	花火の音がなる方に顔を向け、発声や手の振り上げなどの動きで喜びを表現しながら楽しんで鑑賞することができていた。自分でビー玉を握って離すことで雨樋を通して転がしたり、その時に鳴る音に声を出して喜んだりしながら笑顔で取り組むことができた。
	思 美小1	好きな色を選んだり、ビー玉が転がる音や紙がちぎれる音などを楽しんだりしながら作品作りに取り組むことができる。	◎	
	主 美小1		○	

単元の反省(学習内容・手立て・教材・授業時数・指導形態などの視点から)	
○単元の導入で物当てクイズだけでなく、音当てクイズも行ったことで生徒の食い付きが良く、意欲的に取り組む様子が見られた。また、4種類の花火から自分の好きな花火を選んでイメージを膨らませ作品作りにつなげたことで、作品の中にも生徒の個性がより強く表れていたように感じた。	
○ビー玉を転がして台紙に模様を付ける活動や、折り紙をシュレッダーで細断するなど生徒の実態に応じて手立てを工夫することで、幅広い実態の生徒が主体的に取り組むことができた。	
○音当てクイズや太鼓を叩いて花火を打ち上げるなど、生徒自身が五感を使って花火の音や色を感じ、単元を通して楽しむことができていた。	

学習評価	知	生徒全員がお気に入りの花火を一つ選び、それぞれが工夫して自分なりの花火の作品を作ることができた。
	思	自分の作品のがんばったところや工夫したところについて、それぞれの方法で発表することができた。
	主	夏のクイズ、作品作り、花火大会と単元を通して生徒全員が楽しんで取り組むことができた。

【授業シート】		学部・学年・題材／単元名		中学部・1年 /夏を楽しくI		T1	太田周吾
授業日	7月1日(金)	時間	10:35~11:35	場所	中1年1組教室・自活室1	本時	11,12時間 /12時間

本単元に関わる児童生徒の実態及び授業について

- ・児童数11人(男子6人,女子5人)*医療的ケア生徒3人(別室対応,1人欠席)
- ・制作活動について,個人差はあるがどの生徒も作品作りに意欲を見せることが多く,完成を楽しみにする生徒もいる。
- ・自分の思いを2~3語文で話せる生徒もいるが,単語や発声,体の動き等で表現する生徒もいる。自分から思いを言葉で表現する生徒よりも,選択肢から選んだり,教師が押し量って意味付けをしたりする生徒のほうが多い。
- ・発表や動画教材を見るだけでなく,自分の花火を打ち上げる際の特別席の用意や太鼓を鳴らす活動,音の演出,映像など,体を動かし五感で感じながら楽しく取り組めるようにしたい。
- ・学習の様子を学年便りでも紹介し,作品展や花火大会など,夏休みの余暇の過ごし方の一案となるようにしたい。

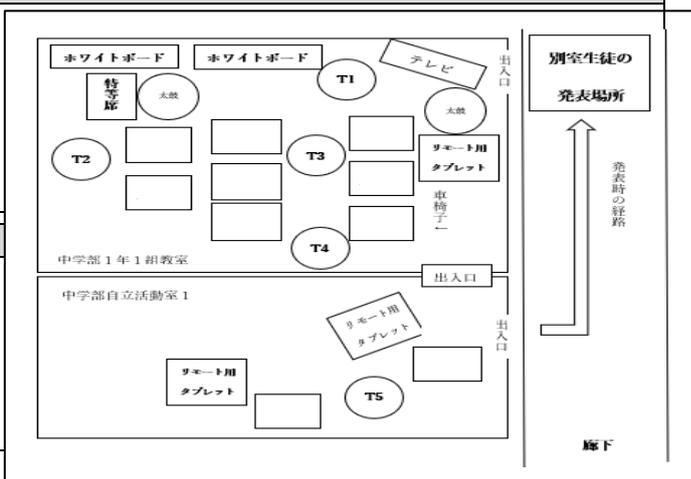
本時の目標	関連する単元の目標	関連する資質・能力
<ul style="list-style-type: none"> ・自分が作り上げた作品を,みんなの前で自分なりの表現方法で発表することができる。 ・一人一人の作品を見ながら,みんなで花火大会の楽しさを感じることができる。 	(2)(3)	③⑤⑥⑦⑧⑨

学習活動(時間)	○手立て・留意点	準備物等
1 本時の学習内容を知る。(10分) ①本時の流れを知る。 ②作品作りの頑張りを振り返る。 ③発表の示範を見る。 2 花火大会を行う。(45分) ①映像の中で自分の作品を打ち上げる。 ・特等席で太鼓を叩く。 ②自分の作品について,頑張ったところを発表・掲示する。 *友達の作品を鑑賞する。 3 本時のまとめをする。(5分) ①みんなの頑張りを,拍手で称え合う。 ②夏休みの作品展に出品することや川開き祭りが今年から再開し,花火大会があることを知る。	○作品完成までの頑張る様子を写真で振り返る。 ○本時の流れを視覚的に説明するため,発表の仕方について順番を掲示するとともに流れを示範することで,学習に見通しを持てるようにする。 ○動画教材を活用して自分の作品を打ち上げる視覚的な支援を行い,言葉による説明を少なくする。 ①呼名されたら特等席に行く。 ②太鼓を叩いて花火を打ち上げる。(映像) ③自分の作品について発表・掲示する。 ・自分から行動できるように見守り,必要に応じて支援をする。 【重度重複生徒への配慮】 ※廊下からビー玉を転がして太鼓に落とすことで音が出るようにする。作品の掲示は,友達に依頼する。 ○全員の花火作品を見ながら,みんなの頑張りを称え合う。 ○夏休みに作品展や花火大会があることを知らせ,行ってみたい気持ちや期待感がもてるような働き掛けを工夫したい。	・タブレット端末 ・TVモニター ・パワーポイント教材 ・太鼓 ・特等席の椅子 ・ホワイトボード ・生徒の作品 ・手指消毒剤 ・雨どい ・ビー玉 ・がんばりボン

本時の評価 (各教科等の学習評価の視点も踏まえ)

自分の作品のがんばったところや工夫したところについて,実態に合わせた方法で発表することができた。また,太鼓を笑顔で叩く様子も見られるなど多くの生徒が楽しんで取り組むことができた。

主な教材教具	場の設定
<ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイント教材 ・タブレット端末・TVモニター ・雨どい,ビー玉,たらい,太鼓,バチ,生徒作品,がんばりボン(称賛用) 	



単元の目標		育成を目指す主な教科等の資質・能力	
(1) 3月には中学部を卒業することを知り、卒業への意識をもつ。	⑥	知	①【美術:中:2】A(イ)材料や用具の扱い方を身に付け、表したいことに合わせて、材料や用具の特徴を生かしたり、それらを組み合わせたりして計画的に表すこと。
(2) 道具の正しい使い方や様々な材料の特徴を知り、安全に気を付けて制作に取り組む。	① ⑤	思	②【美術:中:2】A(ア)経験したことや想像したこと、材料などを基に、表したいことや表し方を考えて、発想や構想をすること。 ③【美術:中:2】B(ア)自分たちの作品や美術作品などを鑑賞して、よさや面白さ、美しさを感じ取り、自分の見方や感じ方を深めること。 ④【国語:中:2】Aイ相手や目的に応じて、自分の伝えたいことを明確にすること。
(3) 自分なりのデザインを考え、作品に表現することができる。	② ③ ④ ⑤	主	⑤【美術:中:2】(ウ)主体的に美術の活動に取り組み、創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を高め、心豊かな生活を営む態度を養う。 ⑥【職業:中:2】ウ将来の職業生活の実現に向けて、生活を工夫して考えようとする実践的な態度を養う。

時	日	主な学習内容	○手立て・留意点	教科
1 ・ 2	11/ 14 (月)	○オリエンテーション ・時計を作成することを知り、どんな飾りの時計を作りたいか考える。 ○時計のフレームをどう表したいかアイデアスケッチを描く。 ・自分の表したい季節を決める。 ・その季節にふさわしい色を考える。 ・塗る用具を選んで、スケッチ枠に色を塗る。	○卒業して高等部に進むことを、パワーポイントで図示し、意識をもてるようにする。 ○時刻を知ることの大切さを知り、意欲的に時計を作ろうとする思いをもてるようにする。 ○教師が作成した時計の完成品を見て、自分だけの時計を作成しようとする気持ちを高める。 ○四季の日本の風景写真を示して、表したい季節を決めて季節がイメージする色を考えられるようにする。 ○自分が表したいイメージを、アイデアスケッチに表す。 ・スケッチ枠は多めに用意し、描き直して自分が気に入ったイメージのアイデアスケッチを描けるようにする。 ・スケッチの余白に、生徒の考えを自分でまた教師が記入し、イメージとアイデアスケッチの関連を深めるようにする。	美 職
3 ・ 4	11/ 25 (金)	○時計のフレームに色を塗る。 ・アイデアスケッチに合うように、アクリル絵の具の色や塗る用具を選んでフレームに塗る。 ・アイデアスケッチとの違いに気付いて修正する。	○10月に描いた抽象画を教室内に掲示し、前時の学習を振り返り色塗りの参考にできるようにする。 ○アイデアスケッチやイメージを基に、いろいろな色や用具を用意し、選べるようにする。 ・アイデアスケッチの色と全く同じ色がなくても、近い色を選べば良いことを個別に言葉掛けする。 ○イメージに合うように、抽象画を描いたときに使った塗るための道具を今回も並べて選べるようにする。 ○アイデアスケッチや自分が選んだ季節の写真の横に置いて、見比べながら色塗りにできるようにする。	美
5 ・ 6	11/ 28 (月)	○イメージに合った飾りをどう付けるか考えアイデアスケッチに描き込む。	○自分が選んだ季節の写真を手元に置いて、イメージに合った飾りをどう入れるか考え描き込むようにする。 ○なかなか思い付かない生徒には、さらに具体的な季節を表すイラストを提示して描き込みやすくする。 ・絵が描けない生徒は、イラストを選んで貼るようにする。	美
7 ・ 8	12/ 2 (金) 本時	○フレームを飾る。 ・アイデアスケッチやイメージを基に、材料や用具を選び、フレームに置いて考える。 ・決まったら、タイルをボンドで貼り付けたり、彩色したりする。	○アイデアスケッチやイメージに近い表現ができるよう、使いたいアクリル絵の具とタイルの色を教師と一緒に考えるようにする。 ○彩色するための用具や絵の具、色タイルをいろいろ用意し、生徒がイメージを基に表現する方法を選べるようにする。 ・必要に応じて、彩色する色を教師と一緒に考えるようにする。 ・フレームに彩色する前に、アイデアスケッチに色を着けたり、選んだタイルを貼る前にフレームにいろいろ置いたりして、アイデアスケッチやイメージに一番合ったものを決められるように必要に応じて言葉掛けする。 ・彩色した後に、もっと違った色が塗りたくなったら場合は、ドライヤーで乾かして上に塗れるようにする。	美
9	12/ 7 (水)	○自分の作品について、どういうイメージで作ったかと合わせて自己評価を発表する。 ○友達作品を見て、感想を発表する。 ○卒業への意識を持つ。	○自分の作品とアイデアスケッチを並べて机上に置き、見比べながら発表できるようにする。 ・出来上がった時計とアイデアスケッチを見比べてどうできたかを評価基準として評価するように促す。 ・発表が難しい生徒には、色はどうか、模様はどうかなど話す観点を伝えたり、作品の良いと思う所を指し示めしたりすることで伝えられるようにする。 ○時計が表す季節の変化とカレンダーから、卒業が近づいていることを意識できるようにする。	美 国

	知 上段:○目標・手だて 下段:目標段階, 評価	思 上段:○目標・手だて 下段:目標段階, 評価	主 上段:○目標・手だて 下段:目標段階, 評価
A	○選んだ絵の具やタイルを使って、教師と一緒に描いたり、貼ったりすることができる。 ・ぬりやすい用具を用意し、選べるようにする。 図小1A(イ) ◎	○提示された季節や色マジックから自分の使いたいものを選んで、アイデアスケッチを描くことができる。 ・季節を写真から選びアイデアスケッチに描くようにする。 図小1A(ア) ○	○選ぶ、線を引く、一部塗る、ボンドを付ける活動に、主体的に取り組もうとする。 ・興味を引く材料や用具を用意し、選べるようにする。 図小1ウ ○
B	○表したいものに合わせて材料を選び、アイデアスケッチを見ながら制作することができる。 ・経験した材料や用具を用意し、スケッチに合う描き方をできるようにする。 美中2A(イ) ◎	○選んだ季節の写真を見ながら表したいことや表し方を考えアイデアスケッチに描くことができる。 ・季節の写真を複数用意し、表したいイメージに合うものを選ぶようにする。 美中2A(ア) ◎	○アイデアスケッチを基に、主体的に制作に取り組み、達成感や喜びをもつ。 ・材料や用具を複数用意し、選択できるようにする。 美中2ウ ◎
C	○アイデアスケッチを確認しながら、表したいものをイメージして材料を選び、制作することができる。 美中2A(イ) ◎	○選んだ季節の写真の特徴を捉え、アイデアスケッチにイメージを描くことができる。 美中1 共通 A(イ) ◎	○アイデアスケッチを基に、主体的に制作に取り組み、達成感や喜びをもつ。 ・材料や用具を複数用意し、選択できるようにする。 美中2ウ ◎
D	○アイデアスケッチを見ながら、イメージと合う色や用具を選んで制作することができる。 ・複数の材料を用意し、選択できるようにする。 美中1Aア(イ) ◎	○写真を見ながら、自由に色や形のイメージを膨らませ、アイデアスケッチに描くことができる。 ・発想からでた言葉も記録しておく。 美中2Aア(ア) ○	○創作活動に主体的に取り組む、達成感や喜びを味わう。 美中2ウ ◎
E	○アイデアスケッチを確認しながら、表したいものをイメージして材料を選び、制作することができる。 美中2A(イ) ◎	○自分のイメージや、経験したことを基に、表したいことや表し方を考えて、アイデアスケッチに描くことができる。 美中1 A ア(ア) ○	○アイデアスケッチを基に、主体的に制作に取り組み、達成感や喜びをもつ。 ・材料や用具を複数用意し、選択できるようにする。 美中2ウ ◎
F	○表したいものに合わせて色や用具を選び、制作することができる。 ・複数の材料を用意し、選択できるようにする。 美中1Aア(イ) ○	○写真の特徴を捉え、色や形のイメージを膨らませ、アイデアスケッチができる。 美中1 A ア(ア) ○	○楽しく制作活動に取り組み、喜びや達成感を味わう。 ・工夫したことを教師が言葉で称賛する。 美中1ウ ○
G	○アイデアスケッチに近い色や材料を選び、制作することができる。 ・教師と一緒に考え、決定は本人に任せ。 美中1Aア(イ) ○	○選んだ写真から受けるイメージを自分なりに表すことができる。 ・複数色を提示し、自由に選べるようにする。 美中1Aア(ア) ◎	○進んで創造活動に取り組み、自分なりの表現を楽しむことができる。 美中1ウ ○
H	○表したいことに合わせて色や材料、用具を選んで作ることができる。 ・材料や用具を複数用意し表現に合わせて選べるようにする。 美中1Aア(イ) ◎	○写真と自分の経験を基にイメージを広げ、発想することができる。 ・アイデアスケッチに絵の他に言葉なども記録しておく。 美中1Aア(ア) ○	○すすんで材料や用具を選んだり、表現方法を試したりして創作活動の喜びを味わう。 ・工夫したことを教師が言葉にして称賛する。 美中1ウ ◎
I	○アイデアスケッチに合わせて色や材料、用具を選んで制作することができる。 ・材料や用具を複数用意し表現に合わせて選べるようにする。 美中1Aア(イ) ◎	○写真と自分の経験を基にイメージを広げ、構想することができる。 ・模写で終わらないよう、経験からの発想を大事にする。 美中1Aア(ア) ◎	○構想を基に、自分で絵の具や用具を選び、楽しんで自分なりの表現をすることができる。 美中1ウ ◎
J	○アイデアスケッチを見て、使いたい色や材料を選ぶことができる。 ・アイデアスケッチに注目するよう促す。 美中1Aア(イ) ○	○選んだ写真から受けるイメージを自分なりに表すことができる。 ・複数色を提示し、自由に選べるようにする。 美中1Aア(ア) ◎	○自分から創造活動に取り組み、自分なりの表現を楽しむことができる。 美中1ウ ○
評価	◎:7 ○:3 △:0	◎:5 ○:5 △:0	◎:6 ○:4 △:0

学 習 評 価	知	実態に合った材料や用具を用意し, また扱い方をカードで示しその中から自分で使いたいものを選ばせることによって, それらを組み合わせる自分なりの作品を制作することができた。
	思	前時までの学習経験を活かすとともに, アイデアスケッチを活用したことで, 生徒それぞれが自分の描きたいイメージを明確に構想することができた。
	評	自分の作品を工夫して仕上げたことで, 相手の作品の良さにも気付くことができた。
	主 価	実態に合った材料や用具を視覚的に分かりやすく提示した学習環境と, アイデアスケッチによって自分の描きたいものがはっきりしたことによって, 主体的に楽しく取り組むことができた。

単元の反省(学習内容・手立て・教材・授業時数・指導形態などの視点から)	
(1)	<ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイントを用いて, 絵図と文字で生徒に捉えやすく提示したことで, 卒業や高等部に進みより自立した生活をしようとする意識を持たせることができた。 ●本単元と同時進行で進路の学習も行うことができれば, さらに卒業や高等部への意識が高めることができた。
(2)	<ul style="list-style-type: none"> ・7月の花火描写や10月の抽象画制作において, 好きな色の絵の具選びや, 使いたい彩色用具を選ぶ経験が生かされ, 構想や彩色がスムーズにできた。 ・彩色用具による表現の違いを示したカードにより, 自分が表したいイメージに合った用具選びができた。
(3)	<ul style="list-style-type: none"> ・最初に描きたい季節の写真を選ぶことで, 季節の特徴的な色などをイメージし, アイデアスケッチに描くことができた。 ・アイデアスケッチに表した自分の構想を, 実際に絵の具やタイルでどう表すか考え工夫することで, 自分だけの作品を仕上げることができ, 達成感を持つことができた。 ・アイデアスケッチに, まず自分で描きたいものを表現することで, 実際のフレームに装飾を施すときには, 自分のやりたいことが明確になり, 主体的に表現することにつながった。
学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ・アイデアスケッチによって自分の描きたいイメージを明確にすることができ, それに向かってどう表現を工夫していくか生徒が考え取り組む姿から, 美術の制作もプログラミング教育の実践につながっていることを知ることができた。 ・発表会を設け, 相手の作品の良さを伝えることで, 友達から褒められることで生徒の達成感を高めることができた。
手だて	<ul style="list-style-type: none"> ・材料や用具, 今日やることの提示などの学習環境を, 視覚的に分かりやすく整えたことで, 何をすればよいか目に見えて分かり, THさんも参加することができた。
教材	<ul style="list-style-type: none"> ・時計の制作は, 生徒の意欲を高め, 時計のフレームという限られたスペースでの表現であったので, 生徒は見通しを持ち, 主体的に取り組むことができた。
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・観点ごとに縦に記入欄を設けることで, 生徒が何を目標にしているのかが見やすくなった。また全体の反省をする上でも観点ごとまとめやすくなった。 ・手立ても入れたことで, 生徒の取り組みにおける評価がしやすくなった。 ・評価に目標の段階を詳しく入れることで, どこまでその生徒ができたかが分かり, 引継ぎにも有効である。

【授業シート】		学部・学年・題材／単元名	中学部・3年・卒業制作をしよう	TI	齋藤 光
授業日	12月2日(金)	時間	10:30~11:10	場所	3年2組教室
				本時	7時間/9時間

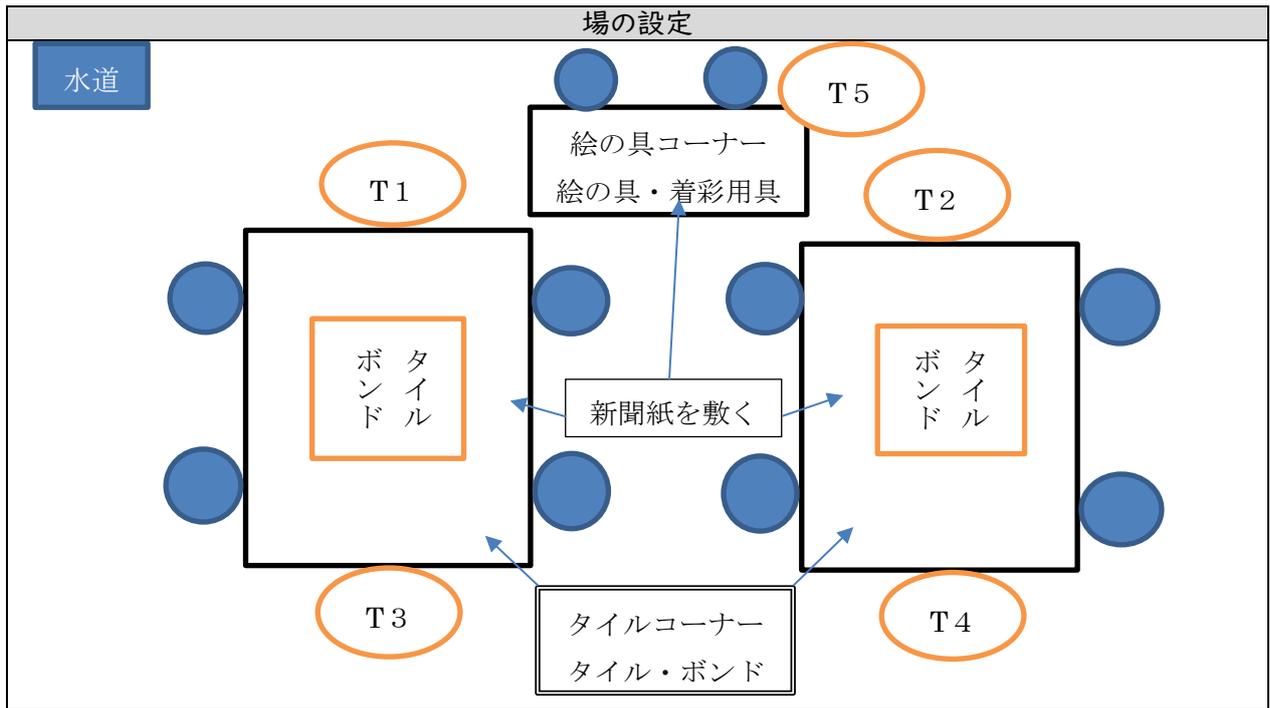
本単元に関わる児童生徒の実態及び授業について

- ・本学年は、男子6人、女子4人の計10人である。なかなか学習集団に入れない生徒もいるが、時計作りでは、全員が興味を持って一緒に活動に参加することをねらっている。
- ・10月には、「作品展に向けて」という題材で抽象画を描いている。その中で、色を選び、筆やペインティングナイフで板に描いた経験をここでも活用して取り組めるようにしたい。
- ・今回の授業は、プログラミング教育(アンプラグド)の実践であり、目標(アイデアスケッチ)の達成に必要な情報(材料)を判断・選択する場面を設定し、目標の達成を視覚的に理解できるよう教材の準備と題材設定を行っている。用具ごとの線の太さや、塗り幅の広さなどの情報を視覚的に提示することで、イメージに合うように色や飾りを選び、時に修正しつつゴールを目指す流れを、身に付けるようにしたい。なお、今回使用する材料の種類は、生徒が処理する情報量を整理することと、限られた材料で自分のイメージに近い発想・構想を引き出すこと目的として、タイルと絵の具の二つに限定した。

本時の目標	関連する単元の目標	関連する資質・能力
○自分のイメージするアイデアスケッチを基に、材料や用具を選び、時計のフレームを楽しく飾ることができる。	(2), (3)	①, ② ⑤, ⑥

学習活動(時間)	○手立て ・留意点	準備物等
1 初めの挨拶をする 2 今日の学習内容を知る <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> アイデアスケッチをもとに、時計のフレームを飾ろう。 </div> 3 自分の描いたアイデアスケッチを基に、フレームを飾る。 ①タイルコーナー ・アイデアスケッチを基に、タイルを選んでフレームに置く。 ・タイルをボンドで貼る。 ②絵の具コーナー 5 友達の作品を見合う。 6 終わりの挨拶をする。	○手立て ・留意点 ・絵の具コーナーとタイルコーナーを作り、それぞれ使う用具等を真ん中に置いておく。 ・自分で最初に取り組みたいコーナーに座る。 ○日直が挨拶する。 ○自分で考えたアイデアスケッチを基に、フレームを飾ることを伝える。 ○生徒が色を着けたフレームと教師の模範を示し、今日はフレームをさらに飾ることを伝えて活動の見通しを持てるようにする。 ・自分が描いたアイデアスケッチを見ながら、それを基に飾っていくように伝える。 ○いろいろな色の材料や用具を示し、その中から自分で選べるようにする。 ○アイデアスケッチをフレームの脇に置いて、見比べながらイメージに合ったタイルをフレームの上に置くように言葉掛ける。 ・すぐにボンドで貼ろうとする生徒には、一度全部置いてみることを勧め、入れ替えても良いことを伝える。 ・貼り方で悩んでいる生徒には、タイルを置きたい場所のフレームにボンドを少量着け、その上にタイルを置けばよいことを伝える。 ○着彩の時には、用具ごとの線の太さや、塗り幅の広さなどの情報を視覚的に伝えるカードを用具のそばに提示し、用具を選びやすくする。 ○色を選ぶときには、少しアイデアスケッチに塗って色を確かめながら選ぶように勧める。 ○ほかのコーナーに移動してもよいことを伝える。 ○コーナーごとに、互いの作品を見たり、感想を述べたりする。 ・まだボンドが固まってないので、机に置いたままで生徒が見て回る。 ○教師が言葉掛けし、生徒の感想を引き出す。 ○日直が挨拶する。	新聞紙 アイデアスケッチ 時計のフレーム タイル ボンド アクリル絵の具 絵筆, 皿, ペインティングナイフ ストロー スポンジ ローラー 割り箸 ペンなど

【授業シート】	学部・学年・題材／単元名	中学部・3年・卒業制作をしよう	T1	齋藤 光			
授業日	12月2日(金)	時間	10:30~11:10	場所	3年2組教室	本時	7時間/9時間



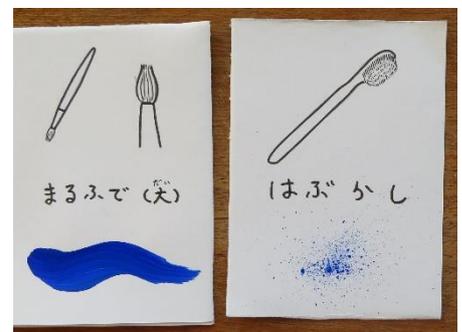
本時の評価	(各教科等の学習評価の視点も踏まえ)
<p>①用具の使い方カードを見ながら、自分の表現したいことに合わせて適切な用具を選んで制作することができた。</p> <p>②アイデアスケッチを基にしているが、制作段階でさまざまな材料や色を提示することで、さらに構想を深めることができた。</p> <p>⑤アイデアスケッチを見ながら、自分で材料や色、用具を選び、フレームに表現していた。</p> <p>⑥高等部での生活や時刻への意識を高める場面をさらに増やしてもよかった。</p>	



アイデアスケッチ



時計フレーム



着彩用具の紹介カード

単元の目標	
①曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作、身体表現の技能を身に付ける。(知識・技能)【資・能①②】	
②音楽表現を創意工夫することや、音楽の良さや美しさを自分なりに見出しながら音楽を味わって聴くことができるようにする。(思考力・判断力・表現力等)【資・能③④】	
③主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しみ、音楽経験を生かして生活を明るく豊かなものにしていく態度を養う。(学びに向かう力・人間性等)【資・能⑤】	

時	日付	主な学習内容	○手だて・留意点	教科
1 2	5月17日 5月23日	○様々な音楽を知ろう	○スライドで、様々な国の音楽を紹介する。最後に、生徒一人一人に発表する機会を設ける。 ・生徒が感想を話しやすいような環境を整える。	音楽
3 4 5	9月6日 9月21日 9月26日	○古典音楽について知ろう。 ○大正琴、太鼓をしてみよう。	○古典音楽についてスライドで紹介し、最後に生徒が発表する機会も設ける。 ・大正琴はC課程、太鼓はAB課程の生徒演奏する。生徒に応じて演奏がしやすいように支援をおこなう。	
6 7 8 9	11月15日 11月22日 11月28日 11月29日	○ポデーパーカッションは何だろう。 ○音楽にあわせてポデーパーカッションをしてみよう。	○「ブドウ」等の絵と言葉がかかれたスケッチブックを用意し、言葉のリズムに合わせて拍手をする。音符を意識させるため音符も示す。 ・実際に音楽に合わせて行う。楽しく授業に取り組むことができるような曲を選曲する。 ・鑑賞では、「先生の高校1年生を表す1曲」と題して担当の教員が選曲した曲を静かに聴く。	
10 11 12	12月20日 12月21日 2月27日	○楽器を演奏してみよう ○発表	○事前に楽器や曲のアンケートをとり、グループに分かれ演奏をする。 ・最後に発表を行うので、目標や役割を意識しながら支援を行う。	

単元の反省	
ポデーパーカッションの学習を1学年全員でおこなったことで、同じ曲を一斉に体験することができた。示範をT2が行う事でT1は指示や全体把握に注視することができて良かった。「ハーゲンダッツ」という言葉を手拍子で表すことで、全音符や四分音符を理解しやすくなることのできた。単元シートに関しては、今回学年全員で授業を行ったため主な教科等の育成を目指す資質・能力の段階の幅が小学部から高等部まで大きくなってしまい書きにくかった。個別の目標を知思主に分けるのではなくポイントをしばった方が目標を意識した指導ができたのではないかと考える。	

主な教科等の育成を目指す資質・能力						
知	①【音楽:高等部:1段階】A表現イ (1) 次の⑦及び⑧について理解すること。⑦曲想と音楽の構造との関わり⑧多様な楽器の音色と演奏の仕方との関わり (7) 創意工夫を生かした表現をするために必要な次の⑦から⑧までの技能を身に付けること。⑦範奏を聴いたり、ハ長調及びイ短調の楽譜を見たりして演奏する技能⑧音色や響きに気を付けて、旋律楽器及び打楽器を演奏する技能⑨各声部の楽器の音や伴奏を聴いて、音を合わせて演奏する技能 ②【音楽:高等部:1段階】B鑑賞ア (1) 曲想及びその変化と、音楽の構造との関わりについて理解すること。					
思	③【音楽:高等部:1段階】A表現イ(ア) 器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、器楽表現を創意工夫すること。 ④【音楽:高等部:1段階】B鑑賞ア(ア) 鑑賞についての知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏のよさなどを見だし、曲全体を味わって聴くこと。					
主	⑤【音楽:高等部:1段階】主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しみ、音楽経験を生かして生活を明るく豊かなものにしていく態度を養う。					
個	教科	本単元における個別の目標	評価			メモ欄(配慮・具体的な姿など)
A	知 音高1	課題の楽譜を見たりして演奏する技能を身につけることができる。	知 ○	思 ○	主 ○	
	思 音高1	曲や演奏のよさなどを見だし、曲全体を味わって聴く。				
	主 音高1	音楽活動の楽しさを体験することで音楽文化に親しむことができる。				
B	知 音高1	音色や響きに気を付けて、旋律楽器及び打楽器を演奏する。	知 ◎	思 ○	主 ○	
	思 音高1	器楽表現についての知識や技能を得る。				
	主 音高1	音楽経験を生かして生活を明るく豊かなものにしていく態度を養う。				
C	知 音小2	教師と一緒に手や体をたたいて音を作り出すことができる。	知 ○	思 ◎	主 ○	
	思 音小2	小太鼓やタンブリン等に親しみ音を出すことができる。				
	主 音A	曲のリズムに合わせて自ら音を出すことができる。				
D	知 音高1	多様な楽器の音色と演奏の仕方との関わりを理解すること。	知 ◎	思 ○	主 ◎	
	思 音高1	器楽表現についての知識や技能を得る。				
	主 音高1	音楽経験を生かして生活を明るく豊かなものにしていく態度を養う。				
E	知 音小2	教師と一緒に手や体をたたいて音を作り出すことができる。	知 △	思 ○	主 △	
	思 音小2	小太鼓やタンブリン等に親しみ音を出すことができる。				
	主 音A	曲のリズムに合わせて自ら音を出すことができる。				
F	知 音高1	音色や響きに気を付けて、旋律楽器及び打楽器を演奏する技能	知 ◎	思 ○	主 ◎	
	思 音高1	器楽表現についての知識や技能を得る。				
	主 音高1	音楽経験を生かして生活を明るく豊かなものにしていく態度を養う。				
G	知 音高1	多様な楽器の音色と演奏の仕方との関わりを理解すること。	知 ◎	思 ○	主 ◎	
	思 音高1	器楽表現についての知識や技能を得る。				
	主 音高1	音楽経験を生かして生活を明るく豊かなものにしていく態度を養う。				
学習評価						
知	多様な楽器の音色と演奏の仕方との関わりを理解し教師と一緒に手や体をたたいて音を作り出すことができた。					
思	「手」という楽器を使い音楽を表現することができた。					
主	ポデーパーカッションを通して音楽を身近に感じ楽しく表現することができた。鑑賞の時間では、先生方の生活を豊かにしたエピソードと曲についてお話してもらったことで静かに鑑賞することができた。					

単元の目標	
①曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作、身体表現の技能を身に付ける。(知識・技能)【資・能①②】	
②音楽表現を創意工夫することや、音楽の良さや美しさを自分なりに見い出しながら音楽を味わって聴くことができるようにする。(思考力・判断力・表現力等)【資・能③④】	
③主体的・協動的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しみ、音楽経験を生かして生活を明るく豊かなものにしていく態度を養う。(学びに向かう力・人間性等)【資・能⑤】	

時	日付	主な学習内容	○手だて・留意点	教科
1 2	5月17日 5月23日	○様々な音楽を知ろう	○スライドで、様々な国の音楽を紹介する。最後に、生徒一人一人に発表する機会を設ける。 ・生徒が感想を話しやすいような環境を整える。	音楽
3 4 5	9月6日 9月21日 9月26日	○古典音楽について知ろう。 ○大正琴、太鼓をしてみよう。	○古典音楽についてスライドで紹介し、最後に生徒が発表する機会も設ける。 ・大正琴はC課程、太鼓はAB課程の生徒演奏する。生徒に応じて演奏がしやすいように支援をおこなう。	
6 7 8 9	11月15日 11月22日 11月28日 11月29日	○ポデーパーカッションは何だろう。 ○音楽にあわせてポデーパーカッションをしてみよう。	○「ブドウ」等の絵と言葉がかかれたスケッチブックを用意し、言葉のリズムに合わせて拍手をする。音符を意識させるため音符も示す。 ・実際に音楽に合わせて行う。楽しく授業に取り組むことができるような曲を選曲する。 ・鑑賞では、「先生の高校1年生を表す1曲」と題して担当の教員が選曲した曲を静かに聴く。	
10 11 12	12月20日 12月21日 2月27日	○楽器を演奏してみよう ○発表	○事前に楽器や曲のアンケートをとり、グループに分かれ演奏をする。 ・最後に発表を行うので、目標や役割を意識しながら支援を行う。	

単元の反省	
ポデーパーカッションの学習を1学年全員でおこなったことで、同じ曲を一斉に体験することができた。示範をT2が行う事でT1は指示や全体把握に注視することができて良かった。「ハーゲンダッツ」という言葉を手拍子で表すことで、全音符や四分音符を理解しやすくなる事ができた。単元シートに関しては、今回学年全員で授業を行ったため主な教科等の育成を目指す資質・能力の段階の幅が小学部から高等部まで大きくなってしまい書きにくかった。個別の目標を知思主に分けるのではなくポイントをしばった方が目標を意識した指導ができたのではないかと考える。	

主な教科等の育成を目指す資質・能力	
知	①【音楽：高等部：1段階】A表現イ (1) 次の⑦及び⑧について理解すること。⑦曲想と音楽の構造との関わり⑧多様な楽器の音色と演奏の仕方との関わり (2) 創意工夫を生かした表現をするために必要な次の⑦から⑧までの技能を身に付けること。⑦範奏を聴いたり、ハ長調及びイ短調の楽譜を見たりして演奏する技能⑧音色や響きに気を付けて、旋律楽器及び打楽器を演奏する技能⑨各声部の楽器の音や伴奏を聴いて、音を合わせて演奏する技能 ②【音楽：高等部：1段階】B鑑賞ア (1) 曲想及びその変化と、音楽の構造との関わりについて理解すること。
思	③【音楽：高等部：1段階】A表現イ(ア) 器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、器楽表現を創意工夫すること。□ ④【音楽：高等部：1段階】B鑑賞ア(ア) 鑑賞についての知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏のよさなどを見いだし、曲全体を味わって聴くこと。
主	⑤【音楽：高等部：1段階】主体的・協動的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しみ、音楽経験を生かして生活を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

個	教科	本単元における個別の目標	評価			メモ欄(配慮・具体的な姿など)
A	知 音小2	声や身の回りの様々な音の特徴や音のつなげ方の特徴が生み出す面白さに触れる。	知 ◎	思 ◎	主 ○	
	思 音小1	音や音楽を聴いて、自分なりの楽しさを見付けようとする。				
	主 音A	音や音楽に気付いて、教師と一緒に音楽活動をする楽しさを感じるとともに、音楽経験を生かして生活を楽しいものにしてようとする。				
B	知 音中1	簡単な楽譜を見てリズムや速度を意識して演奏する技能を身に付ける。	知 ◎	思 ◎	主 ◎	
	思 音中2	曲や演奏のよさなどを見いだし、曲全体を味わって聴くことができる。				
	主 音中2	協働して音楽活動をする楽しさを味わいながら、様々な音楽に親しむことができる。				
C	知 音中1	簡単な楽譜を見てリズムや速度を意識して演奏する技能を身に付ける。	知 ◎	思 ◎	主 ◎	
	思 音中2	曲や演奏のよさなどを見いだし、曲全体を味わって聴くことができる。				
	主 音中2	協働して音楽活動をする楽しさを味わいながら、様々な音楽に親しむことができる。				
D	知 音中1	簡単な楽譜を見てリズムや速度を意識して演奏する技能を身に付ける。	知 ◎	思 ○	主 ◎	
	思 音中2	曲や演奏のよさなどを見いだし、曲全体を味わって聴くことができる。				
	主 音中2	協働して音楽活動をする楽しさを味わいながら、様々な音楽に親しむことができる。				
E	知 音高1	伴奏を聴いたり、課題の楽譜を見たりして演奏する技能を身につけることができる。	思 ◎	思 ○	主 ◎	
	思 音高1	器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、器楽表現を創意工夫することができる。				
	主 音C	主体的・協動的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しみ、音楽経験を生かして生活を明るく豊かなものにしていくこととする。				
F	知 音中1	簡単な楽譜を見てリズムや速度を意識して演奏する技能を身に付ける。	知 ◎	思 ○	主 ○	
	思 音中2	曲や演奏のよさなどを見いだし、曲全体を味わって聴くことができる。				
	主 音中2	協働して音楽活動をする楽しさを味わいながら、様々な音楽に親しむことができる。				
G	知 音中1	簡単な楽譜を見てリズムや速度を意識して演奏する技能を身に付ける。	知 ◎	思 ○	主 ○	
	思 音中2	曲や演奏のよさなどを見いだし、曲全体を味わって聴くことができる。				
	主 音中2	協働して音楽活動をする楽しさを味わいながら、様々な音楽に親しむことができる。				

学習評価	
知	多様な楽器の音色と演奏の仕方との関わりを理解し教師と一緒に手や体をたたいて音を作り出すことができた。
思	「手」という楽器を使い音楽を表現することができた。
主	ポデーパーカッションを通して音楽を身近に感じ楽しく表現することができた。鑑賞の時間では、先生方の生活を豊かにしたエピソードと曲についてお話してもらったことで静かに鑑賞することができた。

単元の目標	
①曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作、身体表現の技能を身に付ける。(知識・技能)【資・能①②】	
②音楽表現を創意工夫することや、音楽の良さや美しさを自分なりに見い出しながら音楽を味わって聴くことができるようにする。(思考力・判断力・表現力等)【資・能③④】	
③主体的・協動的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しみ、音楽経験を生かして生活を明るく豊かなものにしていく態度を養う。(学びに向かう力・人間性等)【資・能⑤】	

時	日付	主な学習内容	○手だて・留意点	教科
1 2	5月17日 5月23日	○様々な音楽を知ろう	○スライドで、様々な国の音楽を紹介する。最後に、生徒一人一人に発表する機会を設ける。 ・生徒が感想を話しやすいような環境を整える。	音楽
3 4 5	9月6日 9月21日 9月26日	○古典音楽について知ろう。 ○大正琴、太鼓をしてみよう。	○古典音楽についてスライドで紹介し、最後に生徒が発表する機会も設ける。 ・大正琴はC課程、太鼓はAB課程の生徒演奏する。生徒に応じて演奏がしやすいように支援をおこなう。	
6 7 8 9	11月15日 11月22日 11月28日 11月29日	○ポデーパーカッションは何だろう。 ○音楽にあわせてポデーパーカッションをしてみよう。	○「ブドウ」等の絵と言葉がかかれたスケッチブックを用意し、言葉のリズムに合わせて拍手をする。音符を意識させるため音符も示す。 ・実際に音楽に合わせて行う。楽しく授業に取り組むことができるような曲を選曲する。 ・鑑賞では、「先生の高校1年生を表す1曲」と題して担当の教員が選曲した曲を静かに聴く。	
10 11 12	12月20日 12月21日 2月27日	○楽器を演奏してみよう ○発表	○事前に楽器や曲のアンケートをとり、グループに分かれ演奏をする。 ・最後に発表を行うので、目標や役割を意識しながら支援を行う。	

単元の反省	
ポデーパーカッションの学習を1学年全員でおこなったことで、同じ曲を一斉に体験することができた。示範をT2が行う事でT1は指示や全体把握に注視することができて良かった。「ハーゲンダッツ」という言葉を手拍子で表すことで、全音符や四分音符を理解しやすくなることのできた。単元シートに関しては、今回学年全員で授業を行ったため主な教科等の育成を目指す資質・能力の段階の幅が小学部から高等部まで大きくなってしまい書きにくかった。個別の目標を知思主に分けるのではなくポイントをしばった方が目標を意識した指導ができたのではないかと考える。	

主な教科等の育成を目指す資質・能力	
知	①【音楽：高等部：1段階】A表現イ (イ) 次の⑦及び⑧について理解すること。⑦曲想と音楽の構造との関わり⑧多様な楽器の音色と演奏の仕方との関わり (ウ) 創意工夫を生かした表現をするために必要な次の⑦から⑧までの技能を身に付けること。⑦範奏を聴いたり、ハ長調及びイ短調の楽譜を見たりして演奏する技能⑧音色や響きに気を付けて、旋律楽器及び打楽器を演奏する技能⑧各声部の楽器の音や伴奏を聴いて、音を合わせて演奏する技能 ②【音楽：高等部：1段階】B鑑賞ア (イ) 曲想及びその変化と、音楽の構造との関わりについて理解すること。
思	③【音楽：高等部：1段階】A表現イ(ア) 器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、器楽表現を創意工夫すること。□ ④【音楽：高等部：1段階】B鑑賞ア(ア) 鑑賞についての知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏のよさなどを見いだし、曲全体を味わって聴くこと。
主	⑤【音楽：高等部：1段階】主体的・協動的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しみ、音楽経験を生かして生活を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

個	教科	本単元における個別の目標	評価			メモ欄(配慮・具体的な姿など)
A	知 音小1	聴こえてくる音や音楽に気付くことができる。	知 ○	思 ○	主 ○	B課程の生徒だが、実態からA課程の教育課程から目標を設定した。
	思 音小1	音や音楽遊びについての知識や技能を得ることができる。				
	主 音A	音や音楽に関わることができる。				
B	知 音高1	伴奏を聴いたり、課題の楽譜を見たりして演奏する技能を身に付けることができる。	知 ○	思 ○	主 ○	C課程
	思 音高1	器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、器楽表現を創意工夫することができる。				
	主 音C	主体的・協動的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しみ、音楽経験を生かして生活を明るく豊かなものにしていくこととする。				
C	知 音中1	簡単な楽譜を見てリズムや速度を意識して、演奏する技能を身に付けることができる。	知 ○	思 ○	主 ○	B課程
	思 音中1	器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりすることができる。				
	主 音B	進んで音や音楽に関わり、協働して音楽活動をする楽しさを感じながら、様々な音楽に触れようとする。				
D	知 音小2	声や身の回りの様々な音の特徴や音のつなげ方の特徴が生み出す面白さなどに触れて気付くことができる。	知 ○	思 ◎	主 ◎	B課程の生徒だが、実態からA課程の教育課程から目標を設定した。
	思 音小1	音や音楽を聴いて、自分なりの楽しさを見付けようとする。				
	主 音A	音や音楽に気付いて、教師と一緒に音楽活動をする楽しさを感じるとともに、音楽経験を生かして生活を楽しいものにしていくこととする。				
E	知 音高1	伴奏を聴いたり、課題の楽譜を見たりして演奏する技能を身に付けることができる。	知 ○	思 ○	主 ○	C課程
	思 音高1	器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、器楽表現を創意工夫することができる。				
	主 音C	主体的・協動的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しみ、音楽経験を生かして生活を明るく豊かなものにしていくこととする。				
F	知 音小2	声や身の回りの様々な音の特徴や音のつなげ方の特徴が生み出す面白さなどに触れて気付くことができる。	知 ○	思 ○	主 ◎	B課程の生徒だが、実態からA課程の教育課程から目標を設定した。
	思 音小2	器楽表現についての技能を得たり生かしながら身近な演奏表現に親しみ音を出そうとする思いを持つことができる。				
	主 音A	音や音楽に気付いて、教師と一緒に音楽活動をする楽しさを感じるとともに、音楽経験を生かして生活を楽しいものにしていくこととする。				
G	知 音中2	簡単な楽譜を見てリズムや速度、音色などを意識して、演奏する技能を身に付けることができる。	知 ○	思 ○	主 ○	C課程の生徒だが、実態からB課程の教育課程から目標を設定した。
	思 音中2	器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲想にふさわしい表現を工夫し、器楽表現に対する思いや意図をもつことができる。				
	主 音B	進んで音や音楽に関わり、協働して音楽活動をする楽しさを感じながら、様々な音楽に触れるとともに、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにしていくこととする。				

学習評価	
知	多様な楽器の音色と演奏の仕方との関わりを理解し教師と一緒に手や体をたたいて音を作り出すことができた。
思	「手」という楽器を使い音楽を表現することができた。
主	ポデーパーカッションを通して音楽を身近に感じ楽しく表現することができた。鑑賞の時間では、先生方の生活を豊かにしたエピソードと曲についてお話してもらったことで静かに鑑賞することができた。

単元の目標	
①曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作、身体表現の技能を身に付ける。(知識・技能)【資・能①②】	
②音楽表現を創意工夫することや、音楽の良さや美しさを自分なりに見出しながら音楽を味わって聴くことができるようにする。(思考力・判断力・表現力等)【資・能③④】	
③主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しみ、音楽経験を生かして生活を明るく豊かなものにしていく態度を養う。(学びに向かう力・人間性等)【資・能⑤】	

時	日付	主な学習内容	○手だて・留意点	教科
1 2	5月17日 5月23日	○様々な音楽を知ろう	○スライドで、様々な国の音楽を紹介する。最後に、生徒一人一人に発表する機会を設ける。 ・生徒が感想を話しやすいような環境を整える。	音楽
3 4 5	9月6日 9月21日 9月26日	○古典音楽について知ろう。 ○大正琴、太鼓をしてみよう。	○古典音楽についてスライドで紹介し、最後に生徒が発表する機会も設ける。 ・大正琴はC課程、太鼓はAB課程の生徒演奏する。生徒に応じて演奏がしやすいように支援をおこなう。	
6 7 8 9	11月15日 11月22日 11月28日 11月29日	○ポデーパークッションは何だろう。 ○音楽にあわせてポデーパークッションをしてみよう。	○「ブドウ」等の絵と言葉がかかれたスケッチブックを用意し、言葉のリズムに合わせて拍手をする。音符を意識させるため音符も示す。 ・実際に音楽に合わせて行う。楽しく授業に取り組むことができるような曲を選曲する。 ・鑑賞では、「先生の高校1年生を表す1曲」と題して担当の教員が選曲した曲を静かに聴く。	
10 11 12	12月20日 12月21日 2月27日	○楽器を演奏してみよう ○発表	○事前に楽器や曲のアンケートをとり、グループに分かれ演奏をする。 ・最後に発表を行うので、目標や役割を意識しながら支援を行う。	

単元の反省	
ポデーパークッションの学習を1学年全員でおこなったことで、同じ曲を一斉に体験することができた。示範をT2が行う事でT1は指示や全体把握に注視することができて良かった。「ハーゲンダッツ」という言葉を手拍子で表すことで、全音符や四分音符を理解しやすくなる事ができた。単元シートに関しては、今回学年全員で授業を行ったため主な教科等の育成を目指す資質・能力の段階の幅が小学部から高等部まで大きくなってしまい書きにくかった。個別の目標を知思主に分けるのではなくポイントをしばった方が目標を意識した指導ができたのではないかと考える。	

主な教科等の育成を目指す資質・能力	
知	①【音楽:高等部:1段階】A表現イ (イ) 次の㉗及び㉘について理解すること。㉗曲想と音楽の構造との関わり㉘多様な楽器の音色と演奏の仕方との関わり (ウ) 創意工夫を生かした表現をするために必要な次の㉗から㉘までの技能を身に付けること。㉗範奏を聴いたり、ハ長調及びイ短調の楽譜を見たりして演奏する技能㉘音色や響きに気を付けて、旋律楽器及び打楽器を演奏する技能㉗各声部の楽器の音や伴奏を聴いて、音を合わせて演奏する技能 ②【音楽:高等部:1段階】B鑑賞ア (イ) 曲想及びその変化と、音楽の構造との関わりについて理解すること。
思	③【音楽:高等部:1段階】A表現イ(ア) 器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、器楽表現を創意工夫すること。□ ④【音楽:高等部:1段階】B鑑賞ア(ア) 鑑賞についての知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏のよさなどを見いだし、曲全体を味わって聴くこと。
主	⑤【音楽:高等部:1段階】主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しみ、音楽経験を生かして生活を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

個	教科	本単元における個別の目標	評価	メモ欄(配慮・具体的な姿など)
A	知 音高I	伴奏を聴いたり、課題の楽譜を見たりして演奏する技能を身につけることができる。	知 ○ 思 ○ 主 ◎	◎:達成できた ○:概ね達成できた △:達成には至らなかった
	思 音高I	器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、器楽表現を創意工夫することができる。		
	主 音C	主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しみ、音楽経験を生かして生活を明るく豊かなものにしていくこととする。		
B	知 音高I	伴奏を聴いたり、課題の楽譜を見たりして演奏する技能を身につける。	知 △ 思 △ 主 △	
	思 音高I	器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、器楽表現を創意工夫することができる。		
	主 音C	主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しみ、音楽経験を生かして生活を明るく豊かなものにしていくこととする。		
C	知 音高I	伴奏を聴いたり、課題の楽譜を見たりして演奏する技能を身につけることができる。	知 思 主	
	思 音高I	器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、器楽表現を創意工夫することができる。		
	主 音C	主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しみ、音楽経験を生かして生活を明るく豊かなものにしていくこととする。		
D	知 音高I	伴奏を聴いたり、課題の楽譜を見たりして演奏する技能を身につけることができる。	知 思 主	
	思 音高I	器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、器楽表現を創意工夫することができる。		
	主 音C	主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しみ、音楽経験を生かして生活を明るく豊かなものにしていくこととする。		
E	知 音高I	伴奏を聴いたり、課題の楽譜を見たりして演奏する技能を身につけることができる。	知 ◎ 思 ○ 主 ○	
	思 音高I	器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、器楽表現を創意工夫することができる。		
	主 音C	主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しみ、音楽経験を生かして生活を明るく豊かなものにしていくこととする。		
F	知 音高I	伴奏を聴いたり、課題の楽譜を見たりして演奏する技能を身につけることができる。	知 ○ 思 △ 主 ○	
	思 音高I	器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、器楽表現を創意工夫することができる。		
	主 音C	主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しみ、音楽経験を生かして生活を明るく豊かなものにしていくこととする。		

学習評価	
知	多様な楽器の音色と演奏の仕方との関わりを理解し教師と一緒に手や体をたたいて音を作り出すことができた。
思	「手」という楽器を使い音楽を表現することができた。
主	ポデーパークッションを通して音楽を身近に感じ楽しく表現することができた。鑑賞の時間では、先生方の生活を豊かにしたエピソードと曲についてお話してもらったことで静かに鑑賞することができた。

【授業シート】		学部・学年・題材・単元名		高等部第1音楽「様々な音楽と楽器に触れよう」		TI		丹羽			
授業日	11月22日(火)		時間	10:25 ~ 11:15		場所	集会室		本時	7 / 12時間	
本単元に関わる児童生徒の実態及び授業について											
<p>音楽の学習では、4月から「歌唱に親しもう」「様々な楽器と音楽に触れよう」という単元で学習に取り組んでいる。現在「歌唱に親しもう」という単元ではあるが、コロナウイルスの影響により、大きな声を出しての学習をすることはできない。「様々な音楽と楽器に触れよう」という単元でもコロナウイルス対応ということで楽器を十分に使うことが難しい状況にある。また、大人数集まることを避けるため、各クラスで音楽の学習を行っていた。そのなかでABC課程の生徒全員が集まって学習に取り組むため様々な注意が必要である。生徒はA課程3名B課程8名C課程27名である。指示理解については、口頭の説明だけで理解できる生徒や、写真や文字など視覚的支援が必要な生徒など指示理解の程度には大きく幅がある。その中で、授業を展開するためには、集団の中の個別指導が重要になってくる。生徒一人一人に応じた支援を各教員が組み立てやすいような授業展開をする必要がある。本単元では、学年末にグループに分かれ楽器演奏を行う事を計画している。そのために、リズム感を少しでも理解し楽器演奏に取り組ませたい。本時は、ポデーパーカッションを通して、音楽の楽しさはもちろん、リズム感や音符や休符音楽記号等を生徒一人一人に理解させられるような授業を展開し、自信を持って演奏会で発表できるようにしたい。</p>											
本時の目標						関連する単元の目標		関連する資質・能力			
<p>①創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な身体表現の技能を身に付けることができる。(知識・技能) ②音楽の良さや美しさを自分なりに見出しながら音楽を味わって聴くことができる。(思考力・判断力・表現力等) ③音楽文化に親しみ、音楽経験を生かして生活を明るく豊かなものにしようとする。〔学びに向かう力・人間性等〕</p>						①, ③		②, ⑤			
学習活動 (時間)		○手立て・留意点								準備物等	
1 始めの挨拶		○始めの挨拶は電子ピアノを使い行う。起立するように促す。 ・TIの顔を注目できるように言葉掛けする。								パソコン ipad スケッチブック テレビ	
2 前時の振り返り (5分)		○TIの質問に対し生徒が発言できるような言葉掛けを行う。 ○例えば「ドラえもん」「夜にかける」の曲に合わせてポデーパーカッションを行ったこと等が出たら覚えていたことを称賛し拍手を行う。									
3 「単語」を手拍子で表す (10分)		○TIが「ブドウ」「チョコレート」「ラーメン」等の単語や絵が描かれているスケッチブックを見せ、拍手で表現させる。音符についても学習するので音符と単語がリンクするように示範し、絵や音符を表示するようにする。									
4 ポデーパーカッションをする。 (20分)		○音楽に合わせて手や足を使って表現する。難しい生徒には個別に近くで示範したり、体にふれて一緒に取り組んだりして楽しく活動に参加できるように支援を行う。									
5 鑑賞 (10分)		○「先生の高校一年生を表す曲」というテーマで、担当になった先生から、その曲を選んだエピソードを紹介し音楽を流す。 ・静かに音楽を聴けるような環境を調整する。									
6 終わりの挨拶		○起立するように促し、TIの顔を注目できるように言葉掛けをする。 ○終わりの挨拶も電子ピアノを使用して行う。									
本時の評価 (各教科等の学習評価の視点も踏まえ)											
<p>高等部第1音楽「様々な音楽と楽器に触れよう」では、ポデーパーカッションの学習をとりいれて音楽の楽しさや、音符や休符について学習した。コロナウイルスの影響で一斉に授業をする機会も少なかったが、今回は合同で一斉に指導をすることができて、生徒もとても嬉しそうであった。ポデーパーカッションの学習は、やったことのある生徒もおり、楽しい雰囲気の中で授業をすることができた。ただ、一斉の指導であったため、学習評価では、達成にいたらなかった。の△がついている生徒も見られたが、全体的には概ね達成できた。できた。の◎○がついていた。今後は、「演奏発表会」をするために、楽器を用いて練習を行う。今回のポデーパーカッションの学習を通して、音楽の楽しさを身近に感じてもらい、今後の授業につなげていきたい。</p>											

【単元シート】	指導の形態	生活単元学習「旅行の計画を立てよう」	学部 学年	高等部 第2学年	時数	13	記入者(TT)	今野, 及川, 遊佐, 伊藤(貴), 高清水
---------	-------	--------------------	-------	----------	----	----	---------	------------------------

単元の目標	
○公共のマナーや集団行動のルールについて知る。 ○自分たちの地域と旅行先の地域の違いを体験することで気付き表現することができる。	(知識・技能)
○自分たちの立てた計画に沿って行動しようとする意欲を養う	(思考力・判断力・表現力等) (学びに向かう力・人間性等)

時	日付	主な学習内容	○手だて・留意点	教科
1	10/3 (月) ③	○オリエンテーション 「旅行の計画を立てようPart1」 ・計画の「テーマ」を聞く。 C:「仙台城跡/伊達政宗公騎馬像」AB:「八木山動物公園」	○宮城園内での旅行の計画(一泊二日)について視覚的に分かりやすく説明する。 ・計画の立て方についてワークシートにまとめる。 ・次の時間からAB, Cとグループに分かれて活動することについて知る。	国語 社会
3	10/4 (火) ③④ 10/5 (水)③	○目的地について調べる。 ・研修先についてインターネットを利用して調べ学習をする。 スケジュール表を各グループごとに作る。	○グループごとに調べ学習を行う。 Cグループ…目的地, 交通手段, 昼食について調べる。ABグループ…「八木山動物公園/園内マップ作り。B/文字を書く。A/写真やシール貼りをする。	国語 社会
1	10/5 (水) ④	○グループごとに発表する。 ・旅行の計画と調べたことについてまとめたことを発表するのをお互いに見合う。	・ABはイラストや動画などでイメージが持てるようにする。ABは視覚的に分かりやすいスケジュール表を作成する。 ・Cは調べたことの発表や所要時間について助言をする。	国語 社会
1	11/14 (月) ③	○「旅行の計画を立てようPart2」 ・「5年後に友達と旅行に行く」テーマで, 2日間の計画を立てる(※3日目は移動日)ことについて話を聞く。	○C(大阪方面), AB(東京方面)で2泊3日の内, 2日間の計画を立てることを説明する。 ・写真を活用して先輩の事例も紹介して, インターネットや地図を活用して調べ学習をして旅行の計画を立てることを説明する。	国語 社会
6	11/15 (火) ③④ 21(月) ③④ 22(火) ③④	○時間を調べて観光コースを検討する。(優先順位を付ける。)最終的なスケジュール表を作る。 発表のリハーサルをする。	・1日目は「仙台駅」を集合場所にして, そこから時間を調べて, 名所を見学したり, その土地の名物(特産物)を味わう時間などを決めたりする。2日目はC(USJ), AB(ディズニーランド)での活動を計画する(アトラクション, 昼食, おやつ, お土産買いなど)。	国語 社会
1	11/22 (火)⑤	旅行の計画を発表する。 グループの発表をお互いに見合う。	・計画の発表に加えて, 調べ学習で参考にした動画やホームページなども紹介するようにする。 ・各グループの発表は15分以内とする。グループの実態に応じて役割分担する。	国語 社会

単元の反省	
ICTを活用して「計画PART1」で仙台方面(半日), 「PART2」では今から5年後(社会人になった想定で2日間)と段階を踏んで, 授業を組み立てることができた。観光スポット, ご当地グルメの動画やホームページなどを見たり, 2つの写真から自分が好む方を選んだり, 観光コースの写真を台紙に貼ってまとめたりして, 乗り物や珍しいものに興味・関心を持って, 期待感を持って, 発表や授業に意欲的に参加する様子がほとんどの生徒に見られた。	

主な教科等の育成を目指す資質・能力		
知	社	【高1】生活に関係の深い公共施設や公共物の役割とその必要性を理解すること。 【高2】地域における公共施設や公共物の役割とその必要性を理解すること。
思	国	【高1】相手に伝わるように, 言葉の抑揚や強弱, 間の取り方などを工夫すること。 【国2】資料を活用するなどして, 自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。
主	国 社	【国1】言葉がもつよさを認識するとともに, 国語を大切にして, 思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。 【社1】社会に主体的に関わろうとする態度や, 学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養う。

個	教科	本単元における個別の目標	評価	メモ欄(配慮・具体的な姿など)
A	知	生小2 身近な社旗の仕組みや公共施設の使い方などを知ることができる。	◎	分かりやすい文字で掲示物を作り, 大きい声で発表することもできた。
	思	国中B 相手や目的を意識して, 見聞きたことや経験したことから伝えたいことを選ぶ。	◎	
	主	社小3 地域社会に関わる意欲をもち, その中で生活する大切さについて自覚しようとする。	◎	
B	知	社中1 身近な公共施設や公共物の役割がわかることができる。	○	研修旅行のまとめを集中して聞き, 新幹線や東京のテーマパークの動画には, 意欲的に観ることができた。
	思	国小3 経験したことを思い浮かべ, 伝えたいことを考えることができる。	○	
	主	社中1 身近な社会に自ら関わろうとする意欲をもとうとする。	○	
C	知	生小1 身近な社会の仕組みや公共施設の使い方などについて関心をもつことができる。	○	東京の動画を興味を持って観ていた。好きな食べ物を選ぶことができた。
	思	国小2 身近な人からの話し掛けに注目したり, 応じて答えたりすることができる。	○	
	主	生小1 身近な人々, 社会に関心をもち, 意欲をもって学ぼうとする。	○	
D	知	生小1 身近な社会の仕組みや公共施設の使い方などについて関心をもつことができる。	○	食べ物や新幹線の動画を落ち着いて観ることができた。2択で見比べてから自分の好きな食べ物を選ぶことができた。
	思	国小2 身近な人からの話し掛けに注目したり, 応じて答えたりすることができる。	○	
	主	生小1 身近な人々, 社会に関心をもち, 意欲をもって学ぼうとする。	○	
E	知	生小2 身近な社会の仕組みや公共施設の使い方などを知ることができる。	○	東京の動画を興味を持って観ていた。好きな食べ物を選ぶことができた。
	思	国小2 写真などを手掛かりにして伝えたいことを思い浮かべることができる。	○	
	主	生小2 身近な人々, 社会に自ら働きかけようとする。	○	
F	知	生小2 身近な社会の仕組みや公共施設の使い方などを知ることができる。	○	食べたいものや体験したいアトラクションを表情や声を出すことにより選択することができた。
	思	国小1 身近な人からの話し掛けに注目したり, 応じて答えたりすることができる。	○	
	主	生小2 身近な人々, 社会に自ら働きかけようとする。	○	
G	知	生小2 身近な社会の仕組みや公共施設の使い方などを知ることができる。	△	八木山動物園の紹介動画の音声を聞いて画面を見ることができた。また, 教師の言葉掛けに応じて, プリントに手を伸ばしたり, 両面テープの剥離紙を剥がしたりした。
	思	国小1 身近な人からの話し掛けに注目したり, 応じて答えたりすることができる。	◎	
	主	生小2 身近な人々, 社会に自ら働きかけようとする。	○	

学習評価		
知	国 社	自分から進んで公共交通機関の写真や動画を見たり, 見学場所で昼食やアトラクションを選んだりして, 旅行についてのイメージを持つことができたか。
思	国 社	みんなで協力して旅行の計画を立てることができたか。
主	国 社	旅行への興味や関心, 期待感が高まったか。

【単元シート】	指導の形態	生活単元学習「旅行の計画を立てよう」	学部 学年	高等部 第2学年	時数	13	記入者(TT)	塩谷, 伊藤(聡), 斎藤
---------	-------	--------------------	-------	----------	----	----	---------	---------------

単元の目標	
○公共のマナーや集団行動のルールについて知る。	(知識・技能)
○自分たちの地域と旅行先の地域の違いを体験することで気づき表現することができる。	(思考力・判断力・表現力等)
○自分たちの立てた計画に沿って行動しようとする意欲を養う	(学びに向かう力・人間性等)

主な教科等の育成を目指す資質・能力		
知	社	【高1】生活に関係の深い公共施設や公共物の役割とその必要性を理解すること。 【高2】地域における公共施設や公共物の役割とその必要性を理解すること。
思	国	【高1】相手に伝わるように、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫すること。 【高2】資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。
主	国	【国1】言葉がもつよさを認識するとともに、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。
	社	【社1】社会に主体的に関わろうとする態度や、学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養う。

時	日付	主な学習内容	○手だて・留意点	教科
1	10/3 (月) ③	○オリエンテーション 「旅行の計画を立てようPart1」 ・計画の「テーマ」を聞く。 C:「仙台城跡/伊達政宗公騎馬像」AB:「八木山動物公園」	○宮城園内での旅行の計画(一泊二日)について視覚的に分かりやすく説明する。 ・計画の立て方についてワークシートにまとめる。 ・次の時間からAB, Cとグループに分かれて活動することについて知る。	国語 社会
3	10/4 (火) ③④ 10/5 (水)③	○目的地について調べる。 ・研修先についてインターネットを利用して調べ学習をする。 スケジュール表を各グループごとに作る。	○グループごとに調べ学習を行う。 Cグループ・・・目的地, 交通手段, 昼食について調べる。ABグループ・・・「八木山動物公園/園内マップ作り。B/文字を書く。A/写真やシール貼りをする。	国語 社会
1	10/5 (水) ④	○グループごとに発表する。 ・旅行の計画と調べたことについてまとめたことを発表するのをお互いに見合う。	・ABはイラストや動画などでイメージが持てるようにする。ABは視覚的に分かりやすいスケジュール表を作成する。 ・Cは調べたことの発表や所要時間について助言をする。	国語 社会
1	11/14 (月) ③	○「旅行の計画を立てようPart2」 ・「5年後に友達と旅行に行く」テーマで, 2日間の計画を立てる(※3日目は移動日)ことについて話を聞く。	○C(大阪方面), AB(東京方面)で2泊3日の内, 2日間の計画を立てることを説明する。 ・写真を活用して先輩の事例も紹介して, インターネットや地図を活用して調べ学習をして旅行の計画を立てることを説明する。	国語 社会
6	11/15 (火) ③④ 21(月) ③④ 22(火) ③④	○時間を調べて観光コースを検討する。(「優先順位を付ける。) 最終的なスケジュール表を作る。 発表のリハーサルをする。	・1日目は「仙台駅」を集合場所にして, そこから時間を調べて, 名所を見学したり, その土地の名物(特産物)を味わう時間などを決めたりする。2日目はC(USJ), AB(ディズニーランド)での活動を計画する(アトラクション, 昼食, おやつ, お土産買など)。	国語 社会
1	22(火) ⑤	旅行の計画を発表する。 グループの発表をお互いに見合う。	・計画の発表に加えて, 調べ学習で参考にした動画やホームページなども紹介するようにする。 ・各グループの発表は15分以内とする。グループの実態に応じて役割分担する。	国語 社会

単元の反省	
<p>・ご当地グルメや見学体験する観光スポット, アトラクションなどについて, 興味あるものを選び, 分担して調べるなど, どの生徒も意欲的に取り組むことができた。</p> <p>・iPadやカラーマップなどの資料を活用して, 必要な情報を検索し, まとめることができた。</p> <p>・各生徒が自分の役割をしっかりと果たすことができた。</p> <p>・今回は, 時数の関係で, 移動手段や宿泊先などについては教師側で決め, 実際に調べる内容を絞って提示しての活動とした。「どのように移動する」「どこに泊まる」などを含めた「旅行の全体像を自ら立案する」には至らなかった。しかしながら, 間口を絞ったことで, より一層集中して調べ学習に取り組めたのではないかと考える。</p>	

個	教科	本単元における個別の目標	評価	メモ欄(配慮・具体的な姿など)	
A	知	社高1	生活に関係の深い公共施設や公共物の役割とその必要性を理解することができる。	◎	必要な情報を検索することができた。
	思	国高2	資料を活用するなどして, 自分の考えが伝わるように表現を工夫することができる。	◎	
	主	社中2	社会に自ら関わろうとする意欲と生活することの大切さについて自覚をもとうとする。	◎	
B	知	国高1	生活に必要な国語の知識や技能を身に付け, 適切に使うことができる。	◎	必要な情報を検索することができた。
	思	国高1	人との関わりの中で伝え合う力を高め, 自分の思いや考えをまとめることができる。	◎	
	主	社中(3)	社会に自ら関わろうとする意欲と生活することの大切さについて自覚をもとうとする。	◎	
C	知	国中2	日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付ける。	○	教師の助言を受けながら, 適切に調べることができた。
	思	社中1	社会的事象の特色や意味を自分の生活と結び付けて考え, 表現することができる。	◎	
	主	社中2	社会に自ら関わろうとする意欲と生活することの大切さについて自覚をもとうとする。	○	
D	知	社高2	地域における公共施設や公共物の役割とその必要性を理解することができる。	◎	教師の助言を受けながら, 適切に調べることができた。
	思	国高2	資料を活用するなどして, 自分の考えが伝わるように表現を工夫することができる。	○	
	主	社高1	多角的な思考や理解を通して, 地域社会の一員としての自覚を持とうとする。	○	
E	知	社高1	生活に関係の深い公共施設や公共物の役割とその必要性を理解することができる。	◎	教師の助言を受けながら, 適切に調べ, まとめることができた。発表の場面では, 資料を参考に堂々と発表することができた。
	思	国高2	資料を活用するなどして, 自分の考えが伝わるように表現を工夫することができる。	◎	
	主	社中2	社会に自ら関わろうとする意欲をもち, 地域社会の中で生活することの大切さについて自覚をもとうとする。	◎	
F	知	社高1	生活に関係の深い公共施設の役割を理解することができる。	◎	教師の助言を受け, 適切に調べることができた。発表では, 作成した行程表の中の, 発表者が話している箇所を指示棒で適切に指し示すことができた。
	思	国高1	相手に伝わるように, 言葉の抑揚や, 間の取り方などを工夫することができる。	◎	
	主	社高1	社会に主体的に関わろうとする。	◎	
G	知	国中2	日常生活の中での周りの人とのやり取りを通して, 考えたことや思ったことを表すことに気付くこと。	○	教師の助言を受けながら, アトラクションについて適切に調べ, まとめることができた。
	思	国中2	相手に伝わるように発音や声の大きさ, 速さに気を付けて話すことができる。	○	
	主	社中1	地域社会の中で生活することの大切さについて自覚しようとする。	○	
H	知	社高1	生活に関係の深い公共施設や公共物の役割とその必要性を理解することができる。	◎	アトラクションを巡るコース決めては, マップを見ながら自分の考えを提案し, 友達と合意することができた。発表の場面では, 資料を参考に堂々と発表することができた。
	思	国高2	資料を活用するなどして, 自分の考えが伝わるように表現を工夫することができる。	◎	
	主	国高1	言葉がもつよさを認識するとともに, 国語を大切に, 思いや考えを伝え合おうとする。	◎	
I	知	国中2	理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し, 使える範囲を広げることができる。	○	教師の助言を受けながら, 適切に調べることができた。行程表に矢印を記入する際, 曲線を多用するなどして楽しい気持ちを表していた。
	思	国中2	物事を決めるために, 簡単な役割や進め方に沿って話し合い, 考えをまとめること。	○	
	主	社中1	地域社会の中で生活することの大切さについて自覚しようとする。	○	
J	知	社高1	生活に関係の深い公共施設や公共物の役割とその必要性を理解することができる。	◎	教師の助言を受けながら, 適切に調べ, まとめることができた。発表に向けた行程表の作成では, カードの貼付などを引き受け, 仕上げることができた。
	思	国中2	相手に伝わるように発音や声の大きさ, 速さに気を付けて話すことができる。	○	
	主	社中2	社会に自ら関わろうとする意欲を持ち, 地域社会の中で生活することの大切さについて自覚をもとうとする。	◎	
K	知	社高1	生活に関係の深い公共施設や公共物の役割とその必要性を理解することができる。	◎	教師の助言を受けながら, 適切に調べ, まとめることができた。発表に向けた行程表の作成では, カードの貼付などを引き受け, 仕上げることができた。
	思	国中2	相手に伝わるように発音や声の大きさ, 速さに気を付けて話すことができる。	○	
	主	社中1	身近な社会に自ら関わろうとする意欲を持ち, 地域社会の中で生活することの大切さについて自覚をもとうとする。	◎	
L	知	社高1	生活に関係の深い公共施設の役割を理解することができる。	◎	教師の助言を受けながら, 適切に調べることができた。発表の場面では, 作成した行程表の中の, 発表者が話している箇所を指示棒で適切に指し示すことができた。
	思	国高1	相手に伝わるように, 言葉の強弱や, 間の取り方などを工夫することができる。	○	
	主	社高1	社会に主体的に関わろうとする。	◎	

学習評価		
知	国社	自分から進んで公共交通機関の写真や動画を見たり, 見学場所で昼食やアトラクションを選んだりして, 旅行についてのイメージを持つことができたか。
思	国社	みんなで協力して旅行の計画を立てることができたか。
主	国社	旅行への興味や関心, 期待感が高まったか。

【授業シート】		学部・学年・題材・単元名	高2 生活単元学習「旅行の計画を立てよう」	TI	今野
授業日	11月22日(火)	時間	13:10~14:00	場所	ホール
				本時	13/13時間

本単元に関わる児童生徒の実態及び授業について

・本学習の学習集団は、高等部Aグループ生徒4名、Bグループ生徒3名、Cグループ生徒12名、合計19名で、比較的小規模の学年である。口頭指示を理解し行動できる生徒が多い反面、その日の体調によって情緒が安定しない生徒も複数名所属する集団である。

・ICTで写真、動画、イラストによる学習内容の提示など視覚的な支援は有効であり、見通しを持たせることで落ち着いて活動に取り組むことができる生徒が多い。

・本学年はコロナ禍のため、校外学習の経験はない。前期は仙台校外学習の代替活動として、体育館で「楽天祭り」を開催し、小グループに分かれて友達と一緒にルールのあるレクリエーションで楽しく活動に取り組んだ。

・今回の単元では、前半(5H)「仙台」(AB:八木山ZOO, C:青葉城址)をテーマに、後半(8H)は5年後に社会人になって仲間と一緒に旅行をするという設定で、ABは「東京」方面、Cは「大阪」方面を2泊3日で旅行する計画を立てる。手立てとして、ICTで旅行先までの交通手段、観光スポット、ご当地グルメなどを調べて、観光コースをまとめる。この単元を通して、調べ方の技術や知識を来年度の修学旅行に活かせるように学習に取り組む。

・今回、実際に外に出る機会はないが、観光スポットのホームページ、ご当地グルメの紹介、旅行の際に乘る乗り物のVTRの視聴を繰り返し行うなどの活動を通して、障害の重い生徒に対しても興味・関心や期待を高めるよう支援する。社会的経験の少ない生徒たちに、社会への興味・関心を持たせ、人や集団に積極的に関わろうとする態度を育てるきっかけとなるような授業にしたい。

本時の目標	関連する単元の目標	関連する資質・能力
○旅行計画の学習を通して、乗り物や珍しい物に興味・関心を持つようにする。 ○旅行計画の準備から発表までの一連の学習に進んで取り組み、自分からやろうという行動力をつける。	②③	思, 主

学習活動(時間)	○手立て・留意点	準備物等
1 はじめのあいさつ	・教室からいす持参。グループごとに並んで座る。	
2 本時の学習について知る。	○学習内容について説明し、学習の見通しを持たせる。 ・本時の流れを説明するとともに、生徒が今回旅行に行くことと勘違いしないように、5年後を想定して、「ICTを活用して、計画を立てる学習です。」「今回、本当に行く訳ではありません。」ということ念を押す。	・ワイヤレスマイク ・スピーカー
3 旅行の計画を発表する。 ・グループの発表をお互いに見る。	・グループごとにまとめた「旅行の計画」を発表する。お互いの発表を見る。 ①ABグループ(東京方面)→②Cグループ(大阪方面) ○各グループの発表は15分以内とする。発表する生徒には、グループの実態に配慮してそれぞれに支援を行う。 ・計画の発表に加えて、調べ学習で参考になった動画やホームページなどを紹介するようにする。	・ホワイトボード ・マグネット ・(まとめた)スケジュール表 ・モニター
4 まとめの話を聞く。	○発表で良かった点を紹介して称賛する。	・iPad ・PC
5 終わりのあいさつ	・T2(塩谷)から全員に、東京と大阪のお土産(お菓子)を配る。「社会人になったら、仕事を頑張れば、お金(給料)をもらえて両方行けますよ。」ということも付け加えて話す。	・指示棒

本時の評価 (各教科等の学習評価の視点も踏まえ)

お互いの発表に興味・関心を持って見ることができた。発表する生徒は、グループの仲間とまとめた旅行の計画を意欲的に発表することができた。動画やホームページなどを参考にして、経費がいくらかかるかを意識して取り組めた。ただし、活動上、話を聞く時間が多くなったため、序盤に「旅行の計画」○×クイズなどを取り入れて変化をつけてもよかったかもしれない。

【単元シート】	指導の形態	国語C「感じたことを伝えよう」	学部 学年	高等部 第2学年	時数	6	記入者(TT)	高清水、伊藤(聡)、塩谷
---------	-------	-----------------	-------	----------	----	---	---------	--------------

単元の目標	
【知識・理解】	①字形を整えて書くことができる。接続語を手掛かりに段落などの文章の構成を理解する。
【思考力・判断力・表現力】	②目的や意図に応じて自分の考えが分かるように書き表し方を工夫し文章を書くことができる。
【学びに向かう力・人間性等】	③文章の構成が明確かどうかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分やお互いの文章の良いところを見付けようとする態度を身に付ける。

時	日付	◎★主な学習内容	○手だて・留意点	教科
1	11/9(水) ⑤	◎年末に発表される「今年の漢字」について知る。 ◎今年の自分を振り返って合う漢字を考え、決める。(難しい場合は、名前の一字を選択する。)	○2021年の出来事を振り返り、漢字を紹介する。 ・漢字の選択肢を事前に提示し、考えやすくする。 ○印象に残った出来事や成長した点などを振り返ってメモをする。 ・漢字が苦手な生徒には、教師が内容を聞き取って例を提示し、選択できるようにする。	国語
2	11/10(木) ⑤	★選んだ漢字について調べる。(音訓、意味、成り立ち等) ★その漢字を選んだ理由を考えて書く。	○ipadを使用する。 ・使用方法に不安がある生徒には教師が助言する。 ○前時のメモを活用して、理由を文章表現にする。	
3	11/11(金) ⑤	★調べて感じたことや今年の自分についての感想を書く。	○前時に調べたことを読んでから活動に入る。 ・調べた内容のどの部分に着目するかを教師と一緒に焦点化してから本時の学習に移行する。 ○今年の自分を振り返って感じたことを言語化する。漢字を選んだ理由と関連付けると良い。	
4	11/14(月) ④	◎★の内容を推敲し、清書する。(1段落目は理由、2段落目は感想)	○内容の関連等を考慮して、記述する順序を考え、清書に入る。 ○段落の構成を説明し、例示する。	
5	11/15(火) ⑤	◎手本を見ながら選んだ漢字を筆ペンで清書し、台紙に貼り付ける。	○清書は折り紙に行う。練習用紙の枠も同じ大きさにして、安心して清書に臨むことができるようにする。	
6	11/16(水) ⑤	◎互いに読み、感想を伝え合う。	○完成したプリントを相互に読み合い、感想を記入して回す。他の2人分の評価を行う。 ・評価のポイントを事前に示して活動に入る。	

単元の反省	
・「今年の漢字」の導入での食いつきが良かった。その後、自分の生活を振り返りながら、漢字から言葉の楽しさや深さに気付くこと、次年度につながる抱負を文章で書き上げていた。	
・自分の思いを探り気付くこと、それを他者に伝えること、また他者の思いをくみ取り受け止めることを頑張り、その大切さと良さに気付いた生徒が多かったのではないかと思います。	
・考える、調べる、書く、読む、伝える、それぞれの活動を通して「伝え合う」ことに意識を向けることができたのではないかと。	
・生徒が意欲的に学習に向かっていたのが印象的だった。	

学習評価	
知	文章の構成について考えることができた。接続詞を使って文と文をつなぐことを意識して書いた生徒もいた。漢字の筆順や字形を確認しながら視写することができた。自由にアレンジする生徒もいた。
思	理由と結論の述べ方を覚えて書き表すことができた。自分の書いた内容のメモを見ながら構成を考えることができた。また、互いの文章を読んで感想を伝え合うことができた。
主	漢字の意味や読み方に興味をもち、自分が想定していなかった意味にも自分の気持ちを関連付けて考えをまとめることができた。言葉についての学習を深めることができた。

主な教科等の育成を目指す資質・能力			
知	1	ア(オ)ウ(イ)㊦	①接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。 ②字の組み立てを理解し、形を整えて書くこと。
	2	ア(オ)	③文と文の接続の関係、話や文章の構成や種類について理解すること。
思	1	Bウエオ	④自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ⑤間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えること。 ⑥書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章の良いところを見付けること。
	2	Bウエオカ	⑦目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ⑧引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ⑨文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えること。 ⑩文章全体の構成が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章の良いところを見付けること。
主	12	ウ	⑪言葉がもつよさを認識するとともに、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

個	○知△思□主	本単元における個別の目標	評価・メモ(配慮・具体的な姿など)						備考
			11/9	11/10	11/11	11/14	11/15	11/16	
A	○	ア(オ) 高2	文と文との接続の関係、話や文章の構成や種類について理解すること。				●◎		・接続詞を意識させた。構成も意識して、読みやすい伝わる文章を書くことができた。 ・自分に置き換えて考えることができた。
	△	Bウ 小6	自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。		●◎	●◎			
	□	ウ 高1	言葉がもつよさを認識するとともに、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。	●◎			●◎	●◎	
B	○	ア(オ) 高2	文と文との接続の関係、話や文章の構成や種類について理解すること。				●◎		・構成も意識して、読みやすい伝わる文章を書くことができた。 ・自分に置き換えて考えることができた。
	△	Bウ 小6	自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。		●◎	●◎		欠	
	□	ウ 中2	言葉がもつよさに気付くとともに、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。	●◎				●◎	
C	○	ア(オ) 高2	文と文との接続の関係、話や文章の構成や種類について理解すること。				●○		・話し言葉→正しい文章を書くように努めていた。
	△	Bウ 小6	自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。	欠	欠	●○			
	□	ウ 高1	言葉がもつよさを認識するとともに、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。				●○	●◎	
D	○	ア(オ) 高2	文と文との接続の関係、話や文章の構成や種類について理解すること。				●○		・音と訓の読みの面白さを感じていた。
	△	Bウ 小6	自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。	欠	欠	●○			
	□	ウ 高1	言葉がもつよさを認識するとともに、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。				●○	●◎	
E	○	ア(オ) 中1	主語と述語との関係や接続する語句の役割を理解すること。				●○		・「明」の漢字を繰り返し練習して、正しい筆順で書くことができた。 ・定着までには反復が必要。
	△	ウ(ウ)㊦ 中1	姿勢や筆記具の持ち方を正しくし、文字の形に注意しながら、丁寧に書くこと。				●○		
	□	Bウ 小3	見聞きたり、経験したりしたことについて、簡単な語句や短い文を書くこと。		●○	●○			
F	○	ウ 中1	言葉がもつよさに気付くとともに、国語で考えたり伝え合ったりしようとする態度を養う。	●◎				●○	・自分の考えを教師に話すことで確認しながら文章を書くことができた。友達への感想は、自分で書くことができた。 ・定着までには反復が必要。
	△	ア(オ) 中1	主語と述語との関係や接続する語句の役割を理解すること。				●○		
	□	ウ(ウ)㊦ 中1	姿勢や筆記具の持ち方を正しくし、文字の形に注意しながら、丁寧に書くこと。				●○		
G	○	Bウ 小3	見聞きたり、経験したりしたことについて、簡単な語句や短い文を書くこと。		●○	●○			・自分の考えを教師に話すことで確認しながら文章を書くことができた。友達への感想は、自分で書くことができた。 ・定着までには反復が必要。
	△	ウ 中1	言葉がもつよさに気付くとともに、国語で考えたり伝え合ったりしようとする態度を養う。	●◎		●○		●○	
	□	ア(オ) 高1	接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。				●○		
H	○	ウ(イ)㊦ 高1	文字の組み立て方を理解し、形を整えて書くこと。				●○		・主述の関係や、「なぜなら～からです。」などの使い方に慣れが必要。
	△	Bウ 中2	事実と自分の考えとの違いなどが相手に伝わるように書き表し方を工夫すること。	●◎	●◎				
	□	ウ 高1	言葉がもつよさを認識するとともに、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。	●◎		●○		●◎	
I	○	ア(オ) 中1	主語と述語との関係や接続する語句の役割を理解すること。				●◎		・教師の提案や助言を受け止め、自分の考えも伝えることができた。
	△	ウ(イ)㊦ 高1	文字の組み立て方を理解し、形を整えて書くこと。				●○		
	□	Bウ 中2	事実と自分の考えとの違いなどが相手に伝わるように書き表し方を工夫すること。		●○	●○			
J	○	ウ 小3	言葉がもつよさを感ずるとともに、思いや考えを伝えたり受け止めたりしようとする態度を養う。	●◎	●○	●○	●◎	●○	・教師の支援を受けて、自分の考えを伝えた。筆ペンを使って独創的な作品を仕上げた。
	△	ア(オ) 中1	主語と述語との関係や接続する語句の役割を理解すること。				●○		
	□	ウ(ウ)㊦ 中2	点画の書き方や文字の形に注意しながら、筆順に従って丁寧に書くこと。	欠	欠	欠	●○		
K	○	Bウ 小7	見聞きたり、経験したりしたことについて、簡単な語句や短い文を書くこと。				●◎	●○	・今年の自分を振り返って、具体的な場面を説明しながら成長を言葉で表現することができた。
	△	ア(オ) 高2	文と文との接続の関係、話や文章の構成や種類について理解すること。				●○		
	□	ウ(イ)㊦ 高1	文字の組み立て方を理解し、形を整えて書くこと。				●◎		
L	○	Bウ 小7	文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えること。		●○	●◎			・接続詞の使い方を意識させた。 ・自分の気持ちを整理し、文章にまとめることができた。
	△	ウ 高1	言葉がもつよさを認識するとともに、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。	●◎	●◎	●◎	●◎	●◎	
	□	ア(オ) 高2	文と文との接続の関係、話や文章の構成や種類について理解すること。				●○		

【授業シート】		学部・学年・題材・単元名		高等部2年C課程 国語「感じたことを伝えよう」		TI	高清水
授業日	11月15日(火)	時間	13:10~14:00	場所	個別学習室3	本時	5/6時間

本単元に関わる児童生徒の実態及び授業について

高等部C課程に所属する12人の学習集団である。話し言葉での意思疎通は概ねできているが、吃音のために思うように気持ちを伝えられない生徒や、自分の気持ちや考えを言語化できない生徒もいる。また、書字への苦手意識が強い生徒や、漢字仮名交じりでの表記が難しく主に平仮名を使う生徒もいる。

本単元では、毎年発表される「今年の漢字」にちなんで1年間の頑張りや成長を漢字で表現したり、文章で表現する学習に取り組む。また、表意文字である漢字について調べたり、漢字に込めた思いを言語化し文章を読み合ったりする機会を設ける。自分の文章表現を推敲するとともに、互いの表現に触れることで学びが深まることを期待している。また、字形に気を付けて筆ペンで丁寧に書く学習も取り入れ、多様な表現方法で伝える楽しさを味わうことができるようにしたい。

本時の目標	関連する単元の目標	関連する資質・能力
○字形を整えて書くことができる。	①③	② ①①

学習活動(時間)	○手立て・留意点	準備物等
1 はじめの挨拶	○姿勢や視線に気を付けて挨拶できるよう見守りや、言葉掛けを行う。 ・全体への指示で気付きを促す。	学習プリント③ 折り紙
2 本時の学習を知る (5分)	○筆ペンを使った練習と清書に取り組むことを伝える。 ・清書完成のイメージを視覚的に伝える。 ・清書に至る学習過程も合わせて伝え、見通しがもてるようにする。	
3 学習活動 選んだ漢字の清書 (30分)	○書字が苦手な生徒には個別に支援する。 ・本人の気持ちを反映する書き方(大きさ、太さなど)を工夫するよう助言する。 ・必要に応じて教師が手を添えるなどして、清書に取り組むようにする。	
4 学習活動の共有 本時の成果の紹介 (10分)	○自分が書いた清書を他の生徒に紹介する機会を設ける。 ・書く時に工夫した点や思い入れのあるポイントを伝えるように助言する。	
5 まとめ、次時の予告 (5分)	○次回の学習に見通しを持つことができるようにする。 ・次時は、今年の自分を振り返って書いた作文を互いに読み合うことを伝える。 ・互いの文章の良いところに気付いて、学び合う機会であることを伝える。	
6 終わりの挨拶	○姿勢や視線に気を付けて挨拶できるよう見守りや、言葉掛けを行う。 ・全体への指示で気付きを促す。	

本時の評価 (各教科等の学習評価の視点も踏まえ)

○練習用紙を多く用意したことで、安心して繰り返し練習することができた。
○練習時間と回数が十分に取れ、教師からの助言や口頭での評価を十分に行うことができた。
○前時までに作文を書いていたことで、漢字に込めた気持ちを筆で表現するという活動の目的がはっきりした。
●本単元に書写の学習内容が含まれているため本時で扱ったが、書写本来のねらいを達成することができたのかは疑問に残る。

単元の目標	育成を目指す主な教科等の資質・能力
(1) 遊びや基本的な運動の行い方及び身近な生活における健康について知るとともに、基本的な動きや健康な生活に必要な事柄を身に付けるようにする。	知 (1)小2: 基本的な運動の楽しさを感じ、その行い方を知り、基本的な動きを身に付けるとともに、健康や身体の変化について知り、健康な生活ができるようにする。
(2) 遊びや基本的な運動及び健康についての自分の課題に気づき、その解決に向けて自ら考え行動し、他者に伝える力を養う。	思 (2)小2: 体を動かすことの楽しさや心地よさを表現できるようにするとともに、健康な生活を営むために必要な事柄について教師に伝えることができるようにする。
(3) 遊びや基本的な運動に親しむことや健康の保持増進と体力の向上を目指し、楽しく明るい生活を営む態度を養う。	主 (3)小2: 簡単な合図や指示に従って、楽しく運動をしようとする態度を養う。

時	日付	主な学習内容	○手立て・留意点	教科
	通年	<ul style="list-style-type: none"> ○体育館や校庭のランニング ○体育館でのアスレチック ○校舎内散歩 <ul style="list-style-type: none"> ・階段昇降, スロープを使った歩行 ○ボールを使ったレクリエーション <ul style="list-style-type: none"> ・ボール渡しリレー ・ミニサッカー ○道具を使ったレクリエーション <ul style="list-style-type: none"> ・台車を使ったリレー ・ストラックアウト(本時の学習活動) ・ボウリングゲーム(本時の学習活動) 	<ul style="list-style-type: none"> ・スムーズな動作を行うことができるよう、マッサージ等により、各部位の緊張を緩めたり、可動範囲を広げたりする。 ・バランス感覚や身体を支える筋力を高めることができるよう、様々な姿勢保持に取り組む。 ・基礎的な動きを身に付けることができるよう、様々な姿勢の転換、立ち上がり、移動等の運動に取り組む。 ・校庭や校内を自分の目標や課題に応じて、歩いたり走ったりする。 ・教師と一緒にボールを持つ、転がす、蹴る、投げる、止める、キャッチする動作を行う。 ・ポジショニングを行う、呼吸を整える、身体の過度な緊張を緩めるなど、自分に合った方法で気持ちを落ち着かせながら活動に取り組む。 ・安心して受け入れることができる活動を増やせるよう、様々な活動の中から得意なもの、好きなものを探して選択する場面を設定する。 	・自立活動

個	教科	本単元における個別の目標	評価	メモ欄(配慮・具体的な姿など)
A	知 小2	教師の支援を受けながら、楽しく基本的な体づくり運動をすることができるようにする。	◎	(知) 教師の支援を受けながら、的に向けてボールを投げることができた。
	思 小2	基本的な体づくり運動に慣れ、その楽しさや感じたことを表現することができるようにする。	◎	(思) すべてのピンを倒そうと、何度もボールを投げることができた。
	主 小1	簡単なきまりを守り、友達とともに安全に楽しく、基本的な体づくり運動をしようとする。	◎	(主) 的に当てる、ピンを倒すなど簡単なルールを採用することで、ルールを意識しながら取り組むことができた。
B	知 小2	教師の支援を受けながら、楽しく基本的な体づくり運動をすることができるようにする。	?	
	思 小2	基本的な体づくり運動に慣れ、その楽しさや感じたことを表現することができるようにする。	?	欠席
	主 小1	簡単なきまりを守り、友達とともに安全に楽しく、基本的な体づくり運動をしようとする。	?	
C	知 小1	教師と一緒に、手足を動かしたり、歩いたりして楽しく体を動かすことができるようにする。	◎	(知) 教師の支援を受けながら、ボールを握りとることができた。
	思 小1	手足を動かしたり、歩いたりして体を動かすことの楽しさや心地よさを表現することができるようにする。	◎	(思) ストラックアウトでは、ボールを的に貼り付ける達成感を味わうことができた。
	主 小1	簡単な合図や指示に従って、体づくり運動遊びをしようとするようにする。	◎	(主) ボウリングゲームでは、教師の声掛けで、自らボールを離し、ピンに向けてボールを転がすことができた。

単元の反省(学習内容・手立て・教材・授業時数・指導形態などの視点から)
日常的には、基本的な動きを身に付けるために、個人での活動が多いが、本単元ように集団的な活動を取り入れながら、運動の楽しさを感じ取れる活動も宵と感じた。また、学年だけでなく学部のA課程全体で行えればさらに協同的な学習ができるものと感じた。

学習評価	知	思	主
	ゲーム的な要素を取り入れることにより、楽しみながら体づくり運動に取り組むことができた。	できたことや頑張ったことを称賛することで、運動の楽しさを味わうことができた。	ピンを倒すことや的に当てるなど目的意識を持たせることで、進んで取り組むことができた。

【授業シート】	学部・学年・題材／単元名	高等部3学年 A 課程 保健体育	TI	柳田 敏之			
授業日	11月14日(月)	時間	13:10~14:00	場所	3-2教室 他	本時	59時間/78時間

本単元に関わる児童生徒の実態及び授業について

自立活動では、生徒の実態に応じて、目標達成に向けて6区分27項目の中から適切に組み合わせ関連付けて具体的な指導内容を設定し、取り組んでいる。A課程の生徒は、教師のサポートがないと歩行が困難であるなど、体力的な課題があり、一定時間の運動が難しいという課題を持っている生徒が多い。この時間は、特に自立活動の「健康の保持」や「身体の動き」との関連を重視し、体力の維持・増進ができるよう、適切・適度な歩行運動等に取り組み、基礎的な動きを身に付けることができるよう、レクリエーション活動などを通して、様々な姿勢の転換、立ち上がり、移動等の運動に取り組んでいる。楽しく継続的に取り組むことができるよう授業を展開していきたい。

本時の目標	関連する単元の目標	関連する資質・能力
①運動の楽しさを感じながら、基本的な動きを身に付けることができる。 (知識及び技能)	(1), (3)	(1), (3)
②順番など簡単な約束を守り、楽しく活動することができる。 (学びに向かう力、人間性等)		

学習活動(時間)	○手立て ・留意点	準備物等
1 始めの挨拶をする。	○姿勢を正し、教師へ注目するように言葉掛けする。	・ストラックアウト ・ボーリング
2 本時の学習内容を知る。	○ストラックアウトの手順を教師が模範を示し、投げたボールがどのようになればよいかを示す。 ○投げるボールを3つ渡し、一人3球投げることを理解する。	
3 順番を指示する。	○写真カードを順番に並べ、自分の順番を理解する。	
4 ストラックアウトを行う。	○一人3球ずつ、的に向かって投げ、的に当てることができれば大いに称賛する。投げ方は、上手投げ、下手投げにこだわらず自分にあった投げ方をするよう促す。	
5 ボーリングを行う。	○教師がボールを転がし、ピンを倒すことを模範することで、ボーリングのイメージを持たせる。 ○片手投げにこだわらず、自分の転がしやすい投法で転がすよう促す。ボールを転がすことが困難な場合は、簡単なスロープを準備し使用する。 ○投げることや転がすことができる動作を経験できるようにする。	
6 終わりの挨拶をする。	○姿勢を正し、教師へ注目するように言葉掛けする。	

本時の評価 (各教科等の学習評価の視点も踏まえ)

レクリエーション的な要素を取り入れることによって、楽しみながら掴む、投げる、屈む、腕を伸ばす等の運動を行うことができた。また、ボールを投げる、ピンを倒すなど簡単なルールを提示することで、ルールを意識しながら楽しく取り組むことができた。

単元の目標		育成を目指す主な教科等の資質・能力	
①器械・器具を使った運動の楽しさや喜びに触れ、その行い方が分かり、基本的な動きや技を身に付ける。(知識・技能)	②器械・器具を使った運動についての自分の課題を見付け、その解決のための活動を考えたり、工夫したりしたことを伝える。(思考力・判断力・表現力等) ③器械・器具を使った運動に進んで取り組む、決まりを守り、友達と協力したり、場や器械・器具の安全に留意したりし、最後まで楽しく運動する。	知	① 【体:中:1】ア 器械・器具を使った運動の楽しさや喜びに触れ、その行い方が分かり、基本的な動きや技を身に付けること。
		思	② 【体:中:1】イ 器械・器具を使った運動についての自分の課題を見付け、その解決のための活動を考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えること。
		主	③ 【体:中:1】ウ 器械・器具を使った運動に進んで取り組み、決まりを守り、友達と協力したり、場や器械・器具の安全に留意したりし、最後まで楽しく運動をすること。

時	日付	主な学習内容	○手立て・留意点	教科
	7/11 9/11	マット運動 ・準備体操 ・ウォーミングアップ ・主活動	○自発的に体操ができるように、普段から行っているラジオ体操を準備体操とする。 ○足りない部分を補助体操として行い、器械運動で使用する首、手首、足首を重点的にストレッチを行う。 ○ウォーミングアップとして、日常生活でしないような運動や器械運動につながる運動を行う。 ○マット運動を行う。 ・補助運動(動物歩き) ・横転,前転	
	11/14 12/5	跳び箱 ・準備体操 ・ウォーミングアップ ・主活動	○自発的に体操ができるように、普段から行っているラジオ体操を準備体操とする。 ○足りない部分を補助体操として行い、器械運動で使用する首、手首、足首を重点的にストレッチを行う。 ○ウォーミングアップとして、日常生活でしないような運動や器械運動につながる運動を行う。 ○跳び箱を行う。 ・補助運動(踏み越し跳び,手を着いて飛び乗り・下りなど) ・開脚,閉脚	

単元の反省(学習内容・手立て・教材・授業時数・指導形態などの視点から)	
ウォーミングアップ	○器械運動につながる動きや普段行わないような運動(ジャンプ,くぐるなど)を取り入れながら、取り組んだ。楽しみながら、取り組む様子があった。→バーやコーンなど有効だった。 ○運動量を確保することができた。
マット運動	○マット運動では、横転を得意とする生徒が多く、支援なしで取り組んでいる様子だった。 ○前転を行うための補助運動(蛙跳び,ゆりかご等)を重点的に行うことで、恐怖心や発展へとつながった。 ●習熟後別にグルーピングして、個別に練習する時間を設けても良かったか。
跳び箱運動	○補助運動(歩く,またぐ,乗る)をできるように練習した。→ある程度の運動量にもつながった。 →できなかったのができるようになっている生徒もいて、活動として適当だったか。 ○自分が行う活動を選択する場面を設定したことも、自己評価につながったと思う。

個	教科	本単元における個別の目標	評価	メモ欄(配慮・具体的な姿など)
A	知	器械運動に親しみ、楽しみながら取り組むことができる。	○	跳び箱では、「歩く」「またぐ」「乗る」の補助運動を教師の示範通りに行う意識が感じられ、普段行わないような動きにも楽しみながら取り組むことができた。
	思	自分が練習したい活動を選択し、運動の幅を広げる。	◎	
	主	準備や片づけを協力して行ったり、順番を守って活動したりする。	○	
B	知	器械運動を楽しみ、基本的な技術を身につけることができる。	◎	跳び箱で、「乗る」の補助運動で、教師の示範に加え、個別に言葉掛けをすると跳び方をイメージすることができて、跳ぶことができた。列に戻るとき、スキップしていた。
	思	自分が練習したい活動を選択し、運動の幅を広げる。	◎	
	主	準備や片づけを協力して行ったり、順番を守って活動したりする。	○	
C	知	器械運動に親しみ、楽しみながら取り組むことができる。	◎	ウォーミングアップから主活動まで、全力で取り組み、とても高い意欲が感じられた。活動を選ぶ場面では、「またぐ」を選択して、チャレンジしていた。準備から片付けまで先頭にたって動いてくれた。
	思	自分が練習したい活動を選択し、運動の幅を広げる。	◎	
	主	準備や片づけを協力して行ったり、順番を守って活動したりする。	◎	
D	知	器械運動を楽しみ、基本的な技術を身につけることができる。	◎	ウォーミングアップや主活動で体を動かすことを楽しんで取り組んでいる。活動を選ぶ場面では、「歩く」を選択して、練習に取り組んだ。
	思	自分が練習したい活動を選択し、運動の幅を広げる。	◎	
	主	準備や片づけを協力して行ったり、順番を守って活動したりする。	○	
E	知	器械運動に親しみ、楽しみながら取り組むことができる。	◎	ウォーミングアップで日常生活でしないような運動を取り入れたが、諦めずに一生懸命取り組んで運動をしていた。活動を選ぶ場面でも、自分ができる活動を意思表示することができた
	思	自分が練習したい活動を選択し、運動の幅を広げる。	◎	
	主	準備や片づけを協力して行ったり、順番を守って活動したりする。	◎	
F	知	器械運動に親しみ、楽しみながら取り組むことができる。	◎	ウォーミングアップや主活動で体を動かすことを楽しんで取り組んでいる。活動を選択する場面では、自分ができる運動を、自分で判断し選び練習に取り組むことができた。
	思	自分が練習したい活動を選択し、運動の幅を広げる。	○	
	主	準備や片づけを協力して行ったり、順番を守って活動したりする。	○	
G	知	器械運動を楽しみ、基本的な技術を身につけることができる。	◎	ウォーミングアップや主活動で体を動かすことを楽しんで取り組んでいる。生徒と一緒に技に取り組むと上手に模倣することができた。
	思	自分が練習したい活動を選択し、運動の幅を広げる。	○	
	主	準備や片づけを協力して行ったり、順番を守って活動したりする。	○	
H	知	器械運動を楽しみ、基本的な技術を身につけることができる。	◎	「歩く,またぐ,乗る」の練習後に得意な「またぐ」を選択した。自信を持って取り組み、最後はポーズを決めることができた。
	思	自分が練習したい活動を選択し、運動の幅を広げる。	◎	
	主	準備や片づけを協力して行ったり、順番を守って活動したりする。	○	
I	知	器械運動を楽しみ、基本的な技術を身につけることができる。	○	教師の示範に注目させ、さらに手本となる生徒の次に並ぶことで見通しを持たせるようにしたところ、友達と同じ運動をすることができた。
	思	自分が練習したい活動を選択し、運動の幅を広げる。	○	
	主	準備や片づけを協力して行ったり、順番を守って活動したりする。	◎	

学習評価	知	マット運動や跳び箱運動を行い、補助運動を重点的に行うことで楽しさや喜びに触れ、基本的な技に親しんだり身に付けたりすることができた。
	思	取り組みたい活動を選択する場面を設定することで、自分の課題を考え、他者に伝えることができた。
	主	準備や片づけを自分たちで行うことで、道具に親しむことができ、器械・器具を安全に使用することができた。

【授業シート】	学部・学年・題材／単元名	高等部・3年・体育／器械運動	TI	富士原 真悟			
授業日	11月14日(月)	時間	13:10~14:00	場所	体育館	本時	3時間／4時間

本単元に関わる児童生徒の実態及び授業について

- B 課程に所属する10名のグループであり、運動能力や獲得した運動技術にはばらつきがある。また、情緒の安定によって、活動に支障をきたす生徒も在籍しているため、環境整備には配慮が必要。
- 器械・器具を用いて、日常生活では行わない運動を行うことで、運動能力を高める。
- 集団で運動することでの、清々しさ喜びを味わえるようにする。
- 跳び箱運動を通して、決まりやルールを守って運動することで達成感や楽しさや味わえるようにする。

本時の目標	関連する単元の目標	関連する資質・能力
○様々な跳び方に挑戦して、跳び箱に親しむ。	①②③	①②③

学習活動(時間)	○手立て ・留意点	準備物等
1 はじめのあいさつ	○TI に注視できる隊形に並ぶ。	
2 準備体操 (5分)	○自発的に体操に取り組めるように、普段から行っている「ラジオ体操」を用いる。加えて、補助体操を行う。	ラジオ体操
3 ウォーミングアップ (15分)	○様々な体勢や状態から運動することで、普段使わない部位に刺激を与え、運動の幅を広げたり、器械運動につながる運動を行ったりする。	
4 跳び箱(20分)	○安全に留意し生徒と一緒に準備・片付けを行う。 →安全に使用できるように、器具に親しむ。 ○ルールや決まりを守って、様々な方法で跳び箱を跳んで見る。 ・跳び箱の上を歩く ・片足で踏み切る→踏み越し跳び ・両足で踏み切る→またぎ乗り・降り ・両足で踏み切る→支持で飛び乗り・降り など	跳び箱 マット
5 振り返り	○感想発表	
6 おわりのあいさつ		

本時の評価 (各教科等の学習評価の視点も踏まえ)

- ・ウォーミングアップ～主活動まで、運動量は確保できたと感じた。
- ・道具を使ったことで、生徒自身も楽しみながら運動に取り組むことができていたと思う。
- ・活動を選ぶ場面を設定したことで、自己評価につなげることができたと思う。
- ・跳び箱での活動時、練習回数を増やせる時間配分が必要だったと思う。
- ・跳び箱に手を着く位置を示した目印(視覚的支援)があった方が良かった。

単元の目標		育成を目指す主な教科等の資質・能力	
(1)器械・器具を使った運動の楽しさや喜びに触れ、その使い方が分かり、基本的な動きや技を身に付けることができる。		知	(1)体育:高:1段階 B 器械運動 器械運動の楽しさや喜びを味わい、その特性に応じた技能を理解するとともに技を身に付けること。
(2)器械・器具を使った運動についての自分の課題を見付け、その解決のための活動を考えたり、工夫したりたことを他者に伝えることができる。		思	(2)体育:高:1段階 B 器械運動 器械運動についての自他の課題を発見し、その解決のための方策を工夫したり、仲間と考えたりしたことを
(3)器械・器具を使った運動に進んで取り組み、きまりを守り、友達と協力したり、場や器械・器具の安全に留意したりし、最後まで楽しく運動しようとする。		主	(3)体育:高:1段階 B 器械運動 器械運動の多様な経験を通して、きまりやルール、マナーなどを守り、仲間と協力したり、場や器械・器具の安全を確保したりし、自主的に運動をすること。

時	日付	主な学習内容	○手立て・留意点	教科
2	4/18 5/9	・準備運動や整理運動を十分に行う。 ・補助運動をする。	○体の各部位を十分にストレッチできるようにする。また、体の部位を言葉や指で示しながら行う。 ○補助運動では、体を手で支えたり、体全体を使って跳んだりする運動を行い、回転運動につながるようなことができるようにする。 ・けがに気を付けて、安全に活動を行うことができるようにする。	・体育
2	6/20 7/11	・補助運動をする。 ・横転や前転などの回転系の技に取り組む。	○方だの各部位を十分にストレッチできるようにする。また、体の部位を言葉や指で示しながら行う。 ○回転技をするときは、体を支えたり、実演したりすることで、安定した姿勢で回転ができるようにする。 ・スモールステップで行うようにする。けがに気を付け、恐怖心なく活動に取り組むことができるようにする。	・体育
2	9/12 11/14	・補助運動をする。 ・前転や開脚前転の練習をする。	○体の各部位を十分にストレッチできるようにする。また、体の部位を言葉や指で示しながら行う。 ○回転技をするときは、体を支えたり、実演したりすることで、安定した姿勢で回転ができるようにする。 ・回転するときの補助を行ったり、安全な回転の方法を実演したりすることで、けがに気を付けて活動に取り組むことができる。	・体育
1	12/5	・発表会をする。	○発表するときは、生徒へ注目するように促し、集中して見ることができるようになる。 ○発表が終わったら大いに称賛し、達成感を味わうことができるようにする。	・体育

単元の反省(学習内容・手立て・教材・授業時数・指導形態などの視点から)	
生徒一人一人の支援の方法を工夫することや TT 間での役割を明確にすることを今後の指導で考えなければいけない。一人一人が「できた。」「楽しかった。」と思うことができる授業作りを進めていき、生徒に適した支援や教材を TT 間で共有していく必要があると感じた。	

個	教科	本単元における個別の目標	評価	メモ欄(配慮・具体的な姿など)
A	知	高1 体をマットに順々に接触する感触を確かめながら、回転系の連続技を行うことができる。	○	技のポイントを示すことで、自分で考えて課題の解決に取り組もうとする姿が見られた。しかし、課題を解決するための技能も必要であると感じた。体の柔軟性、ボディイメージなど、マット運動に入る前の補助運動を十分に行う必要があった。
	思	高1 提示された動きのポイントを参考にし、自分の課題を考えることができる。	○	
	主	中2 友達の活動の良さを認めながら、マット運動の学習に積極的に取り組もうとする。	○	
B	知	高1 学習した基本技を発展させて、一連の動きで回転できる。	○	どの時間も楽しんで取り組む姿が見られた。前転は体を順々に接地して回転することができていた。開脚前転では、足を大きく開いて起き上がることを課題として練習を行った。
	思	中2 スムーズに回ることができるように体の使い方を考え、他者に伝えることができる。	○	
	主	中2 マット運動の学習に積極的に取り組もうとする。	◎	
C	知	高1 体をマットに順々に接触させて回転するための動き方や回転力を高めるための動き方を身に付けることができる。	○	課題としている動作を教師と一緒にタブレット端末で確認すると、「手の付き方はこれで良いですか。」などと自分で考えて、取り組むことができた。繰り返し練習することで、きれいに前転ができるようになった。
	思	高1 技のポイントや自分の課題について考え、課題を解決するために考えたことを実践することができる。	○	
	主	中2 安全に気を付けて、楽しんで取り組もうとする。	◎	
D	知	高1 自分の技能に適した技が繰り返し安定してできる。	○	教師から「目線のお腹に送ると回れるよ。」と言葉掛けをすると、体を順々に接地して回転できるようになってきた。また、繰り返ししゅうすることで、安定した姿勢で前転ができるようになってきた。
	思	中2 スムーズに回ることができるように体の使い方を工夫することができる。	○	
	主	中1 自分の技能に合った回転技に取り組む、マット運動の楽しさを味わおうとする。	○	
E	知	高1 体をマットに順々に接触する感触を確かめながら、一連の動きで回転できる。	◎	開脚前転では、回転がスムーズで勢いがあるものの、脚の開きが十分でないために立ち上がるのが難しかったが、教師の補助で立ち上がるできるようになった。その後は自分で脚を十分に開くよう意識して練習に取り組むことができた。
	思	中2 スムーズに回ることができるように体の使い方を考え、課題を解決するために考えたことを実践することができる。	◎	
	主	高1 安全に気を付けて、意欲的に取り組もうとする。	○	
F	知	高1 学習した基本的な技を発展させて、安定した姿勢で回転することができる。	○	動物を模倣した動きでは、体の使い方を理解し、的確に取り組むことができた。開脚前転では、回転がスムーズで勢いがあるものの、脚の開きが十分でないために立ち上がるのが難しかった。
	思	高1 提示された動きのポイントを参考にし、技のポイントや自分の課題について考えることができる。	◎	
	主	高1 安全に気を付けて取り組み、マット運動の楽しさを味わおうとする。	○	
G	知	高1 一連の動きを安定した姿勢で行うことができる。	○	示範を見ることで、体をどのように動かせば良いかイメージを持ち、ゆっくりだが正確な動きを意識して動物を模倣した動きや前転に取り組むことができた。
	思	中2 体をマットに順々に接触させて回転するための動き方を考えることができる。	◎	
	主	中2 意欲的に活動へ取り組み、マット運動の楽しさを味わおうとする。	○	
H	知	高1 自分の技能に適した技を滑らかなに行うことができる。	◎	開脚前転では、脚が床に着く前にしっかり脚を開き、両手を床に着いてお尻をあげることができた。回転もスムーズで勢いがあり、滑らかな動きで行うことができた。
	思	中2 スムーズに回ることができるように体の使い方を工夫することができる。	◎	
	主	中1 安全に気を付けて、楽しんで取り組もうとする。	○	
I	知	高1 学習した基本的な技を発展させて、一連の動きで回転できる。	○	動物の真似をする補助運動では、この補助運動が前転や開脚前転に繋がることを理解し、回転技へ繋がるように意識して、補助運動に取り組むことができた。補助運動を練習することで、前転が滑らかな動作で回転できるようになった。
	思	中2 技のポイントや自分の課題について考え、課題を解決するために考えたことを実践することができる。	○	
	主	高1 友達の活動の良さを認めながら、マット運動の学習に積極的に取り組もうとする。	◎	

個	教科	本単元における個別の目標	評価	メモ欄(配慮・具体的な姿など)
J	知	中2 体をマットに順々に接触する感触を確かめながら、一連の動きで回転できる。	○	回転するときの勢いが足りなかったため、安定した姿勢で回転することができなかった。勢いをつけて回転するための方法を提示すると、安定した姿勢で回転できるようになった。
	思	中2 提示された動きのポイントを参考にし、自分の課題を考えることができる。	○	
	主	高1 マット運動の学習に積極的に取り組もうとする。	○	
K	知	高1 学習した基本的な技を発展させて、安定した姿勢で回転することができる。	◎	体を上手に使い、前転、開脚前転を安定した姿勢で回転することができた。マットの準備や片付けのときは、グループの生徒と協力して、行うことができた。
	思	高1 技のポイントや自分の課題について考え、課題の解決のために考えたことを実践することができる。	○	
	主	中2 安全に気を付けて、楽しんで取り組もうとする。	◎	
L	知	中2 自分の技能に適した技が繰り返し安定してできる。	○	動物の動作を模倣する活動では、教師の手本をよく見て、安全に気を付けて取り組むことができた。回転技の練習では、安定した姿勢で回転することが難しい様子が見られた。教師が補助をすることで、徐々に回転技が安定するようになった。
	思	中2 スムーズに回ることができるように体の使い方を工夫することができる。	○	
	主	中2 安全に気を付けて取り組み、マット運動の楽しさを味わおうとする。	○	
M	知	高1 体をマットに順々に接触する感触を確かめながら、回転系の連続技を行うことができる。	◎	回転するときの姿勢が安定しており、滑らかな動作で前転や開脚前転をすることができた。グループの生徒の活動を見て、「〇〇君が良いですね。」などと友達の動作を称賛する姿が見られた。
	思	中2 スムーズに回ることができるように体の使い方を考え、他者に伝えることができる。	○	
	主	高1 友達の活動の良さを認めながら、マット運動の学習に意欲的に取り組もうとする。	◎	
N	知	中2 自分の技能に適した技が繰り返し安定してできる。	○	自分ができる運動は積極的に取り組む姿が見られた。動物の真似をする補助運動や横転は意欲的に行った。自分から「前転が難しいです。」と申し出て、教師と一緒に課題解決のために動作を確認することができた。
	思	高1 技のポイントや自分の課題について考え、目標を持って活動に取り組むことができる。	◎	
	主	高1 友達の活動の良さを認めながら、マット運動の学習に意欲的に取り組むことができる。	○	
O	知	中2 安定した姿勢で回転することができる。	○	難しい動作のときは、教師に「どのように動かしたら良いですか。」と自ら質問し、質問したことを自分で考えて体を動かすことができた。
	思	中1 スムーズに回ることができるように体の使い方を考えることができる。	○	
	主	中2 安全に気を付けて、意欲的に取り組もうとする。	◎	
P	知	中2 一連の動きで滑らかに回転できる。	○	自分ができる技を積極的に取り組むことができた。教師の手本をよく見たり、説明をよく聞いたりしており、動きを意識して動物を模倣した動きや前転に取り組むことができた。
	思	中1 スムーズに回ることができるように体の使い方を工夫することができる。	○	
	主	中1 マット運動の学習に積極的に取り組もうとする。	○	
Q	知	中1 安定した姿勢で回転することができる。	○	教師の手本をよく見たり、説明をよく聞いたりする姿を見ることができた。苦手としている動作も繰り返し取り組むことができた。
	思	中1 技のポイントや自分の課題について考えることができる。	○	
	主	中2 安全に気を付けて、意欲的に取り組もうとする。	○	

学 習 評 価	知	生徒一人一人が、体の使い方に応じて自分ができる回転技を身に付けることができた。
	思	タブレット端末を使用することで教師と一緒に課題を見付けることができ、その課題の解決策を自分で考えて練習に臨むことができた。
	主	グループで協力して、マットの準備、片付けに取り組むもうとする姿が見られた。また、マットの耳を折り畳むなどの安全に留意しようとすることができた。

【授業シート】	学部・学年・題材／単元名	高等部3学年C課程 器械運動「マット運動」	TI	佐藤 翔樹			
授業日	11月14日(月)	時間	13:10~14:00	場所	体育館	本時	6時間／7時間

本単元に関わる児童生徒の実態及び授業について

本単元については、好き得意と答えた理由として、「回るのが楽しいから。」「前転をすることが楽しいから。」などの積極的な理由が述べられており、嫌い苦手と答えた理由として、「首を痛めてしまったことがあるから。」「怖いから。」などの消極的な理由を述べている生徒もいる。このようなことから、マット運動へ意欲的に取り組むことができる生徒が多い反面、恐怖心や苦手意識を持っている生徒もいることが分かった。

マット運動は、個人によって「できる、できない」が顕著に出る分野である。しかし、できないことで学習意欲の湧きにくい生徒にとっても、その技に似た運動を繰り返し経験することによって、段階的に技を習得することができるようにする。また、既にできる技も練習を重ねる中で動きがより良くなっていく喜びを感じたり、新しい技に挑戦し、動きができるまで何度も練習したりすることで、できたときの達成感と喜びを感じられるようにしていく。

本時の目標	関連する単元の目標	関連する資質・能力
①自分の技能に合った回転系の技や連続技を身に付けることができる。 (知識及び技能)	(1), (2)	(1), (2)
②自分の課題に気づき、その課題に向けて工夫して活動に取り組むことができる。 (思考力、判断力、表現力等)		

学習活動(時間)	○手立て ・留意点	準備物等	
1 始めの挨拶をする。	○姿勢を正し、教師へ注目するように言葉掛けする。	・カラーマーカー	
2 本時の学習内容を知る。	○「お願いします。」の号令後に教師が「1, 2, 3」の合図を行い、タイミングを合わせて挨拶ができるようにする。		
3 マットの準備をする。	○グループごとマットを運ぶように指示をする。運び終わったら整列してる場所に戻り、座って待つように促す。	・マット	
4 準備運動をする。	○体を動かし方や伸ばし方が理解できるように端的に説明する。 ・けがを防止するために十分に準備運動をする。		
5 補助運動をする。	○補助運動のポイントを説明し、回転系の運動につながることを理解できるようにする。		
6 回転技を練習する。	○一連の動きを手本で示したり、技のポイントを一つずつ説明したりする。		
7 連続技を考える。	○前転、開脚前転の中から二つ取り入れて、最後にポーズまで行うことを説明する。		・ワークシート
8 整理運動をする。	○体を動かし方や伸ばし方が理解できるように端的に説明する。 ・けがを防止するために十分に準備運動をする。		
9 本時の振り返りをする。	○教師へ注目するように促し、落ち着いて話を聞くことができるように言葉掛けをする。		

【授業シート】	学部・学年・題材／単元名	高等部3学年C課程 器械運動「マット運動」	T1	佐藤 翔樹			
授業日	11月14日(月)	時間	13:10~14:00	場所	体育館	本時	6時間／7時間

10 マットを片付ける。	○生徒が発表するときは静かに聞くように促し、発表する環境を整える。
11 終わりの挨拶をする。	○グループごとマットを畳むように指示を行い、安全に気を付けて運ぶことができるようにする。

本時の評価 (各教科等の学習評価の視点も踏まえ)

- ・マットの耳を折り畳むなど、安全に留意してマット運動に取り組むことができた。
- ・月に1回のマット運動であるため、準備運動や補助運動を十分にを行い、主運動の時間も十分に確保することができた。

(以下は任意で記入)

主な教材教具	場の設定
<ul style="list-style-type: none"> ・カラーマーカー ・マット ・ワークシート 	